

2007年度 基幹理工学研究科要項

早稻田大学大学院
基幹理工学研究科

早稻田大学校歌

相馬 東儀 御風 鉄笛 作詞
作曲

Moderato

The musical score consists of eight staves of music in G major, 2/4 time. The lyrics are written below each staff. The first staff begins with 'み や こ の せ い ほ く わ せ だ の の も う も り し り お は そ ひ こ'.

Below the score, the lyrics continue in three-line stanzas:

- び ゆ る い う か は く わ が ぼ こ う う わ い つ
と ゆ に の ふ る と わ い れ こ ば く う う だ あ
- ら が ひ ご ろ の ほ う ふ い を し た や し わ お
な ま し し め ん に な と い は て わ た れ る ど
- し ゆ が せ い く な じ ん は く が く く し ひ つ ざ り
ら ぐ ゆ お じ な じ き そ は そ そ ひ か し が い が
- せ て こ を わ く そ す お ろ れ ん え ぬ の て く り そ 一 お う う う か
も え そ ろ ろ ん え の て そ そ そ う う う は に あ わ
- や ね く く わ て は れ ん こ ら か う が に の く が お て は ば み し た よ か え や ん ん わ せ
ら が て は こ う が に の く が お て は ば み し た よ か え や ん ん わ せ

The final staff ends with a repeating 'だ わ せ だ' followed by a dynamic ff.

二.

都の西北早稲田の森に
聳ゆる甍はわれらが母校
われらが日ごろの抱負を知るや
現世を忘れぬ久遠の理想
かがやくわれらが行手を見よや
わせだわせだわせだわせだ
わせだわせだわせだ

東西古今の文化のうしほ
一つに渦巻く大島国の大なる使命を担ひて立てる
われらが行手は窮り知らず
やがても久遠の理想の影は
あまねく天下に輝き布かん
わせだわせだわせだわせだ
わせだわせだわせだ

三.

あれ見よかしこの常盤の森は
心のふるさとわれらが母校
集まり散じて人は変れど
仰ぐは同じき理想の光
いざ声そろへて空もとどろに
われらが母校の名をばたたへん
わせだわせだわせだわせだ
わせだわせだわせだ

紺碧の空

住 治男 作詞
古関 裕而 作曲

こんぺきのそーら あおぐにちりん
こうきあまねきでんとうのもと
すぐりしせい一えいとうしはー
もーえーてりそうのおうざをしむ
るものわれらわせだわせ
だ は しゃは しゃわせだ

紺碧の空	仰ぐ日輪
光輝あまねき	伝統のもと
すぐりし精銳	闘志は燃えて
理想の王座を占むる者	われ等
早稲田	
霸者	

二.

青春の時	望む栄光
威力敵無き	精華の誇
見よこの陣頭	歓喜あふれて
理想の王座を占むる者	われ等
早稲田	
霸者	

一.

紺碧の空	仰ぐ日輪
光輝あまねき	伝統のもと
すぐりし精銳	闘志は燃えて
理想の王座を占むる者	われ等
早稲田	
霸者	

早稲田の栄光

岩崎 嶽 作詞
西條 八十 補作
芥川也寸志 作曲

d = 104

えーいこうはみどりのかぜにはなひらく
わかきひのうたかさねきしれきしどうとく
うけつぎて一かがやくわせだわせ
だわせだわれらのわせだ

- 一. 栄光はみどりの風に
花ひらく若き日の歌
重ね来し歴史尊く
承け継ぎて輝く早稲田
早稲田 早稲田 我らの早稲田
- 二. ふり仰ぐ時計の塔に
青春の眸は澄みて
雲と湧く文化の理想
担い立つ我等たくまし
- 三. 昂然と高張る胸に
伝統の息吹通いて
翻えす校旗の紅に
感激の血潮は沸る
- 早稲田 早稲田 我らの早稲田
- 四. 先哲の面影偲ぶ
なつかしき真理の杜を
彩るは七色の虹
とこしえに輝く早稲田
早稲田 早稲田 我らの早稲田

この要項は、学業を進めていくうえで必要不可欠な基本的な事項を収録したものであり、修了時まで使用するので紛失しないように十分に注意すること。

履修や学生生活に必要な情報はほぼ網羅されているので、日常的に確認し、わからないことがある場合にはこの要項をよく読むこと。

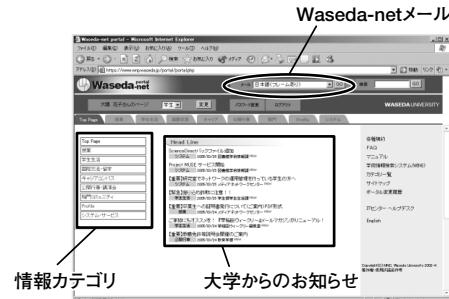
なお、本学ではホームページを開設し、インターネットを通じた情報発信を行っている。
アクセス方法は次ページの通りなので、常時確認すること。

Waseda-netポータル／Waseda-netメール

早稲田大学の学生・教職員・校友が共通して利用する基盤システムで、この「ポータル（玄関）」からログインすることにより、利用者の資格、属性に応じたサービスや情報を得ることができる（授業の科目登録、試験、レポートなど履修に関することや、講演会やセミナー、シンポジウム、公開行事の案内など）。

Waseda-netメールはWebブラウザがあれば、どこでも利用できるWebメールサービス。このアドレスは卒業してからも使用できる。

<https://www.wnp.waseda.jp>

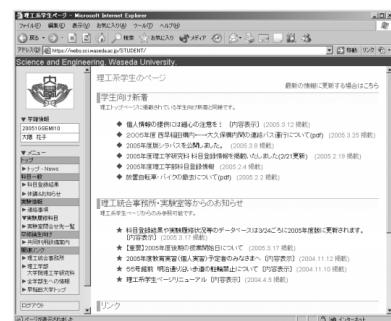


ログインには、入学時に登録手続きを行う
Waseda-netのIDとパスワードが必要。

理工系学生ページ

「理工系学生ページ」は、理工学術院が授業支援などのために独自に作成しているページ。Waseda-netポータルにログインし、左メニューから「理工系学生ページ」を選択して参照する。このページでは、科目登録結果、休講情報などの個人向けの情報を閲覧することができる。

最低でも週に1回はチェックすること。



理工系学生ページ

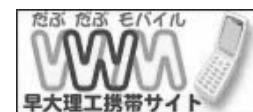
理工学術院ホームページ

理工学術院から発信される各種情報を掲載している。科目登録情報や奨学金情報など重要な情報が随時更新される。

<http://www.sci.waseda.ac.jp/>

携帯電話対応Webサイト

携帯電話対応Webサイト「WWWモバイル」を開設している。理工学術院からの連絡や休講情報、講演会情報、端末室の利用状況などを携帯電話を利用して時間や場所を問わず参照することができる。休講情報を参照するためにはアクセス・コードが必要。アクセス・コードは「理工系学生ページ」で確認すること。



携帯電話対応Webサイト「WWWモバイル」のQRコード

CONTENTS

I 基幹理工学研究科の特徴	1
II 基幹理工学研究科の沿革と概要	3
III 基幹理工学研究科要項	7
1 履修方法	7
2 学位	8
3 先取り履修制度	8
4 後取り履修制度	8
5 コア科目・推奨科目	9
6 隔年講義等	9
7 特定課題演習・実験	9
8 寄付講座・提携講座	9
9 インターンシップ	10
10 学費の納入と抹籍	10
11 共通科目の学科目配当表	13
12 各専攻の学科目配当表	14
数学応用数理専攻	14
情報理工学専攻	26
機械科学専攻	37
13 教員免許状の取得方法	44
14 履修科目の登録	46
15 授業時間帯	46
16 成績の表示	46
17 科目等履修生	47

I 特徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付録

I	特 徴
II	沿革と概要
III	研究科要項
IV	学生生活
V	付 錄

IV 学生生活 49

1	学生の手帖 (Compass)	49
2	理 工 学 術 院 お よ び 基 幹 理 工 学 研 究 科 ホ ー ム ペ ー ジ	49
3	学籍番号	49
4	学生相談	49
5	就職	52
6	学生証	53
7	各種証明書類の交付	53
8	各種願・届の提出	54
9	奨学金制度	56
10	掲示	56
11	教室・共通ゼミの使用	59
12	学生の課外活動	59
13	安全管理	60
14	海外留学等	61
15	理工リエゾンオフィス	62
16	禁煙キャンパス	62
17	自転車、バイクおよび自動車の通学利用禁止	63
18	理 工 学 図 書 館 ・ 学 生 読 書 室	63
19	LL・MM教室	64
20	コンピュータ・ルーム	65
21	総合健康教育センター大久保分室	66
22	交通機関のストライキと授業	67
23	気象警報の発表と授業休講等の措置	68

V 付 錄 71

1	早稲田大学大学院学則（抜粋）	71
2	早稲田大学学位規則（抜粋）	79
3	大学院外国人特別研修生に関する規程	82
4	大学院科目等履修生に関する規程	84
5	大学院研究生に関する規程	85
6	基幹理工学研究科の理念・目的・教育目標とそれに伴う人材養成等の目的	86
7	早分かりURL・電話番号	87
8	キャンパスマップ	88
9	時間割作成用紙	90

I 特 徵

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 錄

I

基幹理工学研究科の特徴

基幹理工学研究科のめざすところ

科学技術の領域は飛躍的に大きな広がりを呈し、それに対応して、そのそれぞれの領域は深化・分化してきた。大学における教育研究体制もこれに呼応した形で発展してきた。しかしながら、それぞれの専門分野の一層の発展と同時に、新しい価値観の創造、新しい科学技術分野あるいは学問分野の開拓が強く求められる時代を迎えた。これにともない、改めて地球規模で考え方行動し、新しい時代を切り拓く人材を育成する教育研究の展開が求められることとなった。

本基幹理工学研究科では、人文・社会学系の素養の上に科学技術の基幹となる数学をはじめとする理工系の素養を身に付け、その上で現在の科学技術さらには新たに展開される次世代の社会を支える科学技術の基幹を担う数理科学、情報科学、機械科学、材料科学、電子光科学、表現科学等の基礎を修得し、さらにこの基礎のそれぞれ専門分野での展開を学ぶ学部教育に継続したかたちで教育研究が進められる。そして、そこでは専門分野の深化・分化に貢献するばかりでなく、新しい分野にも創造的に取り組む能力を備えた研究者・高度専門科学技術者の育成を基本理念とする。

新しい時代の科学技術

文明の潮流に科学技術が大きなかかわりをもって久しい。そして、科学技術は種々の意味で人類の可能性を大きく広げると同時に、いわゆる豊かな社会の実現に大きく貢献してきた。しかしながら、その反動として地球環境問題をはじめとする負の遺産に直面することになった。この結果、科学技術はこの課題を背負いつつ、大量生産・大量消費・大量廃棄型社会から持続可能な社会の実現に向かって大きく舵をとらなければならない時代を迎えたと言っても過言ではない。

このような状況の中で科学技術に関する広い知識と、人文・社会科学系の知を含む幅広い教養を備え、将来への洞察力をもち新しい時代を切り拓く人材の育成が今求められている。

また同時に、学問の枠組み・意味さらには学問とその活用の関係を新しい時代に対応して再構築することが大きな時代の要請となってきた。

そこで、本研究科では社会を支えるキー・テクノロジーである物質・材料、エネルギー、情報に関する基礎的科学技術とその根幹にある数学および両者の掛け橋となる応用数理を軸に据えつつ、各専門分野での教育研究を展開し、各専門分野あるいは新しい学問領域に取り組む能力を涵養し、新しい時代を切り拓き世界で活躍しうる人材の育成をめざす。

次世代を担う研究者・高度専門科学技術者の育成

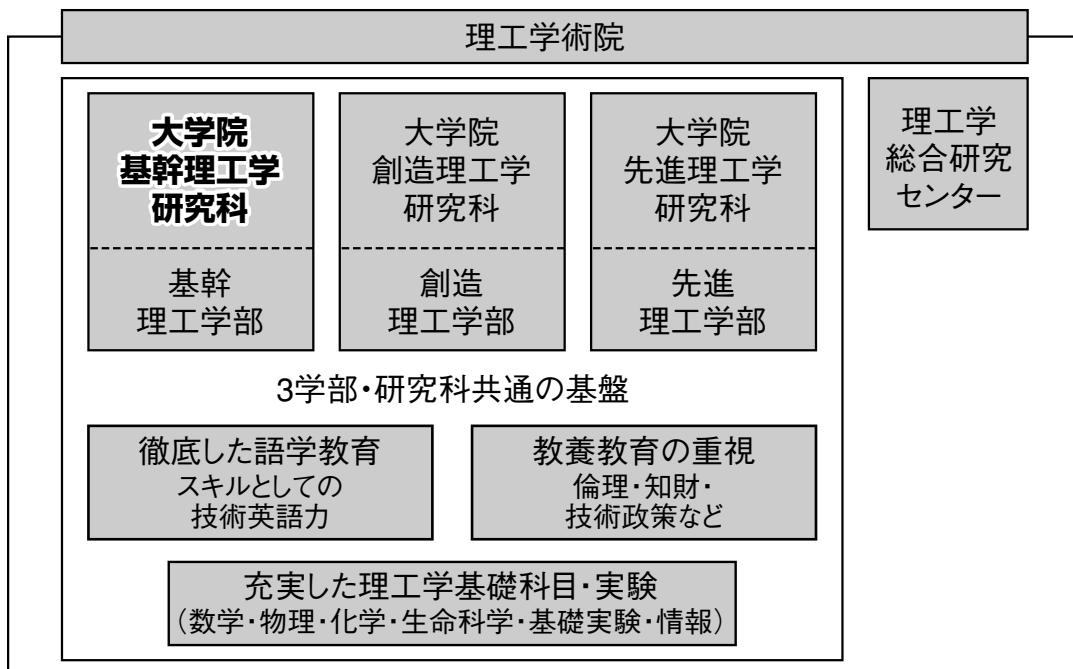
大学院修士課程では、研究指導を受ける研究室を中心とする教育研究活動を通じて基礎と応用を学びつつテーマに取り組むことによって研究能力・問題解決能力を身に付けることができる。そこでは学ぶという受動的な学習姿勢から自らテーマに取り組み問題を解決し成果をまとめるという能動的な学習姿勢への転換が行われる。かくして、次世代を担う研究者・高度専門科学技術者としてのスタートを切ることが可能となる。

さらに高度で専門的な理論および応用について研究しその深奥を究めようとする者は博士後期課程に進

学することになる。この場合、修士課程における研究の展開にともなって志望する分野が変更される場合については、理工学術院内の創造理工学研究科、先進理工学研究科あるいは大学院国際情報通信研究科等の博士後期課程への進学も可能である。(受け入れ側の了解は必要である。)

なお、博士後期課程を修了するためには3年以上在学することが必要条件となるが、優れた研究業績を上げた者については研究科運営委員会が認めた場合に限りこの課程に1年以上在学すれば足りることになっている。

〈理工学術院 組織構成〉



I 特 徵

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 錄

II

基幹理工学研究科の沿革と概要

沿革

1920年2月(大正9年) 大学令による大学となる

大学院新設

1951年4月(昭和26年) 工学研究科(機械工学, 電気工学, 建設工学, 鉱山及金属工学, 応用化学の5専攻)の修士課程を設置

堤 秀夫工学研究科委員長就任

11月 堤 秀夫工学研究科委員長再任

1953年3月(昭和28年) 工学研究科(機械工学, 電気工学, 建設工学, 鉱山及金属工学, 応用化学の5専攻)の博士課程を設置

1954年3月(昭和29年) 応用物理学専攻の修士課程を設置

9月 伊原貞敏工学研究科委員長就任

1956年9月(昭和31年) 青木楠男 //

1957年10月(昭和32年) 早稲田大学創立75周年

1958年9月(昭和33年) 山本研一工学研究科委員長就任

1960年9月(昭和35年) 宮部 宏 //

1961年3月(昭和36年) 工学研究科を理工学研究科と改称

9月 数学専攻の修士課程, 博士課程および応用物理学専攻の博士課程を設置

1962年9月(昭和37年) 難波正人理工学研究科委員長就任

10月 早稲田大学創立80周年

1964年9月(昭和39年) 難波正人理工学研究科委員長再任

1965年4月(昭和40年) 機械工学専攻に機械工学専門分野・工業経営学専門分野を, 電気工学専攻に電気工学専門分野・通信工学専門分野を, 建設工学専攻に建築学専門分野・土木工学専門分野を, 鉱山及金属工学専攻に資源工学専門分野・金属工学専門分野を設置

1966年9月(昭和41年) 岩片秀雄理工学研究科委員長就任

1968年9月(昭和43年) 葉山房夫 //

1970年9月(昭和45年) // 再任

1972年4月(昭和47年) 鉱山及金属工学専攻を資源及金属工学専攻と改称

9月 並木美喜雄理工学研究科委員長就任

1973年4月(昭和48年) 応用物理学専攻を物理学及応用物理学専攻と改称

1974年9月(昭和49年) 並木美喜雄理工学研究科委員長再任

1976年4月(昭和51年) 学則改正

電気工学専攻のうちの通信工学専門分野を電子通信学専門分野と改称

9月 斎藤 孟理工学研究科委員長就任

1978年9月(昭和53年) // 再任

1980年9月(昭和55年) 加藤一郎理工学研究科委員長就任

1981年4月(昭和56年) 研究生制度新設

委託学生を委託研修生に特殊学生を一般研修生に改称

I 特徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付録

I 特 徴	1982年 9月(昭和57年)	加藤一郎理工学研究科委員長再任
II 沿革と概要	10月	早稲田大学創立100周年
III 研究科要項	1983年 4月(昭和58年)	応用化学専攻に応用化学専門分野・化学専門分野を設置
IV 学生生活	7月	特別選考制度による学生募集開始(昭和59年度生より)
V 付 錄	1984年 9月(昭和59年)	堀井健一郎理工学研究科委員長就任
	1986年 9月(昭和61年)	// 再任
	1988年 4月(昭和63年)	資源及金属工学専攻を資源及材料工学専攻と改称 ならびに同専攻のうちの金属工学専門分野を材料工学専門分野と改称
	9月	大頭 仁理工学研究科委員長就任
	1990年 4月(平成2年)	応用化学専攻のうちの化学専門分野を応用化学専攻から分離、化学専攻として設置
	9月	大頭 仁理工学研究科委員長再任
	1992年 9月(平成4年)	大井喜久夫理工学研究科委員長就任
	1994年 9月(平成6年)	// 再任
	1995年 4月(平成7年)	電気工学専攻のうちの電子通信学専門分野を電気工学から分離、電子・情報通信学専攻として設置 情報科学専攻の修士課程を設置 数学専攻を数理科学専攻と改称
	1996年 4月(平成8年)	機械工学専攻のうちの工業経営学専門分野を経営システム工学専門分野と改称 委託研修生を委託科目等履修生に一般研修生を一般科目等履修生に改称
	9月	尾崎 肇理工学研究科委員長就任
	1997年 4月(平成9年)	情報科学専攻の博士後期課程を設置
	1998年 9月(平成10年)	逢坂哲彌理工学研究科委員長就任
	2000年 9月(平成12年)	逢坂哲彌理工学研究科委員長再任
	2001年 4月(平成13年)	生命理工学専攻の修士課程、博士後期課程を設置 資源及材料工学専攻を環境資源及材料理工学専攻と改称 資源及材料工学専攻の資源工学専門分野を地球・環境資源理工学専門分野と改称 資源及材料工学専攻の材料工学専門分野を物質材料理工学専門分野と改称
	2001年 6月(平成13年)	文部科学省科学研究費 中核的研究拠点(COE)形成基礎研究費「ナノ構造配列を基盤とする分子ナノ工学の構築とマイクロシステムへの展開」(研究リーダー 大泊巖)採択
	2002年 9月(平成14年)	大場一郎理工学研究科委員長就任
	10月	21世紀COEプログラム「プロダクティブICTアカデミアプログラム」(研究リーダー 村岡洋一)および「実践的ナノ化学教育研究拠点」(研究拠点リーダー 竜田邦明)採択
	2003年 4月(平成15年)	機械工学専攻のうちの経営システム工学専門分野を機械工学専攻から分離、経営システム工学専攻として設置 建設工学専攻のうちの建築学専門分野を建設工学専攻から分離、建築学専攻と

- して設置
電気工学専攻、電子・情報通信学専攻および情報科学専攻を電気・情報生命専攻、情報・ネットワーク専攻に再編
ナノ理工学専攻の修士課程、博士後期課程を設置
- 7月 21世紀COEプログラム「超高齢社会における人とロボット技術の共生」（研究拠点リーダー 藤江正克）および「多元要素からなる自己組織系の物理」（研究拠点リーダー 石渡信一）採択
- 2004年5月(平成16年) 戰略的研究拠点育成プログラム（通称：スーパーCOE）「先端科学と健康医療の融合拠点の形成」（代表者：白井克彦総長）採択
- 9月 竜田邦明理工学研究科長就任
理工学院設置
- 2005年4月(平成17年) 環境・エネルギー専攻の修士課程を設置
- 12月 魅力ある大学院教育イニシアティブ「異分野融合型PBL－自立創造的研究者養成」（研究拠点リーダー 梅津光生）採択
- 2006年9月(平成18年) 橋本周司理工学院長就任
河合素直基幹理工学研究科長就任
理工学総合研究所と各務記念材料研究所を統合し、理工学統合研究センターを設置
- 2007年4月(平成19年) 工学研究科を基幹理工学研究科、創造理工学研究科、先進理工学研究科に再編
基幹理工学研究科には数学応用数理専攻、情報理工学専攻、機械科学専攻の3専攻を設置

概 要

大学院基幹理工学研究科は、高度にして専門的な理工学の理論および応用を研究、教授し、その深奥を究めて、文化の創造、発展と人類の福祉に寄与することを目的としている。

課 程

大学院博士課程5年を前期2年と後期3年に区分し、前期2年の課程はこれを修士課程として取り扱う。修士課程を修了するには、大学院に2年以上在学し、本研究科の定めるところの所要の授業科目について30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上修士論文の審査および最終試験に合格しなければならない。ただし優れた研究業績を上げた者については、研究科運営委員会が認めた場合に限り、この課程に1年以上在学すれば足りるものとする。修士課程を修了したものには修士（工学）、または修士（理学）の学位が授与される。

博士後期課程を修了するには、博士後期課程に3年以上在学し、本研究科の定めるところの研究指導を受けた上、博士論文の審査および最終試験に合格しなければならない。ただし優れた研究業績を上げた者については、研究科運営委員会が認めた場合に限り、この課程に1年以上在学すれば足りるものとする。博士後期課程を修了した者には、博士（工学）、または博士（理学）の学位が授与される。

専 攻

基幹理工学研究科には次の専攻が置かれている。

- 1) 数学応用数理専攻
- 2) 情報理工学専攻
- 3) 機械科学専攻

※基幹理工学研究科ではユニット制度を実施しない。

ユニット制度とは研究部門、専門部門あるいは専攻を越えてカリキュラムが組織される制度である。

I 特 徵

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 錄

III

I 特 徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 錄

基幹理工学研究科要項

1 履修方法	1. 履修方法
2 学位	2. 学位
3 先取り履修制度	3. 先取り履修
4 後取り履修制度	4. 後取り履修
5 コア科目・推奨科目	5. コア科目 推奨科目
6 隔年講義等	6. 隔年講義等
7 特定課題演習・実験	7. 演習・実験
8 寄付講座・提携講座	8. 寄附講座 提携講座
9 インターンシップ	9. インターン シップ
10 学費の納入と抹籍	10. 学費
11 共通科目の学科目配当表	11. 共通科目
12 各専攻の学科目配当表	12. 専攻別案内
数学応用数理専攻	数学応用
情報理工学専攻	情報理工
機械科学専攻	機械科学
13 教員免許状の取得方法	13. 教職免許
14 履修科目の登録	14. 科目登録
15 授業時間帯	15. 授業時間帯
16 成績の表示	16. 成績の表示
17 科目等履修生	17. 科目等履修生

1 履修方法

【修士課程】

- (1) 入学時に選択した研究指導の担当教員が指導教員となる。
- (2) 修士論文に着手するためには、各専攻の定める第1年度の必要単位を取得し、第1年度の終わりに修士論文の研究計画書を提出しなければならない。
- (3) 修士の学位を取得するためには、2年以上在学し、30単位以上を取得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者について研究科運営委員会が認めた場合に限り、1年以上在学すれば足りるものとする。
- (4) 科目履修においては、事前に指導教員に確認し、許可を得た科目のみを申請すること。
- なお、実際の申請手順等については、理工学統合事務所のホームページ上の案内を確認すること。
- (5) 科目履修条件として、科目名にI, IIを付してある学科目については、その順序に従って履修しなければならない。また、科目名にA, B, C, Dを付してある学科目については、履修の順序を特に定めない。
- (6) 演習科目的取得単位数が、各専攻の定めた制限単位を超える場合には、その超えた分については修了必要単位数に算入しない。
- (7) 講義科目的選択は、原則として自専攻内に置かれた科目の中からとするが、指導教員が認めた場合に限り、他専攻・他研究科・他学術院からも選択できる。

基幹理工学研究科内他専攻・理工学術院内他研究科・他学術院講義の扱い

(修了必要単位数に算入できる上限単位数)

専攻名	他専攻講義	理工学術院内他研究科講義	他学術院講義
数学応用数理専攻	0単位	0単位	4単位(※)
情報理工学専攻		制限なし	0単位
機械科学専攻		制限なし	0単位

*ただし、教育・総合科学学術院 教育学研究科 数学教育専攻設置の科目に限る。

- (8) 特別な事情がある場合には、関連教員の許可を得て、第2年度の始めに専門分野内で他の研究指導に移ることができる。
- (9) 修士論文の作成、その他研究一般については、指導教員の指示に従う。
- (10) 修士課程においては、4年間を超えて在学することはできない。

【博士後期課程】

- (1) 入学時に選択した研究指導の担当教員が指導教員となる。
- (2) 博士後期課程では必要取得単位数はないが、理工学術院内に設置された講義科目はその担当教員の了解のもとに聽講することができる。他研究科の講義科目についてもこれに準ずる。
- (3) 博士論文の作成、その他研究一般については、指導教員の指示に従う。
- (4) 博士後期課程においては、6年間を超えて在学することはできない。
- (5) 博士論文を提出しないで退学した者のうち、博士後期課程に3年以上在学し、かつ必要な研究指導を受けた者は、退学した日から起算して3年以内に限り博士論文を提出し最終試験を受けることができる。
- (6) 課程の修了および学位の授与については、後掲大学院学則第13条から第16条を参照のこと。

I 特 徵
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 履修方法
2. 学位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. コア科目 推奨科目
6. 逐年講義等
7. 演習・実験
8. 寄附講座 提携講座
9. インターン シップ
10. 学費
11. 共通科目
12. 専攻別内
数学応用
情報理工
機械科学
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 成績の表示
17. 科目履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

2 学位

【修士課程】

専攻名	学位（専攻分野）
数学応用数理	修士（工学）または修士（理学）
情報理工学	修士（工学）
機械科学	修士（工学）

【博士後期課程】

専攻名	学位（専攻分野）
数学応用数理	博士（工学）または博士（理学）
情報理工学	博士（工学）
機械科学	博士（工学）

3 先取り履修制度（学部4年次に履修した大学院授業科目の単位認定）

教育研究上、本研究科が有益と認めるときは、理工学術院内学部および教育学部理学科の4年次（前年度）に履修した大学院授業科目を、下表の各専攻が定める範囲内において大学院基幹理工学研究科既修得単位として認定する。

専攻名	先取り履修の認定上限単位数
数学応用数理	10単位
情報理工学	10単位
機械科学	4単位

4 後取り履修制度

教育研究上、指導教員が有益と認めるときには、各専攻・分野が定める範囲内において、理工学術院内学部、教育学部理学科の授業科目を履修し、その取得単位を修了に必要な単位（30単位）として認定することができる。

ただし、学部在籍時に取得した科目を履修申請することはできない。

また、教職専修免許および各種資格に必要な単位としては認定しない。

専攻名	後取り履修の登録上限単位数
数学応用数理	6単位 ※1
情報理工学	上限なし※2
機械科学	4単位

※1 指導教員が必要と認めた場合に限る。

※2 ただし、修了必要単位に算入できない。

5 コア科目・推奨科目

自己の所属する専攻の部門にコア科目、推奨科目が設置されている場合は、それぞれの履修方法に従つて科目を履修すること。

I 特 徵
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

数学応用数理専攻

コア科目は設置しない。

数学応用数理専攻に設置されている
全ての講義科目を推奨科目とする。

情報理工学専攻

コア科目・推奨科目とも設置しない。

1. 履修方法
2. 学位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. コア科目
推奨科目
6. 隔年講義等
7. 演習・実験
8. 寄附講座
提携講座
9. インターン
シップ
10. 学費
11. 共通科目
12. 専攻別案内

機械科学専攻

コア科目は設置しない。

機械科学専攻に設置されている
全ての講義科目を推奨科目とする。

6 隔年講義等

授業科目の前に付した△印は隔年講義、※印は本年度休講を表す。

7 特定課題演習・実験（4単位）

科学・技術の急速な発展に対応し、各専攻が必要に応じて企画して行なう特定のトピックスに関するゼミナールまたは実験である。当該分野で集中講義、集中ゼミナールなどと明示してある年度に限り選択できる。

13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 成績の表示
17. 科目等履修

8 寄附講座・提携講座

早稲田大学では、教育研究の質的向上・発展に寄与することを目的として学術研究提携等を行っている。その際、大学の主体性と独自性を堅持するため、次の「ガイドライン」を制定している。

1. 学問の自由および独立を守ること。
2. 世界の平和および人類の福祉に貢献する研究を行うものとし、軍事研究および軍事開発は行わないこと。
3. 本大学における研究活動の発展および教育の向上に寄与すること。
4. 研究成果の公表を禁止された秘密研究は行わないこと。ただし、研究成果の公表時期に関する研究委託者または共同研究者との信頼関係に基づく合理的な制約は、この限りでない。
5. 社会的に公正であること。
6. 関連資料を開示の上、民主的な手続きに基づき、提携等に関する意思決定を行うこと。

また、このガイドラインを正しく運用していくため、大学は、「学術研究提携等審査委員会」を設置して、個々の提携等を審査している。

以下の寄附講座・提携講座は、このような学術研究提携等の一環として上記の審査を経て設置されたものである。

2007年度 基幹理工学研究科「寄附講座」「提携講座」一覧

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

科目名	寄附・提携団体	設置専攻名
SoC設計技術A		
SoC設計技術B	株式会社半導体理工学研究センター	共通
SoC設計技術C		
年金数理概論	社団法人日本年金数理人会	共通
航空機産業の現在と未来（予定）	エアバス・ジャパン株式会社	機械科学

9 インターンシップ

夏季および春季休業期間中に、関連の企業や研究所において、学習したことが実際の生産現場等でどのように活用されているのかを見聞し体得する。

評価については、受け入れ先からの報告と学生の研修レポートおよびプレゼンテーション等を総合的に判断して行い、基準以上の評価を得た者に2単位が与えられる。

海外における研修および理工学基礎実験のTA（ティーチングアシスタント）も対象とする。

(注意) 事前に理工学統合事務所にインターンシップ参加申請書を必ず提出すること。このことにより「学生教育研究災害傷害保険（早稲田大学の正規学生は全員対象）」の対象となる。（死亡保険金、後遺症損害保険金）

また「学生教育研究損害賠償責任保険（大学が認めたインターンシップでの活動中に他人に怪我をさせたり、他人の財物を損壊した場合の損害賠償責任を補償する制度。1年間400円）」への加入を原則とする。

10 学費の納入と抹籍

(1) 納入期日

学費はそれぞれの年度において、次の期日までに納入しなければならない。

	納入期限
前期学費	4月15日
後期学費	10月1日

- 1. 履修方法
- 2. 学位
- 3. 先取り履修
- 4. 後取り履修
- 5. コア科目
推奨科目
- 6. 届年講義等
- 7. 演習・実験
- 8. 寄附講座
提携講座
- 9. インターン
シップ
- 10. 学費
- 11. 共通科目
- 12. 専攻別内訳
- 数学応数
- 情報理工
- 機械科学
- 13. 教職免許
- 14. 科目登録
- 15. 授業時間帯
- 16. 成績の表示
- 17. 科目等履修生

(2) 2007年度入学者学費

【修士課程】

※正規の課程で本大学学部および大学院に入学金を納めた者が入学する場合は、入学金が免除になる。

		1年度		2年度	
		入学時	後期	前期	後期
入 学 金		260,000	—	—	—
授 業 料		354,000	354,000	356,000	356,000
施 設 費		75,000	75,000	75,000	75,000
実 験 演 習 料	数学応用数理専攻	35,000	35,000	35,000	35,000
	情報理工学専攻	40,000	40,000	40,000	40,000
	機械科学専攻	48,000	48,000	48,000	48,000
学 生 健 康 保 険 組 合 費		6,000	—	—	—
合 計	数学応用数理専攻	730,000	464,000	466,000	466,000
	情報理工学専攻	735,000	469,000	471,000	471,000
	機械科学専攻	743,000	477,000	479,000	479,000
年 額 合 計	数学応用数理専攻	1,194,000		932,000	
	情報理工学専攻	1,204,000		942,000	
	機械科学専攻	1,220,000		958,000	

単位(円)

【博士後期課程】

※正規の課程で本大学学部および大学院に入学金を納めた者が入学する場合は、入学金が免除になる。

		1年度		2年度		3年度	
		入学時	後期	前期	後期	前期	後期
入 学 金		260,000	—	—	—	—	—
授 業 料		293,500	293,500	293,500	293,500	293,500	293,500
施 設 費		40,000	40,000	40,000	40,000	—	—
実 験 実 演 料	数学応用数理専攻	35,000	35,000	35,000	35,000	35,000	35,000
	情報理工学専攻	40,000	40,000	40,000	40,000	40,000	40,000
	機械科学専攻	48,000	48,000	48,000	48,000	48,000	48,000
学 生 健 康 保 険 組 合 費		9,000	—	—	—	—	—
合 計	数学応用数理専攻	637,500	368,500	368,500	368,500	328,500	328,500
	情報理工学専攻	642,500	373,500	373,500	373,500	333,500	333,500
	機械科学専攻	650,500	381,500	381,500	381,500	341,500	341,500
年 額 合 計	数学応用数理専攻	1,006,000		737,000		657,500	
	情報理工学専攻	1,016,500		747,000		667,000	
	機械科学専攻	1,032,000		763,000		683,000	

単位(円)

I 特 徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 錄

1. 履修方法

2. 学位

3. 先取り履修

4. 後取り履修

5. コア科目
推奨科目

6. 年次講義等

7. 演習・実験

8. 寄附講座
提携講座

9. インターン
シップ

10. 学費

11. 共通科目

12. 専攻別案内

13. 教職免許

14. 科目登録

15. 授業時間帯

16. 成績の表示

17. 科目履修登録

所定年限以上在学する学生の学費取り扱いについては、下記表を参照すること。

	授 業 料	施 設 費	実 験 演 習 料
研究指導のみが残っている者	所定額の50%	所定額の1/2 ※ 博士後期課程は 徴収しない	所定額 ※該当者のみ
修了必要単位の合計からの不足単位数はあるが 研究指導は修了している者			
修了必要単位の合計からの不足単位数が14単 位以下で研究指導と授業科目を履修している者	所定額の70%		
修了必要単位の合計からの不足単位数が15単 位以上で研究指導と授業科目を履修する者	所定額		

1. 履修方法

2. 学位

3. 先取り履修

4. 後取り履修

5. コア科目
推奨科目

6. 届年講義等

7. 演習・実験

8. 寄附講座
提携講座9. インターン
シップ

10. 学費

11. 共通科目

12. 専攻別案内

数学応数

情報理工

機械科学

13. 教職免許

14. 科目登録

15. 授業時間帯

16. 成績の表示

17. 科目等履修生

(3) 納入方法

学費等の納入方法は、入学手続時に選択をした「学費等振込用紙」での振込、もしくは、郵便局を含む全国の金融機関指定口座からの口座振替のいずれかになる。この口座は、入学手続時に申請したものである。なお、口座振替の場合、事前に「口座振替のお知らせ」が学費負担者宛てに送付されるので、必ず確認をすること。また、金融機関や口座等に変更が生じた場合は、すぐに理工学統合事務所に申し出ること。

学費は、それぞれ指定の期日までに納入しなければならないが、特別な事情でそれが不可能な場合は、学費延納を認められる事がある。詳細については理工学統合事務所に相談すること。

(4) 抹 簿

学費の納入を怠った場合は抹籍（本学学生の身分を失う）となり、学費が納入された学期末に遡って退学となる。この場合、在学年数および成績の一部が無効となる。なお、特別の事情により自動的に抹籍となる日（以下参照）以前に離籍を希望する場合は、理工学統合事務所へ相談すること。

	納 入 期 限	自 動 的 に 抹 簿 と な る 期 日	退 学 と み な す 期 日
前 期 学 費	4月15日	9月20日	3月31日
後 期 学 費	10月1日	翌年3月31日	9月20日

11 共通科目の学科目配当表

理工学院3研究科（基幹理工学研究科、創造理工学研究科、先進理工学研究科）の共通科目を以下の通り設置する。

学科目名	担当教員	単位	毎週授業時間数		担当	
			前期	後期	研究科	専攻
現代数学概論A	小松 啓一	2	2	0	数学応用数理	
現代数学概論B	村上 順	2	2	0		
現代数学概論C	高橋 秀慈	2	0	2		
現代数学概論D	北田 韶彦、高橋 大輔	2	0	2		
現代数学概論E	鈴木 武	2	0	2		
数学史特論	高橋 秀裕	2	2	0		
数学と文化史特論	坂口 勝彦	2	0	2		
年金数理概論	鈴木 武、清水 時彦、 井上 修二、枇杷 高志	2	0	2		
SoC設計技術A	柳澤 政生、山名 早人、 笠原 博徳、戸川 望、 木村 啓二 他	2	0	2		
SoC設計技術B	柳澤 政生、山名 早人、 笠原 博徳、戸川 望、 木村 啓二 他	2	2	0		
SoC設計技術C	柳澤 政生、山名 早人、 笠原 博徳、戸川 望、 木村 啓二 他	2	2	0		
自然エネルギー論	宿谷 昌則	2	0	2	建築	
環境学特論A	長沢 伸也	2	2	0		
環境学特論B	榎原 豊	2	0	2		
環境学特論C	永田 勝也、大聖 泰弘、名古屋 俊士	2	2	0		
環境学特論D	(未定)	2	0	2		
知的所有権概論A	羽片 和夫	2	0	2		
知的所有権概論B	尾崎 光三	2	0	2		
MOTのためのハイテク製品マーケット創造	大野 高裕、相澤 利彦、 中川 慶一郎、澤口 学	2	0	2		
MOTのための生産・流通システム設計	吉本 一穂、大塚 仁司、小川 健秀、 柴田 晴康、山内 秀樹、山本 貴之	2	0	集中		
MOTのためのバイオビジネス創造	清水 功雄、加藤 尚志、柳澤 政生、 儀合 敦、島田 佳宏、尾川 信之、森 有一	2	0	2		
原子核概説	鷹野 正利	2	2	0	総合機械工学	
量子力学概説	大場 一郎	2	2	4		
統計力学概説	田崎 秀一	2	2	4		
先進理工技術経営	清水 功雄	2	0	2		
技術者倫理	中村 昌允	1	集中	0		
知的所有権特論	隅藏 康一	1	集中	0		
社会技術革新学	(未定)	1	集中	0		
化学物質リスクマネージメント	(未定)	1	集中	0		
神経科学の最前線	湯浅 茂樹、中村 克樹、井上 高良、 鈴木 泰行、関口 正幸、沼川 忠広、 石橋 英俊、三宅 幸子、荒木 敏之、 西野 一三、武田 伸一、功刀 浩、 中村 俊、青木 俊介、和田 圭司、 泉 明宏、山村 隆、本田 学、 花川 隆、中原 潔	2	0	2		
生命倫理科学	浅野 茂隆	2	2	0		
総合ナノ理工学特論	ナノ理工学専攻全教員	2	2	0		
テクニカルリーディング・ライティング	アントニ ローレンス	2	2	0	英語教育センター	
テクニカルプレゼンテーション	アントニ ローレンス	2	2	0		
インターンシップ	全指導教員	◎	◎	2		

注1. ナノ理工学専攻の学生は、「総合ナノ理工学特論」を必修とする。

注2. インターンシップは、必ず実習前に、理工学統合事務所に所定の届出を行うこと。

I 特 徵

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 錄

1. 履修方法

2. 学位

3. 先取り履修

4. 後取り履修

5. コア科目
推奨科目

6. 年次講義等

7. 演習・実験

8. 寄附講座
提携講座

9. インターン
シップ

10. 学費

11. 共通科目

12. 専攻別案内

数学応数

情報理工

機械科学

13. 教職免許

14. 科目登録

15. 授業時間帯

16. 成績の表示

17. 科目履修登録

12 各専攻の学科目配当表

数学応用数理専攻

数学応用数理専攻の目的は、純粋数学・応用数学を包含した意味での数理科学の多様な分野にあらわれる問題を数学的に研究することにある。

この分野の基礎的段階では、学生各自のテーマにおいて必要となる基本的概念についての理解を深めなければならない。次の段階では、培ってきた理論や方法をそれぞれの問題に応用する能力を養わなければならない。さらに高いレベルの段階では、数理科学の未知の分野を開拓したり、未解決の問題にチャレンジするなどの研究活動を行うことになる。

数学応用数理専攻は数理論理学、代数学、幾何学、解析学、現象数理、計算数学、統計科学の7部門から構成されている。学生はいずれかの部門に所属し、各部門に設置されたコア科目を中心に履修科目を選択する。ただし、学問の性格上それぞれの部門は独立しているわけではなく、異なる部門がお互いに有機的に関連している。したがって、学生諸君も部門にとらわれることなく、バランスよく履修科目を選んで学習することが望ましい。

修士課程においては、講義の他にセミナー形式をとる演習科目が設置されており、指導教員が担当する演習科目は必修である。この演習は数学応用数理専攻の根幹をなすもので、学生は十分に準備をしてのぞまなければならない。出席者の間での研究討論を通して、テーマにたいする理解を深めることが大切である。

博士後期課程の学生は専門研究者として、主体的に研究活動を行うことができるような研究能力・姿勢を養うこととする。

数学応用数理専攻履修方法

1. 指導教員が担当する演習科目は在学年度において必ず履修しなければならない。
2. 演習科目は13単位以上履修してもその分は修了必要単位数に算入しない。
3. コア科目及び推奨科目の履修にあたっては、自己の所属する部門の指示にしたがうこと。
4. 現代数学概論A, B, D, Eは修了必要単位に算入しない。

各部門の概要

◆数理論理学部門

数理論理学は伝統的には集合論、帰納関数論、モデル論、証明論に分類されている。このうち帰納関数論はコンピュータの基礎理論とつながり、その結果証明論の一部もコンピュータの関連部門とつながりを持っている。一方、集合論は純粋数学の一分野として発展してきており、無限を対象とする純粋数学の他の分野への応用も見られる。当研究科数学応用数理専攻数理論理学部門では集合論とその応用、情報科学の基礎理論を開講している。

◆代数学部門

代数学部門における研究テーマは現在次のものからなる：代数的整数論、不定方程式論、保型函数論、可換代数学、ホモロジー代数学、数論的幾何学、幾何学的コード理論、代数幾何学。

◆幾何学部門

幾何学部門は、「多様体上の解析学」と「トポロジー」の二本の柱からなっている。

第一の柱である「多様体上の解析学」は、相対論と場の量子論の影響のもとで長足の進歩を遂げ、現代数学の中核ともいるべき巨大な分野に成長している。本部門における研究テーマは現在次のものからなる。
(a)解析多様体論, (b)接続の幾何学, (c)リ一群の表現論と等質空間上の調和解析学, (d)無限自由度の代数解析, (e)多様体上の非線形解析, である。

もう一つの柱である「トポロジー」は、現在、3次元多様体論、力学系の理論を中心として新しい展開を見せている、活気あふれる分野である。本部門における研究テーマは、(a)結び目の幾何学, (b)力学系, (c)3次元双曲多様体論, である。

◆解析学部門

解析学部門は、関数解析学、実関数論、関数方程式論を主要な研究対象としている。

関数解析学の研究では、関数環論の複素解析への応用、確率論に現れる関数空間の研究など、また実関数論では、実ハーディ空間などの種々の関数空間や補間理論の偏微分方程式への応用などを研究する。

関数方程式論では、偏微分方程式、特に非線形のものが中心課題になっており、取り扱う問題は非線形発展方程式、最適制御問題、双曲型方程式、放物型方程式、橢円型方程式、流体方程式系、変分問題等非常に多岐にわたっている。従ってこの分野を研究する学生は鮮明な問題意識を持って、幅広い選択肢から研究テーマを選ぶ必要がある。研究の手法は、オーソドックスな微積分から関数解析、非線形半群論、変分法、写像度、粘性解、フーリエ解析、分岐理論、計算機援用証明など多種多様であり、従って類似のテーマを持った教員間でも、研究方法や手段はそれぞれ異なっている。

1. 履修方法
2. 学位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. コア科目
推薦科目
6. 年年講義等
7. 演習・実験
8. 寄附講座
提携講座
9. インターン
シップ
10. 学費
11. 共通科目
12. 専攻別案内
- 数学応數
- 情報理工
- 機械科学
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 成績の表示
17. 科目等履修

◆現象数理部門

物理学など、自然科学に現れる諸現象を検討し、その中に新しい数学の芽を発見し、それを新たな数学として育てることを目的とする。具体的には非線形系の数理－反応・拡散方程式、非線型波動方程式など－、相対性理論、フラクタル構造などの物質の領域構造のトポロジー等を研究対象とする。

12. 専攻別案内
- 数学応數
- 情報理工
- 機械科学
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 成績の表示
17. 科目等履修

◆計算数学部門

計算数学部門はコンピュータを援用して数学や物理学における様々な問題を解析する場合に有効となる手法と理論（基礎から応用まで）を主な研究対象としている。

12. 専攻別案内
- 数学応數
- 情報理工
- 機械科学
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 成績の表示
17. 科目等履修

◆統計科学部門

現代は不確実性の時代であるとしばしば言われている。一見ランダムに見える現象の背後に潜む一定の法則を見いだし、それを意識的に用いて合理的かつ有効な意志決定を行うのが数理統計の目的である。

我々は偶然を支配する「確率」の基本性質、および社会・自然における様々な現象に対応した確率現象のモデル（確率過程）の構成と推測ならびにその応用に至るまで測度論的基礎を考慮しつつ展開する。さらに各種の統計データが与えられているとき、それを用いて有効な情報を抽出し、統計モデル選択、未知の確率分布に関する推定、検定、あるいは将来の事柄の予測を行う統計データ解析の基本とその応用について数理的根拠を明確にしつつ展開する。学部では理論の厳密性は第二として入門的な事柄を教えるのに対して、大学院では基礎から体系的に内容を理解できるように教育研究指導を行う。研究テーマとしては、時系列解析、多変量解析、漸近理論、決定理論、ベイズ推測、現代確率論、統計的推測に基づいた金融工学などの分野が含まれる。

(I) 研究指導

(修士課程)

部 門	研 究 指 導	担 当 教 員
数理論理学部門	集合論研究	江田 勝哉
代数学部門	整数論・数理哲学研究	足立 恒雄
	整数論研究	小松 啓一
	整数論・特殊関数研究	橋本 喜一朗
	代数的符号理論研究	近藤 庄一
	代数幾何学研究	榎 元
	代数幾何学研究	前田 英敏
	トポロジー研究	村上 順
	トポロジー研究	渡辺 展也
	代数解析学研究	上野 喜三雄
	幾何学研究	本間 泰史
	多様体上の解析学研究	郡 敏昭
	関数解析研究	田中 純一
	偏微分方程式研究	柴田 良弘
	偏微分方程式研究	山崎 昌男
	非線形偏微分方程式研究	石井 仁司, 大谷 光春
	非線形偏微分方程式研究	西田 孝明
	非線形偏微分方程式研究	西原 健二
	変分問題研究	田中 和永
	数理物質工学研究	伊藤 公久
	物質の数理構造研究	北田 韶彦
	非線形システム研究	高橋 大輔
	非線形システム研究	堤 正義
	非線形システム研究	山田 義雄
	相対論研究	米田 元
	数値解析研究	大石 進一
	数値解析研究	柏木 雅英
	数値解析研究	室谷 義昭
	情報理論研究	松嶋 敏泰
	理論計算機科学研究	守屋 悅郎
	統計数理研究	鈴木 武
	数理統計・時系列・金融研究	谷口 正信
	応用統計学研究	井上 淳

(博士後期課程)

部 門	研 究 指 導	担 当 教 員
数理論理学部門	集合論研究	江田 勝哉
代数学部門	整数論・数理哲学研究	足立 恒雄
	整数論研究	小松 啓一
	整数論・特殊関数研究	橋本 喜一朗
	代数的符号理論研究	近藤 庄一
	代数幾何学研究	楫 元
	代数幾何学研究	前田 英敏
幾何学部門	トポロジー研究	村上 順
	トポロジー研究	渡辺 展也
	代数解析学研究	上野 喜三雄
	幾何学研究	本間 泰史
	多様体上の解析学研究	郡 敏昭
解析学部門	関数解析研究	田中 純一
	偏微分方程式研究	柴田 良弘
	偏微分方程式研究	山崎 昌男
	非線形偏微分方程式研究	石井 仁司, 大谷 光春
	非線形偏微分方程式研究	西田 孝明
	非線形偏微分方程式研究	西原 健二
	変分問題研究	田中 和永
現象数理部門	数理物質工学研究	伊藤 公久
	物質の数理構造研究	北田 韶彦
	非線形システム研究	高橋 大輔
	非線形システム研究	堤 正義
	非線形システム研究	山田 義雄
	相対論研究	米田 元
計算数学部門	数值解析研究	大石 進一
	数值解析研究	柏木 雅英
	数值解析研究	室谷 義昭
	情報理論研究	松嶋 敏泰
	理論計算機科学研究	守屋 悅郎
統計科学部門	統計数理研究	鈴木 武
	数理統計・時系列・金融研究	谷口 正信
	応用統計学研究	井上 淳

I 特 徵

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 錄

1. 履修方法

2. 学位

3. 先取り履修

4. 後取り履修

5. コア科目
推奨科目

6. 年次講義等

7. 演習・実験

8. 寄附講座
提携講座9. インターン
シップ

10. 学費

11. 共通科目

12. 専攻別案内

数学応用

情報理工

機械科学

13. 教職免許

14. 科目登録

15. 授業時間帯

16. 成績の表示

17. 科目履修登録

I 特 徵
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄
1. 履修方法
2. 学位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. コア科目 推奨科目
6. 届年講義等
7. 演習・実験
8. 寄附講座 提携講座
9. インターン シップ
10. 学費
11. 共通科目
12. 専攻別案内
数学応数
情報理工
機械科学
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 成績の表示
17. 科目等履修

(II) 講義科目 科目の前に付した△印は隔年講義。※印は本年度休講を示す。

学 科 目 名	担 当 教 員	単位	毎週授業 時 間 数	
			前 期	後 期
△集合論A	江田 勝哉	4	2	2
※△集合論B	江田 勝哉	4	2	2
※△代数学特論A	衛藤 和文	2	2	0
※△代数学特論B	近藤 庄一	2	0	2
△整数論特論A	小松 啓一	2	2	0
※△整数論特論B	橋本 喜一郎	2	0	2
△数学応用数理特論A	三宅 克哉	2	2	0
△数学応用数理特論B	三宅 克哉	2	0	2
△代数幾何学A	前田 英敏	2	2	0
△代数幾何学B	楫 元	2	0	2
※△代数幾何学C	前田 英敏	2	2	0
※△代数幾何学D	前田 英敏	2	0	2
代数幾何学特論A	藤田 隆夫	2	2	0
代数幾何学特論B	藤田 隆夫	2	0	2
代数幾何学特論C	桑田 孝泰	2	2	0
代数幾何学特論D	桑田 孝泰	2	0	2
△微分幾何学A	郡 敏昭	2	0	2
※△微分幾何学B	郡 敏昭	2	0	2
微分幾何学概論A	宇田川 誠一	2	2	0
微分幾何学概論B	宇田川 誠一	2	0	2
△トポロジー特論A	村上 順	2	0	2
※△トポロジー特論B	村上 順	2	0	2
△位相幾何学特論	渡辺 展也	2	0	2
△幾何学A	本間 泰史	2	2	0
※△幾何学B	本間 泰史	2	0	2
△無限自由度の代数解析A	上野 喜三雄	2	2	0
※△無限自由度の代数解析B	上野 喜三雄	2	0	2
関数論特論A	若林 功	2	2	0
関数論特論B	若林 功	2	0	2
△Lebesgue空間とSobolev空間	伊東 裕也	2	0	2
△非線型解析入門A	堤 正義	2	0	2

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

学 科 目 名	担 当 教 員	単位	毎週授業時間数	
			前期	後期
※△非線型解析入門B	西田 孝明, 石井 仁司	2	0	2
△関数解析続論	山崎 昌男	2	0	2
※△作用素の半群	伊東 裕也, 柴田 良弘	2	0	2
△超関数とFourier変換	伊東 裕也	2	2	0
△解析特論A	大谷 光春	2	2	0
△解析特論B	石井 仁司	2	0	2
※△非線型解析特論	西原 健二	2	2	0
※△関数解析特論	田中 純一	2	2	0
△確率論特論	青木 統夫	4	2	2
△相対論特論A	米田 元	2	2	0
※△相対論特論B	米田 元	2	0	2
△計算機科学特論A	守屋 悅朗	2	2	0
△計算機科学特論B	守屋 悅朗	2	0	2
計画数学特論	武藤 滋夫	2	0	2
場の量子論	山中 由也	2	0	2
有限要素法	山本 野人	2	0	2
最適化問題	田邊 國士	2	2	0
統計的学習理論	後藤 正幸	2	2	0
ハイパフォーマンスコンピュテーション	荻田 武史	2	0	2
△統計的推測論A	久保木 久孝	2	2	0
※△統計的推測論B	久保木 久孝	2	2	0
△統計的漸近理論	鈴木 武	2	0	2
△時系列解析	谷口 正信	2	0	2
△多変量解析特論	井上 淳	2	0	2
△金融工学A	浦谷 規	2	2	0
※△金融工学B	浦谷 規	2	2	0
保険数学特論	西尾 文明	2	2	0
物質の数理構造特論A	北田 韶彦	2	2	0
物質の数理構造特論B	伊藤 公久	2	0	2
※△非線形現象の数理A	堤 正義, 山田 義雄	2	2	0
△非線形現象の数理B	山田 義雄	2	0	2
△ソリトンの数理A	高橋 大輔	2	0	2

- 1. 履修方法
- 2. 学位
- 3. 先取り履修
- 4. 後取り履修
- 5. コア科目
推奨科目
- 6. 年次講義等
- 7. 演習・実験
- 8. 寄附講座
提携講座
- 9. インターン
シップ
- 10. 学費
- 11. 共通科目
- 12. 専攻別案内
- 数学応用
- 情報理工
- 機械科学
- 教職免許
- 科目登録
- 授業時間帯
- 成績の表示
- 科目履修登録

I 特 徴	学 科 目 名	担 当 教 員	単位	毎週授業時間数	
				前 期	後 期
II 沿革と概要	※△ソリトンの数理B	高橋 大輔	2	0	2
III 研究科要項	※△特殊関数の数理A	橋本 喜一郎	2	2	0
IV 学生生活	△特殊関数の数理B	橋本 喜一郎	2	0	2
V 付 錄	△数値解析特論A	大石 進一, 中谷 祐介	2	2	0
1.履修方法	※△数値解析特論B	大石 進一, 柏木 雅英, 室谷 義昭	2	0	2
2.学位	△数値解析特論C	室谷 義昭	2	0	2
3.先取り履修	△数値解析特論D	柏木 雅英	2	0	2
4.後取り履修	△情報理論特論A	松嶋 敏泰	2	2	0
5.コア科目 推奨科目	△情報理論特論B	新家 稔央	2	0	2
6.履年講義等	暗号と情報セキュリティ	青木 和麻呂	2	2	0
7.演習・実験	符号理論特論	渋谷 智治	2	0	2
8.寄附講座 提携講座	量子情報理論	今福 健太郎	2	2	0
9.インターン シップ	偏微分方程式と漸近解析	シポ ミシェル	2	0	集中
10.学費					
11.共通科目					
12.専攻別案内					
数学応数					
情報理工					
機械科学					
13.教職免許					
14.科目登録					
15.授業時間帯					
16.成績の表示					
17.科目等履修生					

(III) 演習科目

学 科 目 名	担 当 教 員	単位	毎週授業時間数	
			前期	後期
集合論演習A	江田 勝哉	3	3	0
集合論演習B	江田 勝哉	3	0	3
集合論演習C	江田 勝哉	3	3	0
集合論演習D	江田 勝哉	3	0	3
整数論・数理哲学演習A	足立 恒雄	3	3	0
整数論・数理哲学演習B	足立 恒雄	3	0	3
整数論・数理哲学演習C	足立 恒雄	3	3	0
整数論・数理哲学演習D	足立 恒雄	3	0	3
整数論演習A	小松 啓一	3	3	0
整数論演習B	小松 啓一	3	0	3
整数論演習C	小松 啓一	3	3	0
整数論演習D	小松 啓一	3	0	3
整数論・特殊関数演習A	橋本 喜一朗	3	3	0
整数論・特殊関数演習B	橋本 喜一朗	3	0	3
整数論・特殊関数演習C	橋本 喜一朗	3	3	0
整数論・特殊関数演習D	橋本 喜一朗	3	0	3
代数的符号理論演習A	近藤 庄一	3	3	0
代数的符号理論演習B	近藤 庄一	3	0	3
代数的符号理論演習C	近藤 庄一	3	3	0
代数的符号理論演習D	近藤 庄一	3	0	3
代数幾何学A演習A	楫 元	3	3	0
代数幾何学A演習B	楫 元	3	0	3
代数幾何学A演習C	楫 元	3	3	0
代数幾何学A演習D	楫 元	3	0	3
代数幾何学B演習A	前田 英敏	3	3	0
代数幾何学B演習B	前田 英敏	3	0	3
代数幾何学B演習C	前田 英敏	3	3	0
代数幾何学B演習D	前田 英敏	3	0	3
トポロジーA演習A	村上 順	3	3	0
トポロジーA演習B	村上 順	3	0	3
トポロジーA演習C	村上 順	3	3	0

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

- 1. 履修方法
- 2. 学位
- 3. 先取り履修
- 4. 後取り履修
- 5. コア科目
推奨科目
- 6. 年次講義等
- 7. 演習・実験
- 8. 寄附講座
提携講座
- 9. インターン
シップ
- 10. 学費
- 11. 共通科目
- 12. 専攻別案内
- 数学応数
- 情報理工
- 機械科学
- 教職免許
- 科目登録
- 授業時間帯
- 成績の表示
- 科目履修登録

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄
1.履修方法
2.学位
3.先取り履修
4.後取り履修
5.コア科目 推奨科目
6.履年講義等
7.演習・実験
8.寄附講座 提携講座
9.インターン シップ
10.学費
11.共通科目
12.専攻別案内
数学応数
情報理工
機械科学
13.教職免許
14.科目登録
15.授業時間帯
16.成績の表示
17.科目等履修

学 科 目 名	担 当 教 員	単位	毎週授業 時 間 数	
			前 期	後 期
トポロジーA演習D	村上 順	3	0	3
トポロジーB演習A	渡辺 展也	3	3	0
トポロジーB演習B	渡辺 展也	3	0	3
トポロジーB演習C	渡辺 展也	3	3	0
トポロジーB演習D	渡辺 展也	3	0	3
代数解析学演習A	上野 喜三雄	3	3	0
代数解析学演習B	上野 喜三雄	3	0	3
代数解析学演習C	上野 喜三雄	3	3	0
代数解析学演習D	上野 喜三雄	3	0	3
幾何学演習A	本間 泰史	3	3	0
幾何学演習B	本間 泰史	3	0	3
幾何学演習C	本間 泰史	3	3	0
幾何学演習D	本間 泰史	3	0	3
多様体上の解析学演習A	郡 敏昭	3	3	0
多様体上の解析学演習B	郡 敏昭	3	0	3
多様体上の解析学演習C	郡 敏昭	3	3	0
多様体上の解析学演習D	郡 敏昭	3	0	3
関数解析演習A	田中 純一	3	3	0
関数解析演習B	田中 純一	3	0	3
関数解析演習C	田中 純一	3	3	0
関数解析演習D	田中 純一	3	0	3
偏微分方程式A演習A	柴田 良弘	3	3	0
偏微分方程式A演習B	柴田 良弘	3	0	3
偏微分方程式A演習C	柴田 良弘	3	3	0
偏微分方程式A演習D	柴田 良弘	3	0	3
偏微分方程式B演習A	山崎 昌男	3	3	0
偏微分方程式B演習B	山崎 昌男	3	0	3
偏微分方程式B演習C	山崎 昌男	3	3	0
偏微分方程式B演習D	山崎 昌男	3	0	3
非線形偏微分方程式A演習A	石井 仁司	3	3	0
非線形偏微分方程式A演習B	石井 仁司	3	0	3
非線形偏微分方程式A演習C	石井 仁司	3	3	0

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

学 科 目 名	担 当 教 員	単位	毎週授業時間数	
			前期	後期
非線形偏微分方程式A演習D	石井 仁司	3	0	3
非線形偏微分方程式B演習A	大谷 光春	3	3	0
非線形偏微分方程式B演習B	大谷 光春	3	0	3
非線形偏微分方程式B演習C	大谷 光春	3	3	0
非線形偏微分方程式B演習D	大谷 光春	3	0	3
非線形偏微分方程式C演習A	西田 孝明	3	3	0
非線形偏微分方程式C演習B	西田 孝明	3	0	3
非線形偏微分方程式C演習C	西田 孝明	3	3	0
非線形偏微分方程式C演習D	西田 孝明	3	0	3
非線形偏微分方程式D演習A	西原 健二	3	3	0
非線形偏微分方程式D演習B	西原 健二	3	0	3
非線形偏微分方程式D演習C	西原 健二	3	3	0
非線形偏微分方程式D演習D	西原 健二	3	0	3
変分問題演習A	田中 和永	3	3	0
変分問題演習B	田中 和永	3	0	3
変分問題演習C	田中 和永	3	3	0
変分問題演習D	田中 和永	3	0	3
数理物質工学演習A	伊藤 公久	3	3	0
数理物質工学演習B	伊藤 公久	3	0	3
数理物質工学演習C	伊藤 公久	3	3	0
数理物質工学演習D	伊藤 公久	3	0	3
物質の数理構造演習A	北田 韶彦	3	3	0
物質の数理構造演習B	北田 韶彦	3	0	3
物質の数理構造演習C	北田 韶彦	3	3	0
物質の数理構造演習D	北田 韶彦	3	0	3
非線形システムA演習A	高橋 大輔	3	3	0
非線形システムA演習B	高橋 大輔	3	0	3
非線形システムA演習C	高橋 大輔	3	3	0
非線形システムA演習D	高橋 大輔	3	0	3
非線形システムB演習A	堤 正義	3	3	0
非線形システムB演習B	堤 正義	3	0	3
非線形システムB演習C	堤 正義	3	3	0

- 1. 履修方法
- 2. 学位
- 3. 先取り履修
- 4. 後取り履修
- 5. コア科目
推奨科目
- 6. 年次講義等
- 7. 演習・実験
- 8. 寄附講座
提携講座
- 9. インターン
シップ
- 10. 学費
- 11. 共通科目
- 12. 専攻別案内
- 数学応用
- 情報理工
- 機械科学
- 教職免許
- 科目登録
- 授業時間帯
- 成績の表示
- 科目履修登録

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄
1.履修方法
2.学位
3.先取り履修
4.後取り履修
5.コア科目 推奨科目
6.履年講義等
7.演習・実験
8.寄附講座 提携講座
9.インターン シップ
10.学費
11.共通科目
12.専攻別案内
数学応数
情報理工
機械科学
13.教職免許
14.科目登録
15.授業時間帯
16.成績の表示
17.科目選択

学 科 目 名	担 当 教 員	単位	毎週授業 時 間 数	
			前 期	後 期
非線形システムB演習D	堤 正義	3	0	3
非線形システムC演習A	山田 義雄	3	3	0
非線形システムC演習B	山田 義雄	3	0	3
非線形システムC演習C	山田 義雄	3	3	0
非線形システムC演習D	山田 義雄	3	0	3
相対論演習A	米田 元	3	3	0
相対論演習B	米田 元	3	0	3
相対論演習C	米田 元	3	3	0
相対論演習D	米田 元	3	0	3
数値解析A演習A	大石 進一	3	3	0
数値解析A演習B	大石 進一	3	0	3
数値解析A演習C	大石 進一	3	3	0
数値解析A演習D	大石 進一	3	0	3
数値解析B演習A	柏木 雅英	3	3	0
数値解析B演習B	柏木 雅英	3	0	3
数値解析B演習C	柏木 雅英	3	3	0
数値解析B演習D	柏木 雅英	3	0	3
数値解析C演習A	室谷 義昭	3	3	0
数値解析C演習B	室谷 義昭	3	0	3
数値解析C演習C	室谷 義昭	3	3	0
数値解析C演習D	室谷 義昭	3	0	3
情報理論演習A	松嶋 敏泰	3	3	0
情報理論演習B	松嶋 敏泰	3	0	3
情報理論演習C	松嶋 敏泰	3	3	0
情報理論演習D	松嶋 敏泰	3	0	3
理論計算機科学演習A	守屋 悅朗	3	3	0
理論計算機科学演習B	守屋 悅朗	3	0	3
理論計算機科学演習C	守屋 悅朗	3	3	0
理論計算機科学演習D	守屋 悅朗	3	0	3
統計数理演習A	鈴木 武	3	3	0
統計数理演習B	鈴木 武	3	0	3
統計数理演習C	鈴木 武	3	3	0

学 科 目 名	担 当 教 員	単位	毎週授業時間数	
			前期	後期
統計数理演習D	鈴木 武	3	0	3
数理統計・時系列・金融演習A	谷口 正信	3	3	0
数理統計・時系列・金融演習B	谷口 正信	3	0	3
数理統計・時系列・金融演習C	谷口 正信	3	3	0
数理統計・時系列・金融演習D	谷口 正信	3	0	3
応用統計学演習A	井上 淳	3	3	0
応用統計学演習B	井上 淳	3	0	3
応用統計学演習C	井上 淳	3	3	0
応用統計学演習D	井上 淳	3	0	3

- I 特 徵
- II 沿革と概要
- III 研究科要項
- IV 学生生活
- V 付 錄

- 1. 履修方法
- 2. 学位
- 3. 先取り履修
- 4. 後取り履修
- 5. コア科目
推薦科目
- 6. 年次講義等
- 7. 演習・実験
- 8. 寄附講座
提携講座
- 9. インターン
シップ
- 10. 学費
- 11. 共通科目
- 12. 専攻別案内

- 数学応数**
- 情報理工**
- 機械科学**
- 13. 教職免許
- 14. 科目登録
- 15. 授業時間帯
- 16. 成績の表示
- 17. 科目履修登録

情報理工学専攻

情報理工学専攻では、社会活動や科学技術を推進するためのキーテクノロジーと位置付けられる、情報技術と通信技術を融合したICT (Information and Communications Technology) 系学問領域を研究・教育し、高度な専門知識を有する学生を社会に輩出することを目指している。情報理工学専攻では、情報通信、情報科学、情報工学の三つを基軸としている。

情報通信においては、社会生活のインフラストラクチャを構成する大規模な通信・放送ネットワークの整備と今後益々多種多彩な社会の要請に応えるシステムの実現が強く推し進められようとしている。通信・放送ネットワーク構築の基盤をなす情報通信に関する学問領域は、社会の要請に伴い急速に拡大かつ研究の水準が著しく向上しており、これに対応することが主要な目的となる。また、ICTが社会生活に及ぼす影響を熟慮し、情報通信倫理に裏付けされた研究分野の方向付けを明確にする目的も担っている。

情報科学では、知識情報処理、ソフトウェア工学、コンピュータ・アーキテクチャなどがコンピュータの発展と利用の推進力となっており、これらの技術は適用分野の量的拡充のみならず質的変革の時期を迎えている。すなわち、単なるハードウェアの高速化、大容量化あるいはソフトウェア技術の高度化だけでは解決されない根源的問題に直面している。例えば、人工知能に代表される知識処理に関する新たな研究分野の発展が期待されているが、この研究領域を発展させるには、従来の計算機科学の枠組みを逸脱した新たな発想と理論に基づく情報処理に関する研究が不可欠となっている。

情報工学は、情報科学と情報通信に関わる技術領域の研究と教育を担う分野であり、理論の体系化と工学への応用に関する基礎研究が主体となる。先端的研究の推進は言うまでもなく、ものづくりを重視した幅広くかつ深い見識を有する人材育成の実現を目標としており、このためには理論と応用の専門家集団による研究、教育への集中的な取り組みが必要とされる。

このように、情報通信、情報科学、情報工学は、急速な進展を遂げており、先端的な研究、教育環境を維持するためには、これら密接に関係する領域の協調無くして実現することは極めて困難である。しかも、一方での成果が基礎となって他方の発展を期するという、輪廻的な展開が必須であることが認識されている。本専攻では、コンピュータ・ヒューマン・インターラクション部門、ネットワーク部門、高度計算機構部門、ソフトウェア部門、情報アーキテクチャ部門の5分野を設け、それら分野の有機的なつながりにより、情報通信、情報科学、情報工学の統合・融合を目指している。

博士後期課程修了者については、電気メーカー、通信事業者などの研究所ならびに国の研究機関に加えて、大学などの教育機関での活躍が期待できる。また、修士課程修了者についても、上記のような研究機関に加えて、ソフトウェア開発企業などで新しいソフトウェアの開発に従事するものや、コンサルティング会社など多様な分野での活躍が予想される。

情報理工学専攻履修方法

1. 指導教員が担当する演習科目は、在学年度において必ず履修しなければならない。
2. 演習科目は13単位を超えて履修してもその分は修了必要単位数には算入しない。
3. 講義科目の選択にあたっては、指導教員の指導を受けること。
4. 情報理工学特別実験A、Bは在学年度において必ず履修しなければならない。

各分野の概要

◆コンピュータ・ヒューマン・インターフェクション部門

コンピュータを中心とした情報処理システムのハードウェア、ソフトウェア、ICT分野への応用に関する研究、教育を行っている。

具体的には、以下のような内容の研究指導を行っている。

1. マルチメディア／ハイパームディアシステム

コンピュータをより使いやすく人間に身近なものとするために画像、文字、音などの複数のメディアを使用したコンピュータが研究されている。現在は、このマルチメディア／ハイパームディア環境におけるComputer Aided Instruction (CAI), Computer Aided Learning (CAL), データベースシステムの研究を行っている。

2. 知覚情報処理

よりヒューマンフレンドリーなコンピュータを実現するためには、人間のもつ知覚情報処理機構をコンピュータ上に実現し、人間と体験空間を共有することを可能とするシステムの開発が重要である。ここでは、このようなシステムの実現を目指しており、音声認識・理解、画像理解等の研究を行っている。

3. コンピュータ応用

現在のコンピュータは全ての産業に利用されており、ICT分野への応用も無数に存在する。本研究における代表的なテーマとしては、VLSI CAD (Computer Aided Design), 電力系統解析、画像を背景とする文字列の識別及び認識、離散システムシミュレーション、航空流体解析、有限要素法、ロボット等が挙げられる。

◆ネットワーク部門

情報通信技術の急速な進歩に即した研究および教育内容に対する社会の要請に応えるべく、情報ネットワークシステム、メディアシステム等に関する研究・教育を行っている。また、通信・放送・コンピュータ融合の時代を迎え、情報に対する高度な処理と情報の効率的な伝送に関する基盤技術の確立は不可欠である点を踏まえ、画像情報と無線通信に焦点を当てた研究と教育を行っている。

具体的には、以下のような内容の研究指導を行っている。

1. 情報ネットワークシステム

ノードとリンクの構成と機能、マルチメディア情報処理と符号化、ネットワークセキュリティおよびパソコンルコミュニケーション等のシステムアーキテクチャ、プロトコルに関する研究とともに、通信と放送の融合を念頭に置いた広帯域ディジタル統合網の網制御方式と端末機能に関する研究を行う。

2. メディアシステム

ヒューマンインターフェースへの応用を目的とした、画像ならびに音声情報処理、符号化、認識等の理論とシステム応用、および移動体マルチメディアシステムに関する研究を行う。

3. 画像情報

画像の生成、変換、処理、符号化、伝送、蓄積、表示、記録等の要素技術について十分に理解させるとともに、その中から適宜最新の興味あるテーマを選択して研究指導を行う。また、これらの知識に加えて情報ネットワーク技術や画像データベースに関する知識を総合し、マルチメディア通信システムを構築する手法について研究指導を行う。

I 特 徵
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 履修方法
2. 学位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. コア科目 推奨科目
6. 年次講義等
7. 演習・実験
8. 寄附講座 提携講座
9. インターン シップ
10. 学費
11. 共通科目
12. 専攻別案内
数学応用
情報理工
機械科学
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 成績の表示
17. 科目等履修

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

4. ワイヤレスコミュニケーション（無線通信）

携帯電話、無線LAN、ディジタル放送などのワイヤレスコミュニケーションを検討対象として電波伝搬、ネットワーク構成、ディジタル伝送などの基盤技術の研究を行う。これらのワイヤレスコミュニケーションに関するすべての研究は、無線周波数帯の有効利用が究極の目的であり、具体的には、フェージングや電波干渉による信号劣化の解明と対策、多元接続方式に基づく回線割り当て法などのネットワーク構成技術およびディジタル信号処理をベースとした高能率変復調や誤り訂正に関する伝送技術などの研究項目が例として挙げられる。

◆高度計算機構部門

計算機の役割は、人間の知的能力を增幅することにある。これまで計算機は、主に定型作業を高速実行することによって人間を助けてきたが、社会において生成され流通する情報が急増するにつれ、計算機自身にもより高度で知的な作業を行わせ、人間の負担を軽減する必要性が増大してきている。高度計算機構分野では、コンピュータの機能をこのような観点から抜本的に高度化する方法を、さまざまな角度から探し、将来の情報処理環境のあり方を模索、呈示することを目標としている。

具体的には、以下のような内容の研究指導を行っている。

1. 知識情報処理

知識情報処理の基礎として、知識をはじめとする高度な情報を表現、獲得、操作するための枠組を研究する。また、それらを記述するためのプログラミング言語の理論的基礎、プログラミング技術、実行方式を探求する。実践的側面においては、大規模知識処理システムのアーキテクチャや、設計、診断、制御など各種の応用の研究を行う。さらに、高度な情報処理環境を構築するには、計算機内部の情報処理と並んで、複数の主体（人間ないしは計算機）の間の情報のやりとり、つまり通信に対して、ソフトウェア的観点から検討を加えることもきわめて重要である。本研究では、その基礎的側面として、複数主体間の通信の理論的定式化やセキュリティの問題などを研究する。

2. 学習する情報処理システム

ここでの「学習」とは、コンピュータが知識を獲得していく、一層高度な情報処理を実現していくことを意味するものである。このような学習は、情報処理システムが不良設定性や不確定性を有する場合に有効であり、感性をもつ生体に見受けられるしなやかな情報処理に通じるものである。具体的な項目としては、学習アルゴリズム、ニューロコンピューティング（コネクションズム）、そしてそれらの応用としての高度コンピュータ・ヒューマンインターフェースがあげられる。

◆ソフトウェア部門

現在の情報化社会にあって、コンピュータを制御するためのソフトウェアに対するニーズが巨大化し、その生産が追いつかない状態が久しく続いている。当分野の目的は、高信頼性かつ高性能のソフトウェアを社会の要望に応じて生産する理論的および実戦的方法を研究かつ教育することである。

具体的には、以下のような内容の研究指導を行っている。

1. プログラム設計論

計算機科学の中で理論的にもっとも美しくかつ現実的にもっとも有用な成果を達成してきた分野である。コンピュータが人間生活の隅々にまで浸透した現代社会において、コンピュータの制御に必要不可欠

なプログラムはますます重要性を増している。逐次型、並列型、決定性、および確率的なアルゴリズムに基づいたプログラムについて、実際の立場に立った設計論と解析論の研究と教育を行う。

2. ソフトウェア開発工学

良いソフトウェアを効率良く開発・保守するためには、種々の方法論やそれを支援するソフトウェア・ツール群が必要である。これらを実現するために、各種の新しい概念をもったソフトウェアの設計、実装・および、その理論的基盤の確立を主たる研究テーマとする。また、これらのソフトウェアを実行するハードウェア・アーキテクチャの開発、その設計支援、および各種の処理系についても研究を行っている。

3. 分散協調ソフトウェア

インターネット上の複数のプログラムや、機器を制御するソフトウェアなどが、相互に連携する機会が増えている。このようなソフトウェアは、協力、調整あるいは競争し合いながらも自律的に行行為を決定し、単独では容易でない機能やサービスの実現をめざしている。本技術を支える理論的基盤、知的な共同行為を実現するマルチエージェントシステムの要素技術、それを活用したネットワークシステムや社会シミュレーションの教育・研究を行う。

◆情報アーキテクチャ部門

情報処理についてネットワークおよびそのノードとなるコンピュータのハードウェアとソフトウェアを対象に、基礎から応用に至るまでの広い範囲の研究を行う。情報処理は技術の発展が速く、研究内容を例え一時的に列挙したとしても、またたく間に陳腐化してしまう。むしろ本分野では、既存の研究の枠組にとらわれない先進的なテーマを発掘することを特徴とする。

具体的には、以下のような内容の研究指導を行っている。

1. 情報アーキテクチャ設計解析

コンピュータや情報通信ネットワークシステム全体からシステム構成素子として不可欠な VLSI（超大規模集積回路）まで幅広い範囲を対象とし、それぞれの設計方法論、および、コンピュータによる設計支援手法（CAD：Computer-Aided Design）などに関して、理論的ならびに実践的な立場から研究を行う。理論的な側面としては、アルゴリズムとデータ構造、計算機プログラミング技術、計算複雑度の理論、計算幾何学、グラフ理論、組み合わせ論などの基礎的学問分野を扱う。また、実践的な立場としては、大規模ネットワーク、プリント回路、パッケージング、マルチチップ・モジュール、画像・通信処理用LSI、汎用・専用プロセッサ、アナログ機能素子などの設計（アーキテクチャ、機能合成、論理合成、レイアウト、テスト）と解析（モデルリング、シミュレーション、動作検証、信頼性、動作速度、消費電力）を対象とする。

2. 並列処理ハードウェア／ソフトウェア

現在マイクロプロセッサからスーパーコンピュータに至る全てのコンピュータの基本構築技術となっている並列処理技術に関して、アーキテクチャ、ソフトウェア（自動並列化コンパイラ、並列OS、スケジューリング等）、及び応用に関する研究を行っている。

3. 基盤ソフトウェアおよび先端的アプリケーション

オペレーティングシステム、分散ミドルウェア、ネットワークソフトウェアなどの基盤ソフトウェアに関する研究と、それらを利用することにより可能となる先端的なアプリケーションに関する研究を行っている。基盤ソフトウェア研究としてはリソース管理や抽象化に関する研究、基盤ソフトウェア開発手法、

I 特 徵
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 履修方法
2. 学位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. コア科目 推奨科目
6. 年齢講義等
7. 演習・実験
8. 寄附講座 提携講座
9. インターン シップ
10. 学費
11. 共通科目
12. 専攻別案内
数学応數
情報理工
機械科学
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 成績の表示
17. 科目等履修

セキュリティ、大規模情報管理、高信頼性、実時間性などの研究を行っている。先端的アプリケーションとしては、画像解析、音声解析などを含む先端的マルチメディアアプリケーション、Web サーチなどの超大規模データ管理アプリケーション、実世界とサイバースペースの統合を行うユビキタスコンピューティングアプリケーションに関する研究などを行っている。

(I) 研究指導

(修士課程)

部 門	研 究 指 導	担 当 教 員
コンピュータ・ヒューマン・インターフェース部門	ヒューマンインタフェース研究 知覚情報システム研究	白井 克彦 小林 哲則
ネットワーク部門	画像情報研究 ワイヤレスコミュニケーション研究 情報ネットワークシステム研究 情報システム工学研究 無線信号処理研究	甲藤 二郎 高畑 文雄 小松 尚久 後藤 滋樹 前原 文明
高度計算機構部門	環境量子情報機構研究 並列知識情報処理研究 計算知能研究	入江 克 上田 和紀 松山 泰男
ソフトウェア部門	ソフトウェア開発工学研究 ソフトウェア環境研究 知識ソフトウェア研究 情報構造研究 分散システム研究	深澤 良彰 筧 捷彦 菅原 俊治 村岡 洋一 中島 達夫
情報アーキテクチャ部門	アドバンスト・コンピューティング・システム研究 並列・分散アーキテクチャ研究 情報アーキテクチャ研究 設計解析システム研究 先端プロセッサ構成研究 情報システム設計研究	笠原 博徳 山名 早人 大附 辰夫 柳澤 政生 木村 啓二 戸川 望

- 1.履修方法
- 2.学位
- 3.先取り履修
- 4.後取り履修
- 5.コア科目
推奨科目
- 6.履年講義等
- 7.演習・実験
- 8.寄附講座
提携講座
- 9.インターン
シップ
- 10.学費
- 11.共通科目
- 12.専攻別案内
- 数学応数**
- 情報理工**
- 機械科学**
- 13.教職免許
- 14.科目登録
- 15.授業時間帯
- 16.成績の表示
- 17.科目等履修生

(博士後期課程)

部 門	研 究 指 導	担 当 教 員	
コンピュータ・ヒューマン・インターフェース部門	ヒューマンインターフェース研究 知覚情報システム研究	白井 克彦 小林 哲則	I 特 徵
ネットワーク部門	画像情報研究 ワイヤレスコミュニケーション研究 情報ネットワークシステム研究 情報システム工学研究 無線信号処理研究	甲藤 二郎 高畠 文雄 小松 尚久 後藤 滋樹 前原 文明	II 沿革と概要
高度計算機構部門	環境量子情報機構研究 並列知識情報処理研究 計算知能研究	入江 克 上田 和紀 松山 泰男	III 研究科要項
ソフトウェア部門	ソフトウェア開発工学研究 ソフトウェア環境研究 知識ソフトウェア研究 情報構造研究 分散システム研究 並列・分散アーキテクチャ研究 情報アーキテクチャ研究 設計解析システム研究 先端プロセッサ構成研究 情報システム設計研究	深澤 良彰 筧 捷彦 菅原 俊治 村岡 洋一 中島 達夫 笠原 博徳 山名 早人 大附 辰夫 柳澤 政生 木村 啓二 戸川 望	IV 学生生活
情報アーキテクチャ部門			V 付 錄
			1. 履修方法
			2. 学位
			3. 先取り履修
			4. 後取り履修
			5. コア科目 推薦科目
			6. 年次講義等
			7. 演習・実験
			8. 寄附講座 提携講座
			9. インターン シップ
			10. 学費
			11. 共通科目
			12. 専攻別案内
			数学応用
			情報理工
			機械科学
			13. 教職免許
			14. 科目登録
			15. 授業時間帯
			16. 成績の表示
			17. 科目履修登録

I 特 徵
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

(II) 講義科目 科目の前に付した△印は隔年講義。※印は本年度休講を示す。

学 科 目 名	担 当 教 員	単位	毎週授業時間数	
			前 期	後 期
ヒューマンインターフェース特論	白井 克彦	2	0	2
知覚情報システム	小林 哲則	2	2	0
画像情報特論	甲藤 二郎	2	2	0
ワイヤレス通信ネットワーク	高畠 文雄	2	0	2
情報ネットワークシステム特論	小松 尚久	2	0	2
情報ネットワーク構成特論	後藤 滋樹	2	2	0
環境量子情報論	入江 克	2	2	0
高信頼ソフトウェア	上田 和紀	2	2	0
記号とパターンの統合	松山 泰男	2	2	0
ソフトウェア基礎論特論	筧 捷彦	2	0	2
ソフトウェア開発工学特論	深澤 良彰	2	0	2
並列処理特論	村岡 洋一	2	0	2
分散組込み・リアルタイム処理	中島 達夫	2	2	0
コンピュータ・アーキテクチャ特論	笠原 博徳	2	2	0
ネットワーク・アプリケーション	山名 早人	2	0	2
デジタル集積回路	大附 辰夫	2	2	0
計算機支援設計	柳澤 政生	2	0	2
先端プロセッサ技術	木村 啓二	2	2	0
デジタルシステム設計	戸川 望	2	0	2
無線信号処理	前原 文明	2	2	0
分散協調ソフトウェア特論	菅原 俊治	2	0	2
データベース特論	福田 剛志	2	0	2
情報セキュリティ	太田 和夫	2	2	0
自然言語処理	村木 一至	2	2	0
生体情報処理	合原 一幸	2	0	2

(III) 演習科目

学 科 目 名	担 当 教 員	単位	毎週授業時間数	
			前期	後期
ヒューマン・インターフェース演習A	白井 克彦	3	3	0
ヒューマン・インターフェース演習B	白井 克彦	3	0	3
ヒューマン・インターフェース演習C	白井 克彦	3	3	0
ヒューマン・インターフェース演習D	白井 克彦	3	0	3
知覚情報システム演習A	小林 哲則	3	3	0
知覚情報システム演習B	小林 哲則	3	0	3
知覚情報システム演習C	小林 哲則	3	3	0
知覚情報システム演習D	小林 哲則	3	0	3
画像情報演習A	甲藤 二郎	3	3	0
画像情報演習B	甲藤 二郎	3	0	3
画像情報演習C	甲藤 二郎	3	3	0
画像情報演習D	甲藤 二郎	3	0	3
ワイヤレスコミュニケーション演習A	高畠 文雄	3	3	0
ワイヤレスコミュニケーション演習B	高畠 文雄	3	0	3
ワイヤレスコミュニケーション演習C	高畠 文雄	3	3	0
ワイヤレスコミュニケーション演習D	高畠 文雄	3	0	3
情報ネットワークシステム演習A	小松 尚久	3	3	0
情報ネットワークシステム演習B	小松 尚久	3	0	3
情報ネットワークシステム演習C	小松 尚久	3	3	0
情報ネットワークシステム演習D	小松 尚久	3	0	3
情報ネットワーク構成論演習A	後藤 滋樹	3	3	0
情報ネットワーク構成論演習B	後藤 滋樹	3	0	3
情報ネットワーク構成論演習C	後藤 滋樹	3	3	0
情報ネットワーク構成論演習D	後藤 滋樹	3	0	3
環境量子情報機構演習A	入江 克	3	3	0
環境量子情報機構演習B	入江 克	3	0	3
環境量子情報機構演習C	入江 克	3	3	0
環境量子情報機構演習D	入江 克	3	0	3
並列知識情報処理演習A	上田 和紀	3	3	0
並列知識情報処理演習B	上田 和紀	3	0	3
並列知識情報処理演習C	上田 和紀	3	3	0

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

- 1.履修方法
- 2.学位
- 3.先取り履修
- 4.後取り履修
- 5.コア科目
推奨科目
- 6.隔年講義等
- 7.演習・実験
- 8.寄附講座
提携講座
- 9.インターナー
シップ
- 10.学費
- 11.共通科目
- 12.専攻別案内
- 数学応数
- 情報理工
- 機械科学
- 教職免許
- 科目登録
- 授業時間帯
- 成績の表示
- 科目履修登録

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄
1.履修方法
2.学位
3.先取り履修
4.後取り履修
5.コア科目 推奨科目
6.履年講義等
7.演習・実験
8.寄附講座 提携講座
9.インターン シップ
10.学費
11.共通科目
12.専攻別案内
数学応数
情報理工
機械科学
13.教職免許
14.科目登録
15.授業時間帯
16.成績の表示
17.科目等履修

学 科 目 名	担 当 教 員	単位	毎週授業 時 間 数	
			前 期	後 期
並列知識情報処理演習D	上田 和紀	3	0	3
計算知能演習A	松山 泰男	3	3	0
計算知能演習B	松山 泰男	3	0	3
計算知能演習C	松山 泰男	3	3	0
計算知能演習D	松山 泰男	3	0	3
ソフトウェア環境演習A	筧 捷彦	3	3	0
ソフトウェア環境演習B	筧 捷彦	3	0	3
ソフトウェア環境演習C	筧 捷彦	3	3	0
ソフトウェア環境演習D	筧 捷彦	3	0	3
ソフトウェア開発工学演習A	深澤 良彰	3	3	0
ソフトウェア開発工学演習B	深澤 良彰	3	0	3
ソフトウェア開発工学演習C	深澤 良彰	3	3	0
ソフトウェア開発工学演習D	深澤 良彰	3	0	3
情報構造演習A	村岡 洋一	3	3	0
情報構造演習B	村岡 洋一	3	0	3
情報構造演習C	村岡 洋一	3	3	0
情報構造演習D	村岡 洋一	3	0	3
分散システム演習A	中島 達夫	3	3	0
分散システム演習B	中島 達夫	3	0	3
分散システム演習C	中島 達夫	3	3	0
分散システム演習D	中島 達夫	3	0	3
アドバンスト・コンピューティング・システム演習A	笠原 博徳	3	3	0
アドバンスト・コンピューティング・システム演習B	笠原 博徳	3	0	3
アドバンスト・コンピューティング・システム演習C	笠原 博徳	3	3	0
アドバンスト・コンピューティング・システム演習D	笠原 博徳	3	0	3
並列・分散アーキテクチャ演習A	山名 早人	3	3	0
並列・分散アーキテクチャ演習B	山名 早人	3	0	3
並列・分散アーキテクチャ演習C	山名 早人	3	3	0
並列・分散アーキテクチャ演習D	山名 早人	3	0	3
情報アーキテクチャ演習A	大附 辰夫	3	3	0
情報アーキテクチャ演習B	大附 辰夫	3	0	3
情報アーキテクチャ演習C	大附 辰夫	3	3	0

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄
1. 履修方法
2. 学位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. コア科目 推奨科目
6. 年次講義等
7. 演習・実験
8. 寄附講座 提携講座
9. インターン シップ
10. 学費
11. 共通科目
12. 専攻別案内
数学応用
情報理工
機械科学
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 成績の表示
17. 科目履修登録

学 科 目 名	担 当 教 員	単位	毎週授業時間数	
			前期	後期
情報アーキテクチャ演習D	大附 辰夫	3	0	3
設計解析システム演習A	柳澤 政生	3	3	0
設計解析システム演習B	柳澤 政生	3	0	3
設計解析システム演習C	柳澤 政生	3	3	0
設計解析システム演習D	柳澤 政生	3	0	3
先端プロセッサ構成演習A	木村 啓二	3	3	0
先端プロセッサ構成演習B	木村 啓二	3	0	3
先端プロセッサ構成演習C	木村 啓二	3	3	0
先端プロセッサ構成演習D	木村 啓二	3	0	3
情報システム設計演習A	戸川 望	3	3	0
情報システム設計演習B	戸川 望	3	0	3
情報システム設計演習C	戸川 望	3	3	0
情報システム設計演習D	戸川 望	3	0	3
無線信号処理演習A	前原 文明	3	3	0
無線信号処理演習B	前原 文明	3	0	3
無線信号処理演習C	前原 文明	3	3	0
無線信号処理演習D	前原 文明	3	0	3
知識ソフトウェア演習A	菅原 俊治	3	3	0
知識ソフトウェア演習B	菅原 俊治	3	0	3
知識ソフトウェア演習C	菅原 俊治	3	3	0
知識ソフトウェア演習D	菅原 俊治	3	0	3

(IV) 実験習目

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

学 科 目 名	担 当 教 員	単位	毎週授業時間数	
			前期	後期
情報理工学特別実験A	全教員	1	2	0
情報理工学特別実験B	全教員	1	0	2

- 1.履修方法
- 2.学位
- 3.先取り履修
- 4.後取り履修
- 5.コア科目
推奨科目
- 6.履年講義等
- 7.演習・実験
- 8.寄附講座
提携講座
- 9.インターン
シップ
- 10.学費
- 11.共通科目
- 12.専攻別案内

- 数学応数**

- 情報理工**
- 機械科学**
- 13.教職免許
- 14.科目登録
- 15.授業時間帯
- 16.成績の表示
- 17.科目等履修生

機械科学専攻

機械科学専攻は、自然の摂理に基づいた科学（Science）とその応用学術分野である機械工学（Mechanical Engineering）を核に据え、物理・数学を基盤として、熱流体、力学、システム、材料、設計の機械系基幹学問を教育研究することを理念とする。この理念に沿って、科学的思考法の鍛錬と、工学的センスを養成する「教育」および学界・産業界に貢献する「研究」を行うことを使命とする。また、従来の学界・産業界から厚い信頼のある基盤的分野のみならず、航空分野をさらに充実させるとともに、21世紀の未開の領域を切り開く新規分野の開拓・創設を目指す。

機械科学専攻履修方法

- 1.指導教授が担当する演習科目は、在学年度において必ず履修しなければならない。
- 2.演習科目は13単位以上履修してもその分は修了必要単位数に参入しない。

各分野の概要

◆熱流体科学部門

機械・航空分野では熱的変化を伴う非定常流れ現象を扱う機会が多い。本部門では、流体工学、熱力学をベースとして、高速・非定常流動や燃焼・反応流などに関する基礎研究を行なうと共に、機械・航空分野における応用例として、航空エンジン要素や各種ターボ機械内部での熱流体挙動を実験的・数値的に解明することを志向する。

◆力学系・応用数学部門

工学系に現れる様々な力学的現象や非線形挙動の予測や評価のために、数理的な手法を用いて、それを工学系の解析設計へ応用するための方法の確立を目的とする。具体的には、力学系の例として、柔軟宇宙構造物、宇宙ロボット、ビーカーなどの非ホロノミック系、マルチボディシステムに現れるディラック構造と陰的なラグランジュ系、さらに流体系の例として流体過渡現象、流体関連振動、超高速液体噴流、交通流などの実験・計測手法、理論解析の方法、数値計算法、最適化手法などについて吟味、検討を行う。

◆システム・環境エネルギー部門

当部門は、エネルギー動力システムをはじめとする各種システムを対象に、システムの力学的挙動を解明し、これをもとにシステムの最適設計さらには最適制御を可能とする方法論の確立を目指し、あわせて具体的なエネルギー・システムのエネルギー利用効率の向上等によって環境問題等にも貢献することを目的に、教育研究を展開する。当然、その過程で、具体的なシステムの構成要素の特性評価さらにはシステムの効率向上に関する実験研究をも行う。あわせて、計測制御工学に関する各種の研究をも行う。

◆材料設計・加工部門

機械構造部材の高強度化、軽量化、耐食・耐久性、信頼性・安全性を追求する観点から、材料力学、弾・塑性力学、構造力学、破壊力学、金属物理学、機械材料学などの学習を背景に、航空機、鉄道車両、自動車、産業機械、精密機器などにおける最適な材料設計、加工方法、評価技術、数値シミュレーションの基礎と応用研究を志向する。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 履修方法
2. 学位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. コア科目 推薦科目
6. 年次講義等
7. 演習・実験
8. 寄附講座 提携講座
9. インターン シップ
10. 学費
11. 共通科目
12. 専攻別案内
数学応數
情報理工
機械科学
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 成績の表示
17. 科目等履修

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

◆機能設計・マイクロ工学部門

高機能な新しい機械システムを実現するための解析力と設計能力の両方に優れた技術者・研究者を育成するために、機械設計、トライボロジー、精密工学、電磁力学などを教授する。さらに研究では、微細・精密で高速な精密情報機器や医療機器の開発を目指す。

(I) 研究指導

(修士課程)

部 門	研 究 指 導	担 当 教 員
熱流体科学部門	流体工学研究 熱流体科学研究	太田 有 内藤 健
力学系・応用数学部門	航空宇宙輸送システム研究 応用数学研究 応用数学研究	佐藤 哲也 山本 勝弘 吉村 浩明
システム・環境エネルギー部門	プロセス工学研究 制御工学研究 制御工学研究 機械システム制御工学研究 動力・エネルギー工学研究	河合 素直 橋詰 匠 武藤 寛 齋藤 潔 天野 嘉春
材料設計・加工部門	航空構造工学研究 材料強度学研究 複合材料工学研究 加工工学研究 凝固工学研究 材料加工研究 環境材料学研究	戸田 助 増田 千利 川田 宏之 木村 貢 中江 秀雄 浅川 基男 酒井 潤一
機能設計・マイクロ工学部門	トライボロジー研究 精密工学研究	富岡 淳 川本 広行

1.履修方法
2.学位
3.先取り履修
4.後取り履修
5.コア科目 推奨科目
6.履年講義等
7.演習・実験
8.寄附講座 提携講座
9.インターン シップ
10.学費
11.共通科目
12.専攻別案内
数学応数
情報理工
機械科学
13.教職免許
14.科目登録
15.授業時間帯
16.成績の表示
17.科目等履修生

(博士後期課程)

部 門	研 究 指 導	担 当 教 員
熱流体科学部門	流体工学研究 熱流体科学研究 航空宇宙輸送システム研究	太田 有 内藤 健 佐藤 哲也
力学系・応用数学部門	応用数学研究 応用数学研究	山本 勝弘 吉村 浩明
システム・環境エネルギー部門	プロセス工学研究 制御工学研究 制御工学研究 機械システム制御工学研究 動力・エネルギー工学研究	河合 素直 橋詰 匠 武藤 寛 齋藤 潔 天野 嘉春
材料設計・加工部門	航空構造工学研究 材料強度学研究 複合材料工学研究 加工工学研究 凝固工学研究 材料加工研究 環境材料学研究	戸田 勘 増田 千利 川田 宏之 木村 貢 中江 秀雄 浅川 基男 酒井 潤一
機能設計・マイクロ工学部門	トライボロジー研究 精密工学研究	富岡 淳 川本 広行

I 特 徵

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 錄

1. 履修方法

2. 学位

3. 先取り履修

4. 後取り履修

5. コア科目
推奨科目

6. 年次講義等

7. 演習・実験

8. 寄附講座
提携講座9. インターン
シップ

10. 学費

11. 共通科目

12. 専攻別案内

数学応数**情報理工****機械科学**

13. 教職免許

14. 科目登録

15. 授業時間帯

16. 成績の表示

17. 科目履修区分

I 特 徵
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄
1.履修方法
2.学位
3.先取り履修
4.後取り履修
5.コア科目 推奨科目
6.履年講義等
7.演習・実験
8.寄附講座 提携講座
9.インターン シップ
10.学費
11.共通科目
12.専攻別案内
数学応数
情報理工
機械科学
13.教職允許
14.科目登録
15.授業時間帯
16.成績の表示
17.科目等修生

(II) 講義科目 科目の前に付した△印は隔年講義。※印は本年度休講を示す。

学 科 目 名	担 当 教 員	単位	毎週授業時間数	
			前期	後期
連続体力学特論	山本 勝弘	2	2	0
複合材料工学特論	川田 宏之	2	2	0
塑性力学	浅川 基男	2	0	2
トライボロジー1	富岡 淳	2	2	0
トライボロジー2	富岡 淳	2	0	2
非線形力学	吉村 浩明	2	2	0
非線形有限要素法	久田 俊明	2	0	2
流体力学特論	太田 有	4	2	2
航空原動機特論	山本 孝正	4	2	2
マイクロ工学	川本 広行	2	0	2
制御系の解析設計	河合 素直	4	2	2
制御工学特論	橋詰 匠	4	2	2
制御工学	武藤 寛	2	2	0
物造り工学特論	本村 貢	4	2	2
機械システム制御工学特論	齋藤 潔	2	2	0
動力・エネルギー・システム工学特論	天野 嘉春	2	2	0
流体関連振動	太田 有, 山本 勝弘	2	2	0
数值流体工学特論	大田 英輔	4	2	2
システム応用解析	薮野 浩司	2	2	0
熱流体科学特論	内藤 健	2	2	0
航空宇宙工学特論	戸田 勘	2	0	2
材料強度学特論	増田 千利	2	0	2
凝固工学特論	中江 秀雄	2	2	0
環境材料学特論	酒井 潤一	2	0	2
高速推進工学特論	佐藤 哲也	2	2	0
航空環境技術特論	林 茂	2	2	0
損傷事例解析	木原 重光	2	0	2
Introduction to Industrial Ecology (1)	石川 雄一	2	2	0

(III) 演習科目

学 科 目 名	担 当 教 員	単位	毎週授業時間数	
			前期	後期
工学系数理演習A	山本 勝弘	3	3	0
工学系数理演習B	山本 勝弘	3	0	3
工学系数理演習C	山本 勝弘	3	3	0
工学系数理演習D	山本 勝弘	3	0	3
流体工学演習A	太田 有	3	3	0
流体工学演習B	太田 有	3	0	3
流体工学演習C	太田 有	3	3	0
流体工学演習D	太田 有	3	0	3
熱流体科学演習A	内藤 健	3	3	0
熱流体科学演習B	内藤 健	3	0	3
熱流体科学演習C	内藤 健	3	3	0
熱流体科学演習D	内藤 健	3	0	3
航空宇宙輸送システム演習A	佐藤 哲也	3	3	0
航空宇宙輸送システム演習B	佐藤 哲也	3	0	3
航空宇宙輸送システム演習C	佐藤 哲也	3	3	0
航空宇宙輸送システム演習D	佐藤 哲也	3	0	3
システム数理演習A	吉村 浩明	3	3	0
システム数理演習B	吉村 浩明	3	0	3
システム数理演習C	吉村 浩明	3	3	0
システム数理演習D	吉村 浩明	3	0	3
プロセス工学演習A	河合 素直	3	3	0
プロセス工学演習B	河合 素直	3	0	3
プロセス工学演習C	河合 素直	3	3	0
プロセス工学演習D	河合 素直	3	0	3
制御工学演習A	橋詰 匠	3	3	0
制御工学演習B	橋詰 匠	3	0	3
制御工学演習C	橋詰 匠	3	3	0
制御工学演習D	橋詰 匠	3	0	3
計測・制御工学演習A	武藤 寛	3	3	0
計測・制御工学演習B	武藤 寛	3	0	3
計測・制御工学演習C	武藤 寛	3	3	0

I 特 徵
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

- 1. 履修方法
- 2. 学位
- 3. 先取り履修
- 4. 後取り履修
- 5. コア科目
推奨科目
- 6. 年次講義等
- 7. 演習・実験
- 8. 寄附講座
提携講座
- 9. インターン
シップ
- 10. 学費
- 11. 共通科目
- 12. 専攻別案内
- 数学応用
- 情報理工
- 機械科学
- 教職免許
- 科目登録
- 授業時間帯
- 成績の表示
- 科目履修登録

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄
1.履修方法
2.学位
3.先取り履修
4.後取り履修
5.コア科目 推奨科目
6.履年講義等
7.演習・実験
8.寄附講座 提携講座
9.インターン シップ
10.学費
11.共通科目
12.専攻別案内
数学応数
情報理工
機械科学
13.教職免許
14.科目登録
15.授業時間帯
16.成績の表示
17.科目等履修

学 科 目 名	担 当 教 員	単位	毎週授業 時 間 数	
			前 期	後 期
計測・制御工学演習D	武藤 寛	3	0	3
機械システム制御工学演習A	齋藤 潔	3	3	0
機械システム制御工学演習B	齋藤 潔	3	0	3
機械システム制御工学演習C	齋藤 潔	3	3	0
機械システム制御工学演習D	齋藤 潔	3	0	3
動力・エネルギー工学演習A	天野 嘉春	3	3	0
動力・エネルギー工学演習B	天野 嘉春	3	0	3
動力・エネルギー工学演習C	天野 嘉春	3	3	0
動力・エネルギー工学演習D	天野 嘉春	3	0	3
複合材料工学演習A	川田 宏之	3	3	0
複合材料工学演習B	川田 宏之	3	0	3
複合材料工学演習C	川田 宏之	3	3	0
複合材料工学演習D	川田 宏之	3	0	3
材料システム設計演習A	浅川 基男	3	3	0
材料システム設計演習B	浅川 基男	3	0	3
材料システム設計演習C	浅川 基男	3	3	0
材料システム設計演習D	浅川 基男	3	0	3
塑性工学演習A	本村 貢	3	3	0
塑性工学演習B	本村 貢	3	0	3
塑性工学演習C	本村 貢	3	3	0
塑性工学演習D	本村 貢	3	0	3
材料加工工学演習A	中江 秀雄	3	3	0
材料加工工学演習B	中江 秀雄	3	0	3
材料加工工学演習C	中江 秀雄	3	3	0
材料加工工学演習D	中江 秀雄	3	0	3
航空構造工学演習A	戸田 勘	3	3	0
航空構造工学演習B	戸田 勘	3	0	3
航空構造工学演習C	戸田 勘	3	3	0
航空構造工学演習D	戸田 勘	3	0	3
材料強度学演習A	増田 千利	3	3	0
材料強度学演習B	増田 千利	3	0	3
材料強度学演習C	増田 千利	3	3	0

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄
1. 履修方法
2. 学位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. コア科目 推奨科目
6. 年次講義等
7. 演習・実験
8. 寄附講座 提携講座
9. インターン シップ
10. 学費
11. 共通科目
12. 専攻別案内
数学応数
情報理工
機械科学
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 成績の表示
17. 科目履修区分

学 科 目 名	担 当 教 員	単位	毎週授業 時 間 数	
			前 期	後 期
材料強度学演習D	増田 千利	3	0	3
環境材料学演習A	酒井 潤一	3	3	0
環境材料学演習B	酒井 潤一	3	0	3
環境材料学演習C	酒井 潤一	3	3	0
環境材料学演習D	酒井 潤一	3	0	3
トライポロジー演習A	富岡 淳	3	3	0
トライポロジー演習B	富岡 淳	3	0	3
トライポロジー演習C	富岡 淳	3	3	0
トライポロジー演習D	富岡 淳	3	0	3
マイクロ工学演習A	川本 広行	3	3	0
マイクロ工学演習B	川本 広行	3	0	3
マイクロ工学演習C	川本 広行	3	3	0
マイクロ工学演習D	川本 広行	3	0	3

13 教員免許状の取得方法

(1) 基幹理工学研究科で取得できる教員免許状の種類および免許教科

免許状の種類

高等学校教諭専修免許状、

中学校教諭専修免許状

免許教科

数学、理科、工業、情報

(2) 専修免許状の取得方法

専 攻	取得できる教科
数理応用数理専攻	数学、情報（高校のみ）
情報理工学専攻	数学、情報（高校のみ）
機械科学専攻	理科、数学

【基礎資格】

- 修士の学位を有すること
- 大学の専攻科または文部大臣の指定するこれに相当する課程に1年以上在学し、30単位以上を修得すること。
- 本研究科入学以前に一種免許状を取得していること。または本研究科在学中に教育職員免許法第5条別表第1の所定単位を履修し取得条件をみたすこと。なお、取得できる教科については、一種免許状と同じ。
※ 1 教育職員免許法第5条別表第1に規定する高等学校教諭専修免許状、中学校教諭専修免許状の授与を受ける場合の「教科に関する専門教育科目」の単位の修得方法は、理科・数学・工業・情報それぞれの教科に関する専門教育科目を24単位以上修得するものとする。
- ※ 2 ※ 1にいう「教科に関する専門教育科目」については理工学統合事務所の一覧表にて各自確認し、単位修得に誤りのないよう十分注意すること。また、学部時代に取得した先取履修科目については、これに含めることができない。

(3) 免許状の申請

原則として本人が授与権者（居住地の都道府県教育委員会）に対して行う。ただし3月の修了時に限り、教育職員免許状を必要とする学生のために、大学が各人の申請をとりまとめて申請を代行（一括申請）し、学位授与式当日手渡せるようとりはからっている。

その手続については、7月に免許状一括申請の登録、11月下旬に宣誓・署名・捺印および申請料金の納入の手続を行うので、掲示及びメールでの連絡等に十分注意すること。期限遅れ等により一括審査を受けられなかった場合は、個人で申請することになる。

〈注意〉 一種免許状を取得しておらず、今年度より教職課程の聽講を希望する者は、出身学部の科目等履修生となった上で、教職課程の科目を聽講することになる。詳細については、理工学統合事務所および出身学部事務所に問い合わせること。なお、この場合には次頁に定められた単位数と異なることがある（旧法適用者）ので、注意すること。

教育職員免許法第5条別表第1

免許状の書類	基本資格	最低修得単位数								
		日本国憲法	体育(実技)	外国語コミュニケーション	情報機器の操作	専修免許に関する科目	教科に関する科目	教職に関する科目	教科又は教職に関する科目	特殊教育に関する科目
中学校教諭 1種免許状	学士の単位を有すること	2	2	2	2		20	31	8	67
中学校教諭 専修免許状	修士の学位を有すること	2	2	2	2	24	20	31	8	91
高等学校教諭 1種免許状	学士の単位を有すること	2	2	2	2		20	25	14	67
高等学校教諭 専修免許状	修士の学位を有すること	2	2	2	2	24	20	25	14	91
養護学校教諭 1種免許状	学士の学位を有すること及び小学校、中学校、高等学校、または幼稚園教諭の普通免許状を有すること									23
										23

I 特徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付録

1. 専修方法
2. 学位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. コア科目
推奨科目
6. 年次講義等
7. 演習・実験
8. 寄附講座
提携講座
9. インターンシップ
10. 学費
11. 共通科目
12. 専攻別案内
- 数学応用**
- 情報理工**
- 機械科学**
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 成績の表示
17. 科目等履修

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

14 履修科目の登録

(1) 選択・届出

学生は、指定された科目登録手続き期間内に、当該年度に履修しようとする学科目を登録（申請および確認）しなければならない。

学科目の選択にあたっては、本研究科要項とWebシラバス等を熟読して、各自の学習目標を定め、登録間違い・登録漏れのないよう注意すること。

Webシラバス <http://www2.sci.waseda.ac.jp/SYLLABUS/INDEX/>

(2) 無登録科目の受講禁止

登録した学科目以外の受講は認めない。無登録科目を聴講・受験しても単位は与えられない。

(3) 登録後の変更禁止

登録した学科目の変更・取消は、決められた期間以外は認めない。登録にあたっては慎重を期し、本人が行うこと。なお、必ず登録の結果を確認すること。

15 授業時間帯

早稲田大学の授業時間帯は下表のとおりである。

時 限	1	2	3	4	5	6	7
時 間	9：00 ↓ 10：30	10：40 ↓ 12：10	13：00 ↓ 14：30	14：40 ↓ 16：10	16：20 ↓ 17：50	18：00 ↓ 19：30	19：40 ↓ 21：10

16 成績の表示

成績は、各学期ごとに定められた発表日にWaseda-netポータル上で発表される。成績発表日については理工学統合事務所ホームページで確認すること。

講義科目・演習科目・修士論文の成績表記はA+・A・B・C・Fをもって表示し、A+～Cを合格、Fを不合格とする。研究指導の成績表記はPとQをもって表示し、Pを合格、Qを不合格とする。なお、成績発表の際にはこのほかにH・*という記号を使用する。

H……成績保留を意味する。担当教員から課題などを発表してもらえる場合があるので、掲示や教員の指示を確認すること。なお、教員からの指示に従わずに年度を越えた場合には自動的にF評価となる。

*……登録している科目で、担当教員からの成績がまだ出ていない科目を示す。

評 価	A+	A	B	C	F	H
点 数	100～90	89～80	79～70	69～60	59～	
成績証明書	A		B	C	表 示 な し	
判 定	合 格			不 合 格		

17 科目等履修生

科目等履修生には官公庁、外交政府、学校、研究機関、民間団体等の委託に基づく委託履修生と、それ以外の一般履修生がある。科目等履修生の入学時期は学期の始めとする。(ただし、外国学生は4月入学のみ)。一般履修生の在学期間は1年間であり、引き続き科目等履修生として入学を志願する場合には改めて願い出なければならない。

I 特 徵
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

①科目等の履修および単位について

委託履修生および一般履修生は、正規の学生の修学の妨げにならない限り授業科目および特定課題についての研究指導を受けることができる。

なお、履修できる授業科目の制限単位は次のとおりである。

- | | |
|---------------------------|------|
| 1. 授業科目のみの場合 | 20単位 |
| 2. 授業科目および研究指導をあわせて履修する場合 | 10単位 |

修士課程に正規生として入学した場合は、単位振替願を提出することによって、履修生として取得した単位のうち通常6単位、最高10単位までを修士課程修了単位数に振り替えることができる。

②学費について

	本学卒業生および 本学大学院修了者	左記以外
入学金	免除	70,000円
履修料 1単位につき		42,900円
研究指導料	修士課程	429,000円（年間）
	博士後期課程	333,500円（年間）
実験演習料	実験をともなう場合にのみ必要	

※研究指導および演習科目履修者に対しては、実験演習料を徴収する。

※次の者は選考料（25,000円）および入学金を免除する。

- イ. 本学大学院正規学生であった者で、引き続き科目等履修生として入学を志願し許可された者。
- ロ. 前項の規定により科目等履修生となった者で次年度以降も引き続き科目等履修生として入学を志願し、許可された者。
- ハ. (イ) の規定によらない履修生で、引き続き履修生として入学を志願し許可された場合には、2年間に限り免除とする。

1. 履修方法
2. 学位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. コア科目 推奨科目
6. 年次講義等
7. 演習・実験
8. 寄附講座 提携講座
9. インターン シップ
10. 学費
11. 共通科目
12. 専攻別案内
数学応用
情報理工
機械科学
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 成績の表示
17. 科目等履修生

IV

I 特 徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 錄

学 生 生 活

1 学生の手帖 (Compass)	1. 学生の手帖
2 理工学術院および基幹理工学研究科ホームページ	2. ホームページ
3 学籍番号	3. 学籍番号
4 学生相談	4. 学生相談
5 就職	5. 就職
6 学生証	6. 学生証
7 各種証明書類の交付	7. 証明書交付
8 各種願・届の提出	8. 各種願提出
9 奨学金制度	9. 奨学金
10 揭示	10. 揭示
11 教室・共通ゼミ室の使用	11. 教室の使用
12 学生の課外活動	12. 課外活動
13 安全管理	13. 安全管理
14 海外留学等	14. 海外留学
15 理工リエゾンオフィス	15. 理工リエゾン オフィス
16 禁煙キャンパス	16. 禁煙 キャンパス
17 自転車、バイクおよび自動車の通学利用禁止	17. 自転車禁止
18 理工学図書館・学生読書室	18. 図書館・ 読書室
19 LL・MM教室	19. LL-MM 教室
20 コンピュータ・ルーム	20. コンピュータ ルーム
21 総合健康教育センター大久保分室	21. 総合健康 教育センター
22 交通機関のストライキと授業	22 交通機関 の影響
23 気象警報の発表と授業休講等の措置	23. 気象警報 の影響

1 学生の手帖Compass

この研究科要項とは別に、「学生の手帖Compass」が交付される。本研究科要項が基幹理工学研究科における学修を中心に編集されているのに対し、「学生の手帖Compass」は、早稲田大学における学生生活を中心に編集されている。研究科要項と共に活用してもらいたい。

2 理工学術院および基幹理工学研究科ホームページ

本研究科ではホームページを開設し、インターネットを通じた情報発信を行っている。各専攻からの案内、各種申請手続きや日程等の事務所からの情報、実験室等に関する情報を掲載している。

<http://www.sci.waseda.ac.jp>

<http://www.waseda.jp/fse/>

3 学籍番号

本研究科は、学生個人について入学時に学籍番号を定めている。この学籍番号は、修士課程、博士後期課程別になっており、それぞれの在学期間を通じて変更はない。

最初の2桁51は基幹理工学研究科、次の2桁は入学年度（西暦下2桁）、次の1桁（アルファベット）は専攻別、最後の3桁は所属専攻内における学生の番号を示す。

なお、学籍番号とは別にコンピュータに入力する際にだけ使用するチェック・デジット（略称CD）1桁を付ける。これはコンピュータへの入力ミス防止のためのものである。

	修士課程	博士後期課程
数学応用数理専攻	5107A001～	5107A501～
情報理工学専攻	5107B001～	5107B501～
機械科学専攻	5107C001～	5107C501～

4 学生相談

(1) 理工学統合事務所

科目登録・授業・成績・学籍（休学・留学・退学等）・教室貸与・奨学金等、修学上に関わるすべての事項について、その相談に応じている。また、遺失物や拾得物の管理も行っているので、これらに関する質問があれば隨時相談すること。

事務取扱時間・休業日

月～土曜日 9時～17時

12時30分～13時30分昼休み（ただし土曜日および授業休止期間中）

休業日 日曜日・国民の祝日・創立記念日（10月21日）・年末年始・夏季一斉休業期間および夏季冬季休業中の土曜日

（注）夏季休業・冬季休業等の期間中は、事務処理が平常時より時間がかかる場合があるので留意すること。

(2) 非常勤講師への連絡方法

本学部では非常勤講師の連絡先（住所・電話番号等）を公表していないので、非常勤講師への連絡は、必要な書類・手紙等を封筒に入れ、宛名・差出人住所・氏名等を明記のうえ、切手を貼り、封をしたもの

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 学生の手帖
2. ホームページ
3. 学籍番号
4. 学生相談
5. 就職
6. 学生証
7. 証明書交付
8. 各種願提出
9. 奨学金
10. 掲 示
11. 教室の使用
12. 課外活動
13. 安全管理
14. 海外留学
15. インターリン オフィス
16. 禁煙 キャンパス
17. 自転車禁止
18. 図書館・ 諸書室
19. LL-MM 教室
20. コンピュータ ルーム
21. 心理健康 センター
22. 交通機関 の影響
23. 気象情報 の影響

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

を教員室（51号館2階）へ持参すること。

※専任教員の連絡先はシラバスやホームページで確認できる。

(3) ハラスメント防止委員会室

性的な言動によるセクシュアル・ハラスメント、勉学・教育・研究に関連する言動によるアカデミック・ハラスメント、優越的地位や職務上の地位に基づく言動によるパワー・ハラスメントなどの被害を受けた学生・生徒および教職員等が、安心してハラスメントの苦情を申し立て、相談を受け付けられる窓口を設置している。ハラスメントの苦情に対しては、学内での適切な調査と慎重な手続を経たうえで、厳正な処分を含む効果的な対応をし、その際、関係者（事案の当事者の他、監督・指導の責任を負う者等、当該事案に利害関係を有する者を含む）のプライバシーの尊重と秘密厳守には特に留意している。

- 1. 学生の手帳
- 2. ホームページ
- 3. 学籍番号
- 4. 学生相談
- 5. 就職
- 6. 学生証
- 7. 証明書交付
- 8. 各種願提出
- 9. 奨学金
- 10. 掲 示
- 11. 教室の使用
- 12. 課外活動
- 13. 安全管理
- 14. 海外留学
- 15. エリソン オフィス
- 16. 禁煙 キャンパス
- 17. 自転車禁止
- 18. 図書館・ 読書室
- 19. LL-MM 教室
- 20. コンピュータールーム
- 21. 精健康 診セミナー
- 22 交通機関 の影響
- 23. 気象警報 の影響

早稲田大学はハラスメント防止に真摯に取り組んでいる

本学では『早稲田大学におけるハラスメント防止に関するガイドライン』を制定し、相談を受け付け、その解決に取り組むことはもちろん、パンフレットやWebサイト等での広報や、講演会等の催し物をとおして、啓発・防止活動を実施している。

あなた自身が被害を受けた時、友人からの相談を受けた時、また取り組みについて質問や意見がある時には、気軽に相談窓口に連絡していただきたい。専門知識を持つスタッフが対応している。

ハラスメント理解のためのQ & A

〈目的〉

Qなぜ、早稲田大学では「ハラスメント防止に関するガイドライン」を制定したのか？

Aすべての学生および教職員等が個人として尊重され、快適な教育・研究・職場環境の中で生活できるようにするためにある。本学では1999年4月の「男女雇用機会均等法」などの法改正を背景にセクシュアル・ハラスメント対策を実施してきた。その実績をふまえ、2005年度より取り組みを拡大し、アカデミック・ハラスメントやパワー・ハラスメントにも対応している。

〈解説〉

Qハラスメントって何で問題なのか？

A人権侵害だからである。ごく気軽な気持ちでの行為や言動が相手にとって耐えられない苦痛となっていることもある。なぜそうなのか？を理解するきっかけとして、大学ではパンフレットを作成し、Webサイトにさまざまな情報を掲載しているので、ぜひ活用していただきたい。

Q学生がハラスメントにあうのは、どんな場面で、どの程度あるのか？

Aきわめて残念だが、授業がアカデミック・ハラスメントの場、サークルなどがセクシュアル・ハラスメントの場やパワー・ハラスメントの場となり得る可能性がある。2003年6月の本学「学生生活調査」結果では、少なくない学生が「セクシュアル・ハラスメント被害を受けている」と感じていた。

Q学生が加害者になることもあるのか？

Aはい、学生が加害者になることもある。例えばあなたがサークルのコンパで下ネタを乱発したり、

しつこく交際を迫ったりしたために、メンバーの人が不快になり、サークルをやめようかと悩むような場合は、セクシュアル・ハラスメントになりえる。

〈相 談〉

Q 大学の相談窓口にいくと何がしてもらえるのか？

A まず、あなたの悩んでいるハラスメントの実情についてインテーカー（相談員）が詳しく話をうかがう。今までの実績では、問題の所在を明確にする過程で気持ちが整理され、この段階で解決に至るケースがかなりある。相手方になんらかの謝罪を求めたいというような場合は、次のステップ＜対応策の検討＞へ進み、防止委員会の苦情処理案件の対象と認定されると、当事者から話を聞くなどして相手方との調整等が始まる。解決策はケース・バイ・ケースで多様である。

Q 相談すると秘密がもれたり、相手方から嫌がらせを受けたりするのではないかと不安なのだが？

A ガイドラインで秘密堅持と被害者への報復等の禁止が明確に定められ、安心していただけるシステムになっている。また、外部の相談窓口もWebサイトで紹介していますので参考にしていただきたい。

■相談窓口 ハラスメント防止委員会室

【開室時間】月～金 9:00～17:00

土 9:00～14:00

相談は、電話・メール・Fax・手紙、どの方法でもOK。来室前なら匿名でも大丈夫。あなたのプライバシーと意向を最大限に尊重します。来室前に必ず電話で予約をしてください。

【URL】<http://www.waseda.jp/stop/index.html>

【E-mail】stop@list.waseda.jp

【TEL】03-5286-9824

【FAX】03-5286-9825

〒169-8050 新宿区戸塚町1-104 24-8号館2階

5 就職

(1) 就職活動

理工系学生の企業への応募方法には、「自由応募制」と「推薦制」の2種類がある。「自由応募制」とは、各企業等からの求人情報をもとに、自分の希望する企業に直接応募する制度であり、現在の文系の就職活動はこの方法によって行われている。また、「推薦制」とは理工系独自の応募形態であり、就職希望者の推薦を依頼してくる企業に対して、大学（大学院・専攻等）が推薦を行う制度である。企業が専攻や推薦枠を指定してくる場合があるので、大学（大学院・専攻等）は学生の希望を確認し、希望者が多い場合には調整等を行った上で、被推薦者を決定することとなる。詳細は各専攻の就職担当教員に確認すること。

(2) 就職担当教員の指導等

各専攻では、卒業予定者を対象に進路指導を行う就職担当教員を配置し、就職活動や進学について、適宜、必要な指導・アドバイスを行なっている。

学生は就職内定状況等、現在の活動状況を担当教員に報告すること。

(3) 各種行事案内

キャリアセンター主催の就職ガイダンスや就職講座、理工学術院が主催する国家公務員説明会等の各種行事を、各学科掲示板および正門掲示板（学生支援掲示板）およびホームページにおいて案内している。

(4) 就職資料室等の利用

- ① 理工系の「求人票」および企業案内等の諸資料は、51号館1階13室の「就職資料室」および各専攻連絡事務室または各専攻の就職資料室に配架している。
- ② 51号館1階13室の就職資料室では、求人情報（文系就職中心）、Uターン情報、各企業や官公庁の資料の他に業界・企業研究のための参考図書、情報誌、先輩の就職活動体験記等の諸資料を、自由に閲覧出来るように配架している。

(5) キャリアセンターの利用

キャリアセンターでは、自分自身のキャリア形成の考え方、学生時代の過ごし方（心構え、早稲田大学にある資源・チャンスをどう生かすか等）、といったアドバイスから実際の就職活動のサポートまで、幅広い支援を行っている。

〈主な活動〉

- ・ **キャリアガイダンス**（就職環境を知り、充実した学生生活を過ごすためのヒントを説明）
- ・ **キャリア講座**（キャリアの専門家が、社会とキャリア設計の関係等について講義）
- ・ **その他キャリア形成支援イベント**（公務員・教員キックオフガイダンス、OB・OG等現役社会人との交流イベント他）
- ・ **就職支援イベント**（就職ガイダンス、業界研究講座、マナーセミナー、就活ミニセミナー他）
- ・ **企業・求人情報の提供**（Waseda-netポータル内【キャリアコンパス】より）
- ・ **インターンシップの紹介および関連セミナー**
- ・ **個別相談**（進路に関することならどんなことでも）

※詳細は、入学時等に配付される『CAREER GUIDEBOOK』およびキャリアセンターホームページを確認すること。

【場所】 戸山キャンパス30号館 学生会館3階

【時間】 平日9：00～18：00

土曜9：00～17：00
【TEL】 03-3203-4332
【E-mail】 career@list.waseda.jp
【URL】 <http://www.waseda.jp/career/>

I 特 徵
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

6 学生証

学生証は、身分を証明するだけでなく、修学上の様々な場面で必要となるので、常に携帯し、破損・紛失のないよう注意すること。

なお、学生証とは、「学生証カード」と有効年度を表示した「裏面シール」からなり、「学生証カード」の裏面に、「裏面シール」を貼り合わせて初めて効力が生じる。また有効期間は「裏面シール」に示された有効年度の4月1日（または9月21日）から翌年3月31日（または9月20日）までの1年間である。また、表面の所定の欄に氏名を記入すること。

(1) 交 付

1年次の学生証は、受験票と引き換えに交付する。

2年次以上については、学年末に裏面シールを交付するので、これを前年度のシールと貼り替えることで、学生証を更新したこととなる。

なお、学生証カードは在学期間中使用するが、写真変更希望者は、在学中1回に限り無料で交換できる。この場合は、理工学統合事務所に申し出ること。

(2) 紛 失

学生証を紛失した場合、悪用される恐れがあるので、ただちに警察に届け、理工学統合事務所で再交付の手続きをすること。

(3) 再交付

紛失等のため再交付を受ける場合は、カラー写真を添付した所定の「再交付願」を理工学統合事務所へ提出すること。なお、紛失等による再交付の手数料として2,000円が必要となる。

(4) 提 示

図書館や学生読書室の利用、各種証明書・学割・通学証明書の交付、種々の配付物を受けるとき、その他本学教職員の請求があったときは、学生証を提示しなければならない。

(5) 失 効

修了または退学などにより学生の身分がなくなると同時に、その効力を失うので、ただちに理工学統合事務所へ返却すること。修了の場合は、引き換えに学位記が授与される。

7 各種証明書類の交付

本研究科で発行する証明書は以下の表のとおりである。発行は原則として即日発行であるが、システムメンテナンスや証明書の種類等により数日かかる場合もあるので、充分な余裕をもって申し込むこと。

(1) 手数料

証明書の発行には手数料が必要になる。

在学中に関わる証明書 1通200円（修了者がその修了日の属する月末までに申請した証明書を含む）

修了者、退学者等に関わる証明書 1通300円

1. 学生の手帖
2. ホームページ
3. 学籍番号
4. 学生相談
5. 就職
6. 学生証
7. 証明書交付
8. 各種願提出
9. 奨学金
10. 掲 示
11. 教室の使用
12. 課外活動
13. 安全管理
14. 海外留学
15. 地域リンク オフィス
16. 禁煙 キャンパス
17. 自転車禁止
18. 図書館・ 読書室
19. LL-MM 教室
20. コピーカー ルーム
21. 総合健康 施設センター
22. 交通機関 の影響
23. 気象情報 の影響

I 特 徵
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

(2) 発行方法

- ① 自動証明書発行機（事務所内に設置）を利用する場合

学生証・暗証番号が必要となる。暗証番号は入学手続時に届出た4桁の番号を使用すること。

- ② 窓口で申し込む場合

所定の「証明書交付願」に必要事項を記入し、手数料収納証を貼付の上、学生証を添えて申し込むこと。

証明書種別一覧表（★は自動証明書発行機にて発行可）

種 別	
★在 学 証 明 書	教員免許状取得見込証明書
★成 績 証 明 書	教員免許状単位取得証明書
★卒業（修了）見込証明書	進 学 調 査 書
卒 業 （ 修 了 ） 証 明 書	★英 文 在 学 証 明 書
★成績・卒業（修了）見込証明書	★英 文 成 績 証 明 書
成 績 ・ 卒 業 証 明 書	★英文卒業（修了）見込証明書
退 学 証 明 書	英文卒業（修了）証明書
学 位 取 得 証 明 書	そ の 他 証 明 書

(3) 学割

自動証明書発行機（事務所内に設置）で1人年間10枚まで無料で発行可能。

8 各種願・届の提出

在学中、本人または保証人に何らかの異動や事故等があった場合には、必ずその事項についての所定の願または届を提出しなければならない。各種願・届用紙は理工学統合事務所で入手できる。

(1) 休学願

- ① 休学の条件

病気その他の正当な理由により、引き続き2ヶ月以上授業（試験を含む）に出席することができない者は、研究科所定の申請手続きに基づき、研究科長の許可を得て、休学することができる。「休学願」にクラス担任または指導教員の所見を記入してもらい、各学期の提出期日までに理工学統合事務所に提出すること。

休学種別	休学願の提出期日	休学終了日	復学日	休学年数
前 期	5月31日まで	9月20日	9月21日	0.5年
後 期	11月30日まで	翌年3月31日	翌年4月1日	0.5年

- ② 休学期間

休学は前期休学あるいは後期休学の2種類とし、当該学年限りとする。ただし、特別の事情がある場合には、引き続き休学を許可することがある。この場合、休学の期間は連続して2年を超えることはできない。休学中は在学年数に算入しない。前後期継続休学または後期から次年度前期継続休学を希望する者は、休学願提出時に申し出るか、または復学手続き時に休学継続を願い出ること。なお、在籍中に休学できる期間は、通算して修士課程2年、博士後期課程3年を超えることはできない。

I 特 徵
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

③ 休学期間の学費

休学願の提出日により、休学中の学費は下表のとおりとなるので注意すること。

前期休学願	金額	後期休学願	金額
4月30日まで	休学中籍料 5万円	6月30日から 10月31日まで	休学中籍料 5万円
5月1日から 5月31日まで	授業料 実験演習料 施設費 所定学期 の全額	11月1日から 11月30日まで	授業料 実験演習料 施設費 所定学期 の全額

※入学と同時に前期を休学する場合は、学費の減額はありません。

(2) 留学願

- ① 外国の大学等高等教育機関に4ヶ月以上在籍し、教育または研究等に従事する場合、研究科所定の申請手続に基づき、研究科長の許可を得て、「留学」とすることができる。「留学」となるかどうか不明な場合には、事前に理工学統合事務所に確認すること。
- ② 在籍中に留学できる期間は1年間相当とする。特別な事情がある場合は、さらにこれを延長できる。
- ③ 留学期間中は在学年数に算入しない。ただし、修士課程において、単位認定により通算2年間で卒業可能な場合のみ在学年数に算入することができる。詳細は理工学統合事務所に問い合わせること。
- ④ 留学期間中の学費については、理工学統合事務所に問い合わせること。ただし、留学センターが主催する留学の場合は、留学センターにて確認すること。

(3) 復学願

- ① 復学対象者（休学・留学期間終了者）に対し、復学の手続きが必要とされる時期に、理工学統合事務所からその手続きに関する書類を保証人宛に送付するので、これに従って手続きを行うこと。
 - ② 復学は学期始めに限られる。
 - ③ 復学後、修士課程での在籍年数（休学・留学期間含む）が3年以上だが、在学年数（休学・留学期間除く）が2年未満となる学生は、在学年数が2年に達するまで、当該年度2年度生の学費額を徴収する。
同様に、博士後期課程での在籍年数（休学・留学期間含む）が4年以上だが、在学年数（休学・留学期間除く）が3年未満となる学生は、在学年数が3年に達するまで、当該年度3年度生の学費額を徴収する。
- このことについて、「学費の納入と抹籍」を参照すること。

(4) 退学願

- ① 退学を希望する場合は、学生証を添えて、理工学統合事務所へ願い出ること。
- ② 学年の途中で退学をする場合でも、その期の学費を納めなければならない。
詳細については、理工学統合事務所に問い合わせること。

(5) 再入学

正当な理由で退学した者が、再入学を願い出た場合、退学した学年の翌学年から起算して、修士課程は4年度まで、博士後期課程は5年度までの間に限り、学年の始めにおいて選考の上、許可することができる。詳細については、理工学統合事務所に問い合わせること。

(6) 氏名・住所・保証人等変更届

- ① 本人の住所・電話番号等が変更された場合は、直ちにWaseda-netポータルのProfile画面から登

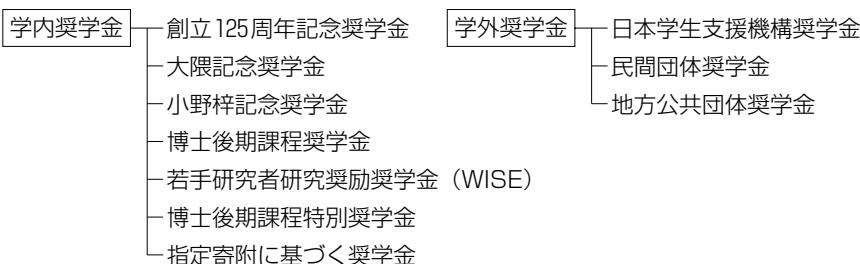
1. 学生の手帳
2. ホームページ
3. 学籍番号
4. 学生相談
5. 就職
6. 学生証
7. 証明書交付
8. 各種願提出
9. 奨学金
10. 掲示
11. 教室の使用
12. 課外活動
13. 安全管理
14. 海外留学
15. 職員リソースオフィス
16. 禁煙キャンパス
17. 自転車禁止
18. 図書館・読書室
19. LL-MM教室
20. コンピュータールーム
21. 心理健康・精神セントラル
22. 交通機関の影響
23. 気象警報の影響

録を行うこと。また、本人の住所が変更された場合は、大学に届けてあるメールアドレス宛に承認メールが届いた後、理工学統合事務所にて新しい学生証の裏面シールを受け取ること。

- ② 保証人または学費支払者の住所・電話番号等が変更された場合は、直ちに理工学統合事務所で所定の手続を行うこと。
- ③ 在学中に改姓（名）をした場合は、戸籍抄本を添付のうえ、届け出ること。
- ④ 死亡その他の理由で保証人を変更する場合は、直ちに新保証人を届け出ること。

9 奨学金制度

本学には、多くの奨学金制度が準備されている。また、奨学金には返還の必要のない「給付」奨学金と返還の必要がある「貸与」奨学金がある。貸与奨学金の代表的なもの一つは、日本学生支援機構奨学金（第一種・二種）である。



奨学金に出願する場合は、毎年理工学統合事務所にて配布する「奨学金情報冊子Challenge」入手し、熟読の上、そこに記載されている所定の手続（奨学金登録）をする必要があるため十分に注意すること。（一部の奨学金を除く）

また、その他の奨学金の募集等があった場合は、隨時、正門掲示板（学生支援掲示板）、および理工学統合事務所ホームページに掲示する。各専攻における独自の奨学金に関しては、専攻からの情報に注意すること。

なお、家計支持者の死亡・失職または災害等により、家庭の経済状況が急変した場合は、未登録であっても奨学課に申し出ると、校友会給付緊急奨学金・日本学生支援機構奨学金の緊急採用・災害採用等が適用される場合がある。

外国人留学生対象の奨学金の一覧は、「早稲田大学留学生ハンドブック」に記載されている。奨学金希望者は、学年始めに「外国人留学生奨学金登録票」を提出し、留学生奨学金用の掲示にて周知される奨学金に、募集のある都度申し込むこと。

10 掲示

立看板の取扱いおよび掲示板使用等に関する運用ルール

(1) キャンパス内での立看板、掲示物ならびにビラ等については、以下の事項を厳守すること。

① 必須記載事項

大学に届出のあるサークル等学生団体：団体名を明記すること。

大学に届出のないサークル等学生団体：団体名および設置責任者である本学学生の所属箇所、学年、氏名を明記すること。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

- ② 虚偽の宣言、他者のプライバシーの侵害や名誉毀損を行ってはならない。
- ③ 上記事項に違反するものについては、事前の通知なく撤去することがある。また、違反があった場合は、当該団体による立看板掲出、掲示ならびにビラの配布を以後許可しないことがある。

(2) 立看板について

原則として大久保キャンパス内のサークル等学生団体の立看板は認めない。ただし、正当な理由であると判断された場合は設置を許可する場合もある。

(3) 掲示物について

掲示板については、次項の表を参照すること。掲示板を使用する際は、次のルールに従うこと。ルールに反する場合には撤去する。

- ① 理工学統合事務所に申し出で承認を受けること。
- ② 掲示の期限は、承認の日から3週間以内とする。
- ③ 掲示用紙の大きさと枚数は次のとおりとする。

正門脇掲示板：縦55センチ・横45センチ（新聞紙1頁大）以内、1枚

各号館内掲示板：縦40センチ・横27センチ（新聞紙半頁大）以内、2枚以内

- ④ 掲示物の掲示板への貼付けは画鋲を使用すること。画鋲が使用できない掲示板は粘着性の弱い紙テープを使用すること。
- ⑤ 期限を過ぎたものは自ら撤去すること。

(4) ビラ等の配布について

キャンパス内でビラ等を配布する場合は、次の事項を厳守すること。

- ① 業者（アルバイト等）の宣伝等営利目的のチラシ等の配布は認めない。
- ② ビラ等の配布は、手渡しのみに限る。受け取る意思のない人への強要は行わないこと。教室内の机の上に置く行為は授業の妨げとなるため、認めない。

1. 学生の手帖
2. ホームページ
3. 学籍番号
4. 学生相談
5. 就職
6. 学生証
7. 証明書交付
8. 各種願提出
9. 奨学金
10. 掲 示
11. 教室の使用
12. 課外活動
13. 安全管理
14. 海外留学
15. インターリン オフィス
16. 禁煙 キャンパス
17. 自転車禁止
18. 図書館・ 読書室
19. LL-MM 教室
20. コピーカー ルーム
21. 総合健康 施設センター
22. 交通機関 の影響
23. 気象警報 の影響

掲示板一覧

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 学生の手帖
2. ホームページ
3. 学籍番号
4. 学生相談
5. 就職
6. 学生証
7. 証明書交付
8. 各種願提出
9. 奨学金
10. 掲 示
11. 教室の使用
12. 課外活動
13. 安全管理
14. 海外留学
15. エリソン オフィス
16. 禁煙 キャンパス
17. 自転車禁止
18. 図書館・ 読書室
19. LL-MM 教室
20. コンピュータ ルーム
21. 給食健康 情報センター
22 交通機関 の影響
23. 気象警報 の影響

場所	掲示板名称	掲示内容	
正門掲示板	総合案内掲示板	各掲示板の掲示内容案内 講演会案内 催物案内 学生の会イベント	
	入試掲示板	入試情報	
	学生支援掲示板	学部奨学金・大学院奨学金 就職情報 インターンシップ情報 イベント情報	
	学部大学院共通掲示板1	学部暦・大学院暦 他箇所関係（オープン教育、教職、MNC他） 科目登録・成績発表情報 休講情報 レポート 試験情報	
52号館1階	基幹掲示板1	基幹理工	数学科、応用数理学科、数学応用数理専攻、機械科学・航空学科、機械科学専攻
		理工	数理科学科、数理科学専攻、機械工学科、機械工学専攻
	基幹掲示板2	基幹理工	情報理工学科、電子光システム学科、表現工学科、情報理工学専攻
		理工	コンピュータ・ネットワーク工学科、物質開発工学科、情報・ネットワーク専攻
	学部大学院共通掲示板2	教室・担任変更情報	
	学部授業時間割	学部時間割	
53号館1階	大学院授業時間割	大学院時間割・集中講義	
	創造掲示板1	創造理工	建築学科、総合機械工学科、建築学専攻、総合機械工学専攻
		理工	建築学科、建築学専攻
	創造掲示板2	創造理工	経営システム工学科、社会環境工学科、経営システム工学専攻、建設工学専攻
		理工	経営システム工学科、社会環境工学科、経営システム工学専攻、建設工学専攻
	創造掲示板3	創造理工	環境資源工学科、地球・環境資源理工学専攻
		理工	環境資源工学科、環境資源及材料理工学専攻
54号館1階	先進掲示板1	先進理工	物理学科、応用物理学科、物理学及応用物理学専攻
		理工	物理学科、応用物理学科、物理学及応用物理学専攻
	先進掲示板2	先進理工	化学・生命化学科、応用化学科、生命医学科、化学・生命化学専攻、応用化学専攻
		理工	化学科、応用化学科、化学専攻、応用化学専攻
	先進掲示板3	先進理工	電気・情報生命工学科、生命医科学専攻、電気・情報生命専攻、生命理工学専攻、ナノ理工学専攻
		理工	電気・情報生命工学科、電気・情報生命専攻、生命理工学専攻、ナノ理工学専攻
56号館1階	実験掲示板	理工学基礎実験、応用物理学実験等の情報	
57号館2階	理工公認サークル掲示板	理工公認サークル 告知スペース	
51号館学生ラウンジ	学生の会限定掲示板	学生の会 告知スペース	
51号館裏掲示板	サークル掲示板	学内外のサークルチラシ	
西門掲示場	西門掲示板	各掲示板の掲示内容案内 学部暦、大学院暦 講演会案内	

11 教室・共通ゼミ室の使用

授業外に教室を使用したい場合は、理工学統合事務所教学支援課備付けの「教室・ゼミ室使用願」を提出しなければならない。教室使用願の提出にあたっては、次の事項に留意すること。

(1) 使用資格

理工学術院公認サークルおよびそれに準ずる団体、部長・会長・顧問等が理工学術院専任教職員である団体に限る。

(2) 使用願責任者

使用願には、責任者（専任教職員）の印を必要とする。

(3) 使用願の提出

使用願は、使用日の3日前（ただし事務所開室中）までに行うこと。

(4) 使用許可期間

原則として下記の期間を除いて許可する。

日曜日、祝祭日、休業中の土曜日、入学式から授業開始までの期間および前後期授業開始後2週間、前後期定期試験期間、夏季工事期間、理工展期間、入学試験構内立入禁止期間とその準備期間、その他諸行事で授業が休講となる期間

(5) 使用許可時間

原則として、月～金曜日は18時から20時まで、土曜日は14時40分から20時までとする。ただし、休業期間中は9時から17時30分までとする。

(6) 使用許可教室

52号館・53号館・54号館の全教室（ただし、LL・MM教室は除く）および56号館101・102・103の空き教室

(7) 使用許可期間

原則として最長1ヶ月とする。それ以上にわたる場合は、再度提出すること。

(8) 使用上の注意

- ① 授業・教育・研究、および大学・学部・大学院の諸業務に支障を来す場合には、使用を許可しない。
- ② まわりの教室で行われている授業には充分注意し、その妨げにならないようにすること。
- ③ 教室内の机・椅子・その他の什器は動かさないこと。
- ④ 使用許可時間を厳守すること。
- ⑤ 大学が教室を使用しなければならない緊急の必要が生じた場合には、教室の変更をする場合がある。

12 学生の課外活動

学生生活は本来勉学を中心として展開されるべきである。しかし専門の知識を得ることのみに終始することは決して望ましいことではない。科学技術の根幹を理解するには多くの知識を必要とするが、それだけに、視野が狭くなりがちである。孤立した個人的な生活、少数の仲間とだけの閉鎖的な生活からは、広い教養と豊かな人間性を持った人物は生まれにくいものである。

本学術院には教員、卒業生、在学生で構成されている多くの学会がある。この学会には学生部会があつて、課外活動に対して種々の便宜が与えられている。本学術院の特殊性を生かした学生部会と連絡を密にし、課外活動によって学生生活の充実をはかることが望まれる。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 学生の手帖
2. ホームページ
3. 学籍番号
4. 学生相談
5. 就職
6. 学生証
7. 証明書交付
8. 各種願提出
9. 奨学金
10. 揭 示
11. 教室の使用
12. 課外活動
13. 安全管理
14. 海外留学
15. 職員リソースオフィス
16. 禁煙キャンパス
17. 自転車禁止
18. 図書館・読書室
19. LL-MM教室
20. コンピュータールーム
21. 総合健康センター
22. 交通機関の影響
23. 気象警報の影響

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

学生の課外活動は、大学という集団の中で最大限の自由が保証されなければならないことはいうまでもないが、それだけに、諸君は責任を持ち、規律を守らなければならない。課外活動はそれを通じて自己の人間形成をはかり、将来社会で活動する準備をすることが目的であるから、ある特定の目的をもつ外部の団体に左右され、プロ化して行動をすることは慎むべきだろう。

学生生活で諸君は種々の困難につきあたるにちがいない。その時は学友、指導教員との話し合い、あるいは総合健康教育センターの利用等を通してそれらを乗り越え、悔いのない学生生活を送るよう努力してほしい。

本学には多くの学生の会およびサークルがあり（「学生の手帖」参照）、本研究科の学生もこれに参加し、活躍している。

この他に IAEESTE（イアエステ・日本国際学生技術研修協会）がある。これは学生の外国企業での実習およびその国際交換を斡旋し、世界各国の学生間の理解と親善を深めることを目的とする学生の会である。この会は1948年に設立され、1964年には日本も加入した。現在60カ国がこれに参加しており、世界の理工農学系大学約900がIAEESTE Internationalの学生交換海外研修プログラムに参加している。また、後援企業は約4,000社に及び、20万人以上の学生を交換研修した実績をもっている。

13 安全管理

早稲田大学大久保キャンパスには、学生・教職員10,000人以上が集い、教育研究活動を行っている。理工系の特徴もあるが、主に研究活動に専念する学部4年生、大学院生の数は4,000名を超え、多種多様な研究活動が展開されている。教育研究活動中の事故を未然に防ぐため、その他安全に関する諸課題を検討し改善を図るべく、教職員からなる「大久保構内安全衛生委員会」を設置し、そのもとに様々な安全管理体制を整備するとともに、安全衛生一斉点検をはじめ構内の安全管理を統轄している。

このような中、学生諸君には、以下の点を遵守してもらいたい。

- ・各実験科目においては、実験ガイダンスを通して、安全に関する注意があるので、それらを必ず守り、常に安全を意識して実験に取り組むこと。
- ・修論実験における安全については、研究分野ごとに特殊な内容があるので、指導教員等の指示に従い、作業の安全を確認して実験すること。
- ・各実験室等が開催する安全講習会等に積極的に参加し、学内ルール等を遵守すること。

また、大久保構内安全衛生委員会では、卒論実験、修論実験を主な対象とした「安全のてびき」を発行しているので、活用するとともに、不明な点は関係する実験室等の技術職員に問い合わせてほしい。（メールでの問合せ先：anzen@sci.waseda.ac.jp）「安全のてびき」は、各実験室、技術企画総務課で入手することができるほか、次のURLから確認することができる。

大久保構内安全ガイド：<http://www.sci.waseda.ac.jp/tech/tmps/main.htm>

理工学系の学生として、学内のルールはもちろん、関係する法律・条令を遵守し、自分のみならず、周囲の安全、広くは地球規模の環境安全・保全を意識し行動すること。

緊急時の対応

(1) けが・重病

大けが・重病の場合には、学内緊急電話（正門警備室：内線3000）に連絡すること。緊急の場合（動か

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

さないほうがよい・動かせない場合も含む)には、直接119番に通報してもかまわないが、救急車誘導のため学内緊急電話にも必ず連絡すること。けがをした人・具合の悪い人が動かせる場合には、総合健康教育センター(大久保分室 51号館1階:内線2640・2641)で処置を受け、必要があれば学外の医療機関で治療を受ける。同センターが不在のときは学内緊急電話(内線3000 外線03-5286-3022)に連絡すること。

(2) 火 災

近くにある消火器で初期消火するとともに、場所・状況等を学内緊急電話(正門警備室:内線3000)に至急連絡し、その指示を受けること。消火器で消火できない場合には、近くの人とともに避難すること。教室棟廊下等には非常用電話(赤いボックス)が設置されているので、それを使って内線3000に電話することができる。

(3) 地 震

地震が静まるまで、机等の下で身の安全を確保する。その後は、大久保キャンパスには多数の化学薬品等があり、危険なので、中庭などの安全な場所に避難すること。大学は、大学本部・各キャンパスに対策本部を設け、情報の収集、学生・教職員の安全確保をはかることにしてあるので、その指示に従うこと。大学総務部発行の「大地震対応マニュアル(学生用)」を参考にすると良い。

14 海外留学等

海外留学についての時期・学費・単位認定の可否・箇所間協定プログラムについては理工学統合事務所教学支援課に相談し、全学生を対象にした本学の海外留学プログラムの内容や応募手続方法などについては、留学センター作成の留学の手引きや案内(<http://www.waseda.jp/cie/index-j.html>)をまず参照すること。また、在学生以外も参加できる短期プログラムはエクステンションセンター(<http://www.waseda.jp/extension/index.html>)でも主催している。

全学を対象にした本学の留学プログラムの概要は、大別すると以下のとおりであるが、留学を検討する学生は、4月と10月に開催される「留学フェア」への参加を勧める。留学の概要説明や注意点、プログラムの情報入手方法、本学留学インフォメーションルーム(西早稲田キャンパス22号館3階)の使用方法など、留学を検討するのに有益な情報が得られる。特に長期留学の場合、遅くとも1年以上前からの準備が必要であるため、年間を通して留学応募手続き案内などの具体的日程や情報案内等について、隨時Waseda-netポータルのお知らせや留学センターHPで確認すること。

本学の留学プログラムの留学費用については、プログラムによって取扱いや費用が異なり、また派遣先大学の事情により毎年異なる場合がある。奨学金は、日本学生支援機構の短期留学推進制度奨学金、早稲田大学学生交流奨学金、交換留学奨学金等があり、奨学金の募集要項等は派遣先大学が決定した後に配布される。

大学院生が早稲田大学の交換留学制度を利用して留学をしようとする場合、学部生とは異なった準備やプロセスが必要となる場合があり、注意が必要である。特に欧米の大学で、大学院生の研究内容がより専門的であることから、派遣先の事情により受入がスムーズに認められないことがある。留学先機関の変更を求められたり、受入自体が不可となることもある。その場合、代わりの受け入れ先を提供されれば、そうでない場合もある。交換留学では、受入に関わる決定は基本的には先方に委ねられているので、こうしたリスクが生じやすいことも認識しておく必要がある。

1. 学生の手帖
2. ホームページ
3. 学籍番号
4. 学生相談
5. 就職
6. 学生証
7. 証明書交付
8. 各種願提出
9. 奨学金
10. 掲 示
11. 教室の使用
12. 課外活動
13. 安全管理
14. 海外留学
15. 職業エンジンオフィス
16. 禁煙キャンパス
17. 自転車禁止
18. 図書館・読書室
19. LL-MM教室
20. コンピュータールーム
21. 総合健康センター
22. 交通機関の影響
23. 気象警報の影響

プログラムの概要：「長期留学」と「短期留学」

(1) 長期留学

① 早稲田大学交換留学プログラム（学部生、研究科生対象）

海外の協定校から留学生を受け入れ、同時に早大生を派遣する制度。ある程度自由に科目を履修できる。一部の大学をのぞいて学費は、早稲田大学の所属学部・研究科の学費等である。但し、現地で施設費等の支払いが必要となる場合もある。現地受け入れ人数は1-3名が通常で、多種多様な国の大が協定校となっている。英語によるプログラム参加者には、GPA 3.0以上、TOEFL®-CBT 170点以上が学内選考の出願最低条件となり、非英語によるプログラムでは、現地の言語で授業についていける語学能力が求められる。

② 箇所間協定交換留学プログラム

一部の専攻では、いくつかの海外協定校と独自に協定を締結している。これらの交換留学プログラムについては、独自の選考日程および方法によって選抜が行われるため、各専攻の指示に従うこと。

(2) 短期留学（数週間）

海外の渡航期間が数週間程度の語学学習および異文化体験を中心とした特別留学プログラム。本学主催箇所としては、留学センター、エクステンションセンター等が、夏期や春期にプログラムを提供している。

(3) その他の留学

自分で希望大学から入学許可を得、かつ奨学金を受給せずに、いわゆる私費で留学先の学費と生活費をまかう形の留学形態を私費留学という。私費留学の場合は全ての手続を自分で行うかもしくは留学斡旋業者を利用して行うことになる。学籍上の扱いについては、ケースによって異なるため理工学統合事務所に確認すること。

15 理工リエンオフィス

理工リエンオフィス（55号館S棟1階）は、基幹理工学研究科を取り巻く現況や活動等に関する情報を効率的かつ効果的に社会に発信するとともに、社会との円滑な相互交流の中心的な役割を担うため、学生・校友・教職員のコミュニケーションの活性化を目指して設立された機関である。

具体的には、理工系大学院生を対象に「先輩セミナーシリーズ講演会」「インターンシップセミナー」「テクノロジー&キャリアナビ」を主催し、「インターンシップ」「理工系アルバイト」「理工学術院内の受賞や研究成果」等々、積極的に企画・Web発信している。

特に「先輩セミナーシリーズ講演会」や「テクノロジー&キャリアナビ」では、企業や研究機関等で活躍する理工OB・OGが、後輩に熱く語り、アドバイスを受けられる貴重な機会である。積極的に参加することを推奨する。

詳しくは<http://www.all-waseda.com/>を参照すること。

16 禁煙キャンパス

受動喫煙（他人のタバコの煙を吸わされること）の防止を謳った健康増進法の施行、文部科学省通達、新宿区条例の施行および分煙化徹底についての本学理事会決定に基づき、大久保キャンパスにおける分煙ルールを以下のように定めている。各自、分煙ルールを厳守すること。また、通学中の路上喫煙に関しては、マナーとルールを守ること。早大生としての自覚を持った行動が望まれる。

- 「喫煙指定場所」を除き、公共の場所（教室・ゼミ室、実験室、会議室、ラウンジ、ホワイエ、アトリウム、図書館・学生読書室、生協施設、廊下・階段・エレベータ、トイレ等）、および屋外エリアを禁煙とする。
- 研究室など、ゼミや学生指導を行う場は教室とみなし、禁煙とする。
- 歩行喫煙は厳禁とする。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

17 自転車、バイクおよび自動車の通学利用禁止

学生が大久保構内へ自転車、バイク、自動車を乗り入れ、駐輪・駐車することは、原則として禁止している。また、周辺道路も終日駐車禁止となっているため、自転車、バイクおよび自動車を通学に利用することを禁止する。

これまで、本学の学生と思われる正門前道路や明治通り側歩道等の違法駐輪・駐車に対して近隣住民からたびたび苦情が寄せられ、所轄の警察署からも再三にわたり厳しい注意をうけている。また、この迷惑駐車が原因となって交通事故も発生している。厳守すること。自分だけはという意識を捨て、早大生としての自覚を持った行動が望まれる。

18 理工学図書館・学生読書室

大久保キャンパスには理工学図書館と理工学生読書室がある。両者を総称する「早稲田大学理工学図書館」は早稲田大学における理工系学術情報の中心として、教育研究を支える重要な機関と位置付けられている。

理工学図書館は教職員、大学院生や学部の高学年学生を主たる利用対象者として設置された研究図書館である。専門図書館の性格上、蔵書構成は理工系分野の内外の学術雑誌（約7,600タイトル）を主体とし、約30万冊を所蔵している。

理工学生読書室は理工学術院学生を主な利用対象に設置された学習図書館である。理工系分野の一般図書の他、授業のカリキュラムに即した教科書や参考書が配架されている（所蔵図書数約10万冊）。

この他、大久保キャンパス以外にも中央図書館をはじめ戸山図書館、所沢図書館等があり利用することができる（他図書館の利用についてはそれぞれの利用規則に従うこと）。各図書館の情報は学術情報ネットワークシステム（WINE）で結ばれており、インターネットで検索が可能である（<http://www.wul.waseda.ac.jp/>）。全国の大学の中でも極めて充実した図書、電子図書を有しており、是非有効に活用してもらいたい。

利用上の注意については、利用案内およびホームページ（<http://www.wul.waseda.ac.jp/RIKOU/index-j.html>）を参照すること。

(1) 理工学図書館 51号館地階 座席数 206席

開館時間 月～金：9時30分～21時（授業休止期間は20時まで）
土：9時30分～19時

閉館日：日曜日・祝日および本学の定めた休日、その他必要のある場合は閉館する。

① 閲覧室〔新着雑誌閲覧室〕（座席数 102席）

内外の新着雑誌の最新一年分を配架している。外国雑誌は誌名のABC順、国内雑誌は誌名の五十音順に配架してある。

1. 学生の手帖
2. ホームページ
3. 学籍番号
4. 学生相談
5. 就職
6. 学生証
7. 証明書交付
8. 各種願提出
9. 奨学金
10. 掲 示
11. 教室の使用
12. 課外活動
13. 安全管理
14. 海外留学
15. 職員リンクオフィス
16. 喫煙キャンパス
17. 自転車禁止
18. 図書館・読書室
19. LL-MM教室
20. コンピュータールーム
21. 心理健康教育センター
22. 交通機関の影響
23. 気象警報の影響

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

② 参考図書コーナー

辞書、事典、便覧、ハンドブック、地図等の参考図書が配架されている。

③ 新聞コーナー

朝日・毎日・読売・日経・日刊工業新聞等1ヶ月分を閲覧できる。

④ レファレンス・サービス

研究・調査を進めていく上で、図書館を活用して必要な文献・情報を入手できるよう、質問・相談に応じている。必要な文献が図書館にない場合は、相互協力によって国内外の機関より文献の複写（実費負担）などを取り寄せることができる。

⑤ オンライン・データベースや電子ジャーナルの提供

理工系のオンライン・データベース（JDreamⅡ, ISI Web of Science, MathSciNet等）や電子ジャーナル（ScienceDirect, Wiley InterScience, Blackwell Synergy, IEL等）を学内ネットワークで豊富に提供している。修士・博士論文の作成時等において関連する研究を調査するには大変便利なツールである。

⑥ 書 庫

書庫は上・下2層にわかれ、上層（B1）には主に合冊製本された和雑誌と和・洋の図書が分類順に配架されている。書庫の下層（B2及び増設書庫）には合冊製本された洋雑誌が配架されている。

(2) 学生読書室 52, 53号館地階 416席

書庫開室時間 月～金：9時30分～21時
土：9時30分～19時

閲覧室開室時間 月～金：9時～21時
土：9時～19時

ただし、授業休止期間中および試験期間中は時間を変更するので理工学図書館ホームページおよび掲示に注意すること。

閉室日：日曜日・祝日および本学の定めた休日、その他必要ある場合は閉室する。

① 閲覧室（53号館地階）

キャンパス内で静かに学習するために活用できる場所である。そのため私語、雑談、携帯電話利用等、他人に迷惑をおぼすような行為は厳重につつみ、お互いにマナーを守りながら利用すること。

② 書庫・受付（52号館地階）

図書の貸出・返却手続き、利用したい図書の問い合わせ、リクエスト等に応じている。

19 LL・MM教室

本研究科では学生諸君の自発的な語学学習に便宜を図ると共に、語学教育向上のために52号館地階にLL・MM教室を開室している。またコンピュータによる音声映像機能を備えたシステムを設置している。備付けのコンピュータの利用時間帯等については、理工メディア（59号館4階）に問い合わせること。

開室時間 月～土 9：00～21：00

20 コンピュータ・ルーム

大久保キャンパスには、約700台のパソコンが授業等で利用されている。利用は授業等が優先になっているが、利用していない時間帯は、レポート作成やインターネットなど自由に利用することができる（オープン利用）。

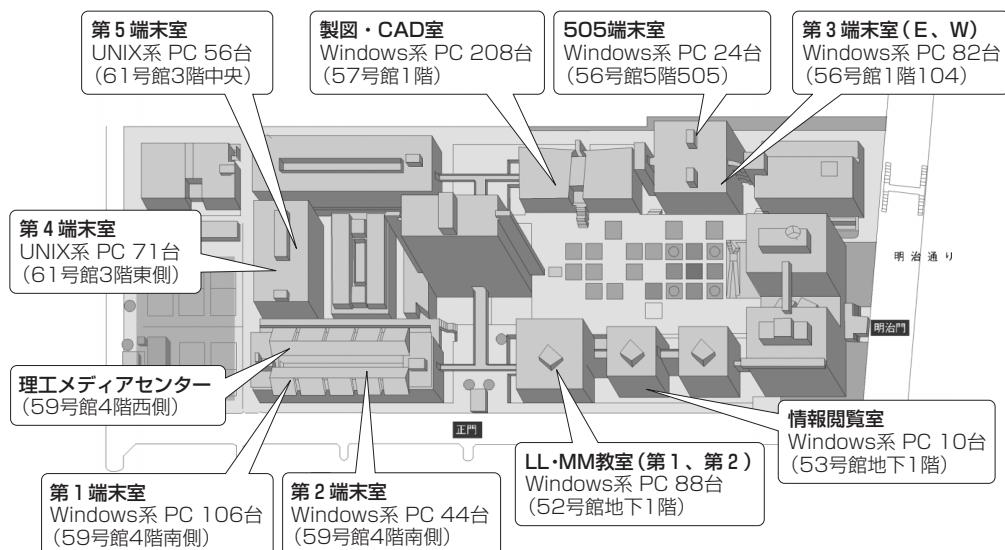
第1端末室	59号館4階
第2端末室	59号館4階
第3端末室	56号館1階
第4端末室	61号館3階
第5端末室	61号館3階
505端末室	56号館5階
LL/MM教室	52号館地下1階

各コンピュータ・ルームの開室状況は、各室出入口付近の掲示の他、理工メディアセンターのホームページでも確認できる。

(⇒<http://www.mse.waseda.ac.jp/>)

ヘルプデスク【59号館4階西側】

学内の情報環境や各種サービス利用についての相談窓口として設けられている。



○Windows環境を利用する

Windowsが入っているパソコンを設置している部屋が「Windows系端末室」。Word、Excel、PowerPointの他、理工系ソフトウェア、語学系ソフトウェア、ソフトウェア開発環境などが用意されている。Windows端末室を利用するには、入学時に登録手続きを行うWaseda-netのIDとパスワードが必要。

- I 特 徴
- II 沿革と概要
- III 研究科要項
- IV 学生生活
- V 付 錄
- 1. 学生の手帳
- 2. ホームページ
- 3. 学籍番号
- 4. 学生相談
- 5. 就職
- 6. 学生証
- 7. 記明書交付
- 8. 各種願提出
- 9. 奨学金
- 10. 掲 示
- 11. 教室の使用
- 12. 課外活動
- 13. 安全管理
- 14. 海外留学
- 15. 工業エンジニアリングオフィス
- 16. 禁煙 キャンパス
- 17. 自転車禁止
- 18. 図書館・読書室
- 19. LL-MM 教室
- 20. コンピュータ・ルーム
- 21. 総合健康 施設センター
- 22. 交通機関 の影響
- 23. 気象予報 の影響

○UNIX環境を利用する

Windowsの代わりにLinuxシステムが採用されている部屋が「UNIX端末室」。主にプログラミング言語やアルゴリズム、数値解析などの授業に利用されている。

UNIX端末室を利用するには、Waseda-netとは別のIDとパスワードが必要になり、「理工系学生ページ」で利用申請が必要。

21 総合健康教育センター大久保分室

総合健康教育センター

総合健康教育センターは学生が健康な状態で大学生活が送れるように、健康の基礎作りと生涯を通じて心身の健康の自己管理能力を身につけるよう援助していくことを目的に設置されている。

なお、詳細については、ホームページを参照すること。

総合健康教育センター：25-2号館（西早稲田キャンパス）

事務所（2階）Tel 03-3202-0580（直通）

診療室（3階）Tel 03-5286-3984（直通）

保健管理室（5階）Tel 03-5286-9800（直通）

学生相談室（6階）Tel 03-3203-4449（直通）

大久保分室

総合健康教育センター大久保分室（51号館1F）の前室は常時開室しているので、簡単な傷の手当等必要な場合は何時でも利用できるようになっている。また、健康やからだに関する相談も随時受付けている。

（1）保健管理室

① 開室時間 月～金 9：00～17：00 Tel. 03-5286-3021

（医師による診察受付時間 月～金 13：30～15：40）

② 業務内容

- ・応急救急処置、傷病者の休養、定期健康診断、特殊健康診断の実施及び事後処理
- ・各種健康診断書の発行、健康相談、保健指導、その他の相談

（2）学生相談室（51号館1F西側19A室）

開室時間 週3回 13：00～17：00 Tel 03-5286-3082（直通）

心理相談、一般相談に心理専門相談員が応じている。

（開室時間以外は西早稲田キャンパス学生相談室で受付）

学校伝染病について

下記の伝染病にかかった時は、他の者への感染防止のため学校保健法第12条により出席が停止となる。出席停止の期間は、伝染病の種類に応じて決められている。出席停止期間中の授業および試験については、以下のような手続きを行うこと。

- (1) 診断してもらった医師に診断書を書いてもらう。
- (2) 所属研究科の事務所に電話にて報告する。
- (3) 治癒後、事務所に診断書を提出する。
- (4) 科目（試験）ごとの担当教員に診断書および欠席届けを提出して、指示をうける。

（学校において特に予防すべき伝染病の種類）

- 第1種の伝染病：治癒するまで出席停止（新感染症予防法の第1・2類に規定された感染症）
 エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、ペスト、マーブルブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎（ポリオ）、コレラ、細菌性赤痢、ジフテリア、腸チフス、パラチフス、痘瘡、重症急性呼吸器症候群
 第2種の伝染病：飛沫感染するもので、学校において流行を広げる可能性が高い伝染病
 インフルエンザ（解熱したあと2日を経過するまで）、百日咳（特有の咳が消失するまで）、麻疹（解熱したあと3日を経過するまで）、流行性耳下腺炎（耳下腺の腫脹が消失するまで）、風疹（発疹が消失するまで）、水痘（すべての発疹が痂皮化するまで）、咽頭結膜熱（主要症状が消退したあと2日を経過するまで）、結核（伝染のおそれがないと認めるまで）

- 第3種の伝染病：学校教育活動を通じ、学校において流行を広げる可能性がある伝染病
 腸管出血性大腸菌感染症、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他の伝染病

*資料　学校保健法施行規則

22 交通機関のストライキと授業

- (1) JR等交通機関のストが実施された場合（ゼネスト）、首都圏におけるJRのストが
 - ① 午前0時までに中止された場合、平常通り授業を行う。
 - ② 午前8時までに中止された場合、授業は3時限目（午後1時）から行う。
 - ③ 午前8時までに中止の決定がない場合は、授業は終日休講とする。

上記は、JRの遵法闘争および私鉄のストには適用しない。
- (2) 首都圏JRの部分（拠点）ストが実施された場合、平常通り授業を行う。
- (3) 首都圏JRの全面時限ストが実施された場合
 - ① 午前8時までストが実施された場合、授業は3時限目（午後1時）から行う。
 - ② 正午までストが実施された場合、6時限目（午後6時）から授業を行う。
 - ③ 正午を越えてストが実施された場合、授業を終日休講とする。
- (4) 私鉄、都市交通のみがストを実施した場合、平常通り授業を行う。
- (5) 人間科学部・スポーツ科学部に設置された授業科目を受講する者については、上記(1)・(2)・(3)は適用されるが、(4)については
 - ① 西武鉄道新宿線または西武鉄道池袋線のどちらか一方でもストが実施された場合
 - ② ①の西武鉄道両線のストが実施されない場合でも、西武バスのストが実施された場合

次のとおりとする。

 - A 午前8時までストが実施された場合、授業は3時限目（午後1時）から行う。
 - B 午前8時を越えてストが実施された場合、授業は終日休講とする。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 学生の手帖
2. ホームページ
3. 学籍番号
4. 学生相談
5. 就職
6. 学生証
7. 証明書交付
8. 各種願提出
9. 奨学金
10. 揭 示
11. 教室の使用
12. 課外活動
13. 安全管理
14. 海外留学
15. 駐在員オフィス
16. 禁煙キャンパス
17. 自転車禁止
18. 図書館・読書室
19. LL-MM教室
20. コピーカラム
21. 心理健康センター
22. 交通機関の影響
23. 気象警報の影響

23 気象警報の発表と授業休講等の措置

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 学生の手帳
2. ホームページ
3. 学籍番号
4. 学生相談
5. 就職
6. 学生証
7. 証明書交付
8. 各種願提出
9. 奨学金
10. 掲 示
11. 教室の使用
12. 課外活動
13. 安全管理
14. 海外留学
15. 在エリソン オフィス
16. 禁煙 キャンパス
17. 自転車禁止
18. 図書館・ 読書室
19. LL-MM 教室
20. コンピュータ ルーム
21. 給食健康 精ビーター
22 交通機関 の影響
23. 気象警報 の影響

気象庁より大雨、洪水、暴風、暴風雪、大雪のいずれかの気象警報が発表された場合は、次の基準による。ただし、台風や大雪など、気象状況が時間の経過とともに悪化し、数時間後には警報の発令が十分予測される場合、全学休講の措置を取ることがある。

(1) 西早稲田キャンパス、戸山キャンパス、大久保キャンパス、日本橋キャンパスで実施される授業等については以下のとおりとする。

① 各時限の授業始業時間90分前から授業始業時間までの間に、23区西部が警報下に置かれた時間帯があった場合、その時限の授業を休講とする。

② 各時限の試験始業時間90分前から試験始業時間までの間に、23区西部が警報下に置かれた時間帯があった場合、その時限の試験は延期等の措置をとる。

(注) 気象警報上、東京地方は23区東部・23区西部・多摩北部・多摩南部・多摩西部に分けられており伊豆諸島・小笠原諸島は含まれない。新宿区・中央区は、23区西部に含まれる。「23区西部が警報下に置かれる」とは、①東京全域、②23区東部および23区西部、③23区西部、のいずれかに警報が発表された場合が該当する。多摩地区にのみ警報が発表されても休講等の措置はとらない。

(2) 所沢キャンパスで実施される授業等については以下のとおりとする。

① 各時限の授業始業時間90分前から授業始業時間までの間に、埼玉南部が警報下に置かれた時間帯があった場合、その時限の授業を休講とする。

② 各時限の試験始業時間90分前から試験始業時間までの間に、埼玉南部が警報下に置かれた時間帯があった場合、その時限の試験は延期等の措置をとる。

(注) 埼玉地方は埼玉南部（南中部・南東部・南西部）、埼玉北部（北東部・北西部）、秩父地方に分けられている。所沢は、埼玉南部（南中部）に含まれる。

(3) 東伏見キャンパスで実施される授業等については以下のとおりとする。

① 各時限の授業始業時間90分前から授業始業時間までの間に、多摩北部が警報下に置かれた時間帯があった場合、その時限の授業を休講とする。

② 各時限の試験始業時間90分前から試験始業時間までの間に、多摩北部が警報下に置かれた時間帯があった場合、その時限の試験は延期等の措置をとる。

(注) 東京地方は23区東部・23区西部・多摩北部・多摩南部・多摩西部に分けられており、東伏見（西東京市）は、多摩北部に含まれる。

(4) 本庄キャンパスで実施される授業等については以下のとおりとする。

① 各時限の授業始業時間90分前から授業始業時間までの間に、埼玉北部が警報下に置かれた時間帯があった場合、その時限の授業を休講とする。

② 各時限の試験始業時間90分前から試験始業時間までの間に、埼玉北部が警報下に置かれた時間帯があった場合、その時限の試験は延期等の措置をとる。

(注) 埼玉地方は埼玉南部（南中部・南東部・南西部）、埼玉北部（北東部・北西部）、秩父地方に分けられている。本庄は、埼玉北部（北西部）に含まれる。

上記の措置は、授業または試験始業時間90分前から授業または試験始業時間までの間に警報が解除された場合でも変更しない。該当キャンパスが警報下に置かれた場合は、科目設置個所が判断を行う。

なお、気象警報が発令された場合の休講等の措置については、各箇所のホームページ等で周知する。

なお、警報とは、「重大な災害の恐れがある場合」に発表される。
(警報の種類) 暴風雪、大雨、洪水、暴風、大雪、波浪、高潮

〈警報情報の入手方法〉

1. NTT電話サービス (TEL.177)
2. 気象庁お天気相談室 (TEL.03-3212-8341 但し、9:00~17:00)
3. 気象庁お天気案内<東京地方> (TEL.03-3212-3301 但し、9:00~17:00)
4. 熊谷地方気象台テレホンサービス <埼玉地方> (TEL.0485-26-8415)
5. (財)日本気象協会ホームページ (<http://tenki.or.jp/>)
6. テレビ・ラジオ等のマスメディア

I 特 徵

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 錄

1. 学生の手帖

2. ホームページ

3. 学籍番号

4. 学生相談

5. 就職

6. 学生証

7. 証明書交付

8. 各種願提出

9. 奨学金

10. 掲 示

11. 教室の使用

12. 課外活動

13. 安全管理

14. 海外留学

15. インターリン
オフィス

16. 禁煙
キャンパス

17. 自転車禁止

18. 図書館・
読書室

19. LL-MM
教室

20. コピーカー
ルーム

21. 総合健康
教育センター

22. 交通機関
の影響

23. 気象警報
の影響

V

I 特 徵

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 錄

付 錄

- | | |
|-------------------------------------|---------------------|
| 1 早稲田大学大学院学則（抜粋） | 1. 学則（抜粋） |
| 2 早稲田大学学位規則（抜粋） | 2. 学位規則（抜粋） |
| 3 大学院外国人特別研修生に関する規程 | 3. 留学生規則
に付する規定 |
| 4 大学院科目等履修生に関する規程 | 4. 科目等履修生
に関する規定 |
| 5 大学院研究生に関する規程 | 5. 研究生
に関する規定 |
| 6 基幹理工学研究科の理念・目的・教育目標とそれに伴う人材養成等の目的 | 6. 理念・目的・
教育目標 |
| 7 早分かりURL・電話番号 | 7. URL・
電話番号 |
| 8 キャンパスマップ | 8. キャンパス
マップ |
| 9 時間割制作成用紙 | 9. 時間割
制作用紙 |

1 早稲田大学大学院学則（抜粋）

第1章 総 則

(設置の目的)

第1条 本大学院は、高度にして専門的な学術の理論および応用を研究、教授し、その深奥を究めて、文化の創造、発展と人類の福祉に寄与することを目的とする。

(博士課程)

第2条 本大学院に博士課程をおく。

2 博士課程の標準修業年限は、5年とする。

3 博士課程は、これを前期2年、後期3年の課程に区分し、前期2年の課程を、修士課程として取り扱うものとする。

4 前項の前期2年の課程は、「修士課程」といい、後期3年の課程は、「博士後期課程」という。

5 修士課程の標準修業年限は、2年とする。ただし、教育研究上の必要があると認められる場合には、研究科、専攻または学生の履修上の区分に応じ、その標準修業年限は、2年を超えるものとすることができる。

(課程の趣旨)

第3条 博士後期課程は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い、またはその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力およびその基礎となる豊かな学識を養うものとする。

2 修士課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力または高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力を養うものとする。

(研究科の構成)

第4条 本大学院に次の研究科をおく、各研究科にそれぞれの専攻をおく。(基幹・創造・先進理工学研究科のみ抜粋)

研究科	博 士 課 程	
	修 士 課 程	博士後期課程
基幹理工学研究科	数学応用数理専攻 情報理工学専攻 機械科学専攻	数学応用数理専攻 情報理工学専攻 機械科学専攻
創造理工学研究科	建築学専攻 総合機械工学専攻 経営システム工学専攻 建設工学専攻 地球・環境資源理工学専攻	建築学専攻 総合機械工学専攻 経営システム工学専攻 建設工学専攻 地球・環境資源理工学専攻
先進理工学研究科	物理学及応用物理学専攻 化学・生命化学専攻 応用化学専攻 生命医科学専攻 電気・情報生命専攻 生命理工学専攻 ナノ理工学専攻	物理学及応用物理学専攻 化学・生命化学専攻 応用化学専攻 生命医科学専攻 電気・情報生命専攻 生命理工学専攻 ナノ理工学専攻

I 特 徵
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 学則(抜粋)
2. 学位規則(抜粋)
3. 研究科等に関する規定
4. 科目等履修生に関する規定
5. 研究生に関する規定
6. 理念・目的・教育目標
7. URL・電話番号
8. キャンパスマップ
9. 時間割作成用紙

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

(収容定員)

第5条 各研究科の収容定員は、次のとおりとする。(基幹・創造・先進理工学研究科のみ抜粋)

研究科	専 攻	修士課程		博士後期課程		合 計 収容定員
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	
基幹理工学研究科	数学応用数理専攻	90	180	25	75	255
	情報理工学専攻	130	260	30	90	350
	機械科学専攻	115	230	25	75	305
	計	335	670	80	240	910
創造理工学研究科	建築学専攻	120	240	20	60	300
	総合機械工学専攻	60	120	12	36	156
	経営システム工学専攻	80	160	15	45	205
	建設工学専攻	70	140	12	36	176
	地球・環境資源理工学専攻	95	190	15	45	235
	計	425	850	74	222	1,072
先進理工学研究科	物理学及応用物理学専攻	100	200	27	81	281
	化学・生命化学専攻	50	100	10	30	130
	応用化学専攻	95	190	28	84	274
	生命医科学専攻	60	120	15	45	165
	電気・情報生命専攻	125	250	20	60	310
	生命理工学専攻	70	140	15	45	185
	ナノ理工学専攻	65	130	15	45	175
	計	565	1,130	130	390	1,520

第2章 教育方法等

(教育方法)

第6条 本大学院の教育は、授業科目および学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）によって行うものとする。

(履修方法等)

第7条 各研究科における授業科目の内容・単位数および研究指導の内容ならびにこれらの履修方法は各研究科において別に定める。

2 学生の研究指導を担当する教員を指導教員という。

3 本大学院の講義、演習、実習などの授業科目の単位数の計算については、早稲田大学学則第12条および第13条の規定を準用する。

(他研究科または学部の授業科目の履修)

第8条 当該学術院教授会または研究科運営委員会（以下「研究科運営委員会等」という。）において、教育研究上有益と認めるときは、他の研究科の授業科目または学部の授業科目を履修させ、これを第13条、第13条の2または第13条の3に規定する単位に充当することができる。

(授業科目の委託)

第9条 当該研究科運営委員会等において教育研究上有益と認めるときは、他大学の大学院（外国の大学の大学院を含む。）とあらかじめ協議の上、その大学院の授業科目を履修させることができる。

2 前項の規定により履修させた単位は10単位を超えない範囲で、これを第13条に規定する単位に充当することができる。

(研究指導の委託)

第10条 当該研究科運営委員会等において、教育研究上有益と認めるときは、他大学の大学院または研究所（外国の大学の大学院または研究所を含む。）とあらかじめ協議の上、本大学院の学生にその大学院等において研究指導を受けさせることができる。ただし、修士課程の学生について認める場合には、当該研究指導を受ける期間は、1年を超えないものとする。

(単位の認定)

第11条 授業科目を履修した者に対しては、試験その他の方法によって、その合格者に所定の単位を与える。

(試験および成績評価)

第12条 授業科目に関する試験は、当該研究科運営委員会等の定める方法によって、毎学年末、またはその研究科運営委員会等が適当と認める時期に行う。

2 授業科目の成績は、A+, A, B, CおよびFの五級に分かれ、A+, A, BおよびCを合格とし、Fを不合格とする。ただし、研究指導等の成績については、PおよびQの二級に分かれ、Pを合格とし、Qを不合格とすることができる。

第3章 課程の修了および学位の授与

(修士課程の修了要件)

第13条 修士課程の修了の要件は、大学院修士課程に2年以上在学し、各研究科の定めるところにより、所要の授業科目について所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者について当該研究科運営委員会等が認めた場合に限り、大学院修士課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

(博士課程の修了要件)

第14条 博士課程の修了の要件は、大学院博士課程に5年（修士課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあっては、当該課程における2年の在学期間を含む。）以上在学し、各研究科の定めた所定の単位を修得し、所要の研究指導を受けた上、博士論文の審査および試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者について当該研究科運営委員会等が認めた場合に限り、大学院博士課程に3年（修士課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあっては、当該課程における2年の在学期間を含む。）以上在学すれば足りるものとする。

2 第2条第6項の規定により標準修業年限を1年以上2年未満とした修士課程を修了した者および第13条第1項ただし書の規定による在学期間をもって修士課程を修了した者の博士課程の修了の要件は、大学院博士課程に修士課程における在学期間に3年を加えた期間以上在学し、各研究科の定めた所定の単位を修得し、所要の研究指導を受けた上、博士論文の審査および試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者について当該研究科運営委員会等が認めた場合に限り、大学院博士課程に3年（修士課程における在学期間を含む。）以上在学すれば足りるものとする。

3 前2項の規定にかかわらず、第29条第2号、第3号および第4号の規定により、博士後期課程への入学資格に関し修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者が、博士後期課程に入学した場合の博士課程の修了の要件は、大学院博士課程に3年以上在学し、各研究科の定めた所定の単位を

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 学則(抜粋)
2. 学位規則 (抜粋)
3. 異人種属性 に関する規定
4. 科目等履修生 に関する規定
5. 研究生 に関する規定
6. 理念・目的・ 教育目標
7. URL・ 電話番号
8. キャンパス マップ
9. 時割 作成用紙

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

修得し、所要の研究指導を受けた上、博士論文の審査および試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者について当該研究科運営委員会等が認めた場合に限り、大学院博士課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

5 博士論文を提出しないで退学した者のうち、博士後期課程に3年以上在学し、かつ、必要な研究指導を受けた者は、退学した日から起算して3年以内に限り、当該研究科運営委員会等の許可を得て、博士論文を提出し、試験を受けることができる。

(博士学位の授与)

第15条 本大学院の博士課程を修了した者には、博士の学位を授与する。

(修士学位の授与)

第16条 本大学院の修士課程を修了した者には、修士の学位を授与する。

(課程によらない者の博士学位の授与)

第17条 博士学位は、第15条の規定にかかわらず、博士論文を提出して、その審査および試験に合格し、かつ、専攻学術に関し博士課程を修了した者と同様に広い学識を有することを確認された者に対しても授与することができる。

(学位規則)

第18条 この学則に定めるもののほか、学位に付記する専攻分野名その他学位に関し必要な事項は、早稲田大学学位規則（1976年教務達第2号）をもって別に定める。

第6章 入学・休学・退学・転学・専攻の変更および懲戒

(入学の時期)

第27条 入学時期は、毎学期の始めとする。

(修士課程および専門職学位課程の入学資格)

第28条 本大学院の修士課程および専門職学位課程は、次の各号の一に該当し、かつ、別に定める検定に合格した者について、入学を許可する。

- 一 大学を卒業した者
- 二 学校教育法（昭和22年法律第26号）第68条の2 第3項の規定により学士の学位を授与された者
- 三 外国において通常の課程による16年の学校教育を修了した者
- 四 文部科学大臣の指定した者
- 五 大学に3年以上在学し、または外国において学校教育における15年の課程を修了し、本大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
- 六 各研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達した者

(博士後期課程の入学資格)

第29条 本大学院の博士後期課程は、次の各号の一に該当し、かつ、別に定める検定に合格した者について入学を許可する。

- 一 修士または修士（専門職）もしくは法務博士（専門職）の学位を得た者
- 二 外国において修士もしくは修士（専門職）の学位またはこれに相当する学位を得た者
- 三 文部科学大臣の指定した者

1. 学則(抜粋)
2. 学位規則 (抜粋)
3. 異人間属性 に関する規定
4. 科目等履修生 に関する規定
5. 研究生 に関する規定
6. 理念・目的・ 教育目標
7. URL・ 電話番号
8. キャンパス マップ
9. 時間割 作成用紙

四 各研究科において、個別の入学資格審査により、修士または修士（専門職）もしくは法務博士（専門職）の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達した者
(入学検定の手続)

第30条 本大学院に入学を志願する者は、大学が定める期日までに、大学に別表1に定める入学検定料を納付し、必要書類を提出しなければならない。

(入学手続)

第31条 入学または転入学を許可された者は、大学が指定する入学手続期間内に、大学に入学金ならびに最初の学期に係る授業料、演習料、実験演習料および施設費等を納め、所定の書類を提出しなければならない。

(保証人)

第32条 保証人は、父兄または独立の生計を営む者で、確実に保証人としての責務を果し得る者でなければならない。

- 2 保証人として不適当と認めたときは、その変更を命ずることができる。
- 3 保証人は、保証する学生の在学中、その一身に関する事項について一切の責任を負わなければならない。
- 4 保証人が死亡し、またはその他の理由でその責務を果たし得ない場合には、新たに保証人を選定して届け出なければならない。

(在学年数の制限)

第33条 本大学院における在学年数は、修士課程および専門職学位課程にあっては4年、博士後期課程にあっては6年を超えることはできない。

- 2 前項の規定にかかわらず2年以外の標準修業年限を定める研究科、専攻または学生の履修上の区分における修士課程および専門職学位課程の在学年数にあっては当該標準修業年限の2倍を超えることはできないものとする。

(休学)

第34条 病気その他の理由で引き続き2か月以上出席することができない者は、休学願書にその理由を付し、保証人連署で所属する研究科の研究科長に願い出なければならない。

- 2 休学は当該学年限りとする。ただし、特別の事情がある場合には、引き続き休学を許可することができる。この場合、休学の期間は通算し修士課程および専門職学位課程においては2年、博士後期課程においては3年を超えることはできない。
- 3 前項の規定にかかわらず2年以外の標準修業年限を定める研究科、専攻または学生の履修上の区分における修士課程および専門職学位課程の通算年数にあっては当該標準修業年限を超えることはできない。
- 4 休学者は、学期の始めでなければ復学することができない。
- 5 休学期間は、在学年数に算入しない。

(専攻および研究科の変更等)

第35条 専攻および研究科の変更または転入学に関する願い出があった場合には、当該研究科運営委員会等の議を経てこれを許可することができる。

(任意退学)

第36条 病気その他の事故によって退学しようとする者は、理由を付し、保証人連署で願い出なければならない。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 学則(抜粋)
2. 学位規則 (抜粋)
3. 異人間属性 に関する規定
4. 科目等履修生 に関する規定
5. 研究生 に関する規定
6. 理念・目的・ 教育目標
7. URL・ 電話番号
8. キャンパス マップ
9. 時間割 作成用紙

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

(再入学)

第37条 正当な理由で退学した者が、再入学を志望したときは、選考の上これを許可することがある。この場合には、既修の授業科目の全部または一部を再び履修させることがある。

(懲戒)

第38条 学生が、本大学の規約に違反し、または学生の本分に反する行為があったときは懲戒処分に付することがある。

2 懲戒は、戒告、停学、退学の3種とする。

(处分退学)

第39条 次の各号の一に該当する者は、退学処分に付す。

- 一 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- 二 学業を怠り、成績の見込みがないと認められる者
- 三 正当の理由がなくて出席常でない者
- 四 本大学院の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

第7章 入学検定料・入学金・授業料・演習料・実験演習料および施設費等

(授業料等の納入期日)

第41条の2 学生は、第31条の場合を除き、次の各号に掲げる学期に係る授業料その他の学費（以下「授業料等」という。）を当該各号に掲げる日までに大学に納めなければならない。

- 一 前期
- 二 後期

2 前項の規定にかかわらず、修業年限を超えて在学する者の授業料等の額および納入期日は、細則で定める。

(授業料等の額)

第42条 入学金および授業料等の額は、「学費の納入と抹籍」とおりとする。

(納入学費の取扱)

第43条 既に納入した授業料およびその他の学費は、事情のいかんにかかわらず返還しない。

(中途退学者の学費)

第44条 学年の中途中で退学した者でも、その期の学費を納入しなければならない。

(抹籍)

第45条 学費の納入を怠った者は、抹籍することがある。

第8章 外国学生

(外国学生の入学選考)

第46条 外国において通常の課程による16年の学校教育を修了した者、またはこれに準ずる者は、第28条および第29条の規定にかかわらず、特別の選考を経て入学を許可することができる。

2 前項の規定による選考方法は、研究科長会の議を経て、各研究科運営委員会等が定める。

(外国学生の入学出願書類)

第47条 前条の規定により入学を志願する者は、必要な書類のほか、日本に在住して、学業に従事するこ

とが適法であることを証明するに足る、外国政府その他の官公署の証明書を提出しなければならない。
(外国学生の特別科目)

第48条 第46条および第47条の規定により入学を許可された者については、学修の必要に応じて、一般に配置された科目の一部に代え、またはこれに加えて特別の科目を履修させることができる。

2 前項の規定による特別の科目は、当該研究科運営委員会等が定める。

(外国で修学した日本人の取扱)

第49条 日本人であって、第28条第3号および第29条第2号に該当する者は、本章の規定によって取扱うことができる。

(外国人特別研修生)

第50条 第46条から第48条までの外国学生の規定にかかわらず、外国人であって本大学院において特定課題についての研究指導を受けようとする者があるときは、支障がない限り、外国人特別研修生として入学させることができる。

2 外国人特別研修生の入学手続・学費等については、別に規程をもって定める。

第9章 科目等履修生

(科目等履修生)

第51条 第27条から第29条までの規定によらないで、本大学院において授業科目を履修しようとする者または特定課題についての研究指導を受けようとする者があるときは、科目等履修生として入学させることができる。

(科目等履修生の種類)

第52条 官公庁、外国政府、学校、研究機関、民間団体等の委託に基づく者を委託履修生という。

2 前項に定める履修生以外の者を一般履修生という。

(科目等履修生の選考)

第53条 科目等履修生として入学を志願する者については、正規の学生の修学を妨げない限り、選考の上入学を許可する。

(科目等履修生の履修証明書)

第54条 科目等履修生が履修した科目について試験を受け、合格したときは、単位を授与し、本人の請求によって証明書を交付する。

(科目等履修生の学費、入学手続等)

第55条 科目等履修生は、別表に従い、入学金、聴講料および研究指導料を納めなければならない。

2 科目等履修生の入学手続等は、別に規程をもって定める。

第55条 別表 (基幹・創造・先進 理工学研究科)

入学金		70,000円
授業科目 聴講料	1単位につき	42,900円
研究指導料	修士(各期)	214,500円
	博士(各期)	166,750円

注 1. 本大学卒業生および本大学院修了者の入学金は免除する。

2. 聴講料および研究指導料の合計額は、当該年度における第1年度の授業料と施設費の合計額を上限とする。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

(正規学生の規定準用)

第56条 科目等履修生については、第3章ならびに第33条および第34条を除き、正規の学生に関する規定を準用する。

第10章 研究生

(研究生)

第57条 本大学院博士後期課程に6年間在学し、博士論文を提出しないで退学した者のうち、引き続き大学院において博士論文作成のため研究指導を受けようとする者があるときは、研究生として入学させることができる。

(研究生の選考)

第58条 研究生として研究指導を受けようとする者については、正規の学生の修学を妨げない限り、選考の上入学を許可する。

(研究生の入学手続、学費および在学期間等)

第59条 研究生の入学手続、学費および在学期間等については別に規程をもって定める。

(正規学生の規定準用)

第60条 研究生については、本章の規定および別に定める規程によるほか、正規の学生に関する規定を準用する。

第11章 交流学生

(交流学生の受託)

第61条 他大学の大学院の学生で、協定に基づき本大学院の授業科目を履修しようとする者または特定課題についての研究指導を受けようとする者を、交流学生として受け入れることができる。

(交流学生の受入手続、学費等)

第62条 交流学生の受入手続および学費等については、当該大学との協定による。

1. 学則(抜粋)
2. 学位規則(抜粋)
3. 残り期間性に関する規定
4. 科目等履修生に関する規定
5. 研究生に関する規定
6. 理念・目的・教育目標
7. URL・電話番号
8. キャンパスマップ
9. 時間割作成用紙

2 早稲田大学学位規則（抜粋）

(目的)

第1条 この規則は、早稲田大学学則（昭和24年4月1日示達。以下「大学学則」という。）および早稲田大学大学院学則（1976年教務達第1号。以下「大学院学則」という。）に定めるもののほか、早稲田大学が授与する学位について必要な事項を定めることを目的とする。

(学位)

第2条 本大学において授与する学位は、学士、博士、修士および専門職学位とする。

3 博士の学位は次のとおりとする。（基幹・創造・先進理工学研究科のみ抜粋）

研究科	専攻	学位（専攻分野）
基幹理工学研究科	数学応用数理専攻	博士（工学）または博士（理学）
	情報理工学専攻	博士（工学）
	機械科学専攻	
創造理工学研究科	建築学専攻	博士（工学）または博士（建築学）
	総合機械工学専攻	博士（工学）
	経営システム工学専攻	
	建設工学専攻	
	地球・環境資源理工学専攻	博士（工学）または博士（理学）
先進理工学研究科	物理学及応用物理学専攻	博士（工学）または博士（理学）
	化学・生命化学専攻	博士（理学）
	応用化学専攻	博士（工学）
	生命医科学専攻	博士（工学）または博士（理学）
	電気・情報生命専攻	
	生命理工学専攻	
	ナノ理工学専攻	

4 大学は、前項に定める学位のほか博士（学術）の学位を授与することができる。

5 修士の学位は次のとおりとする。（基幹・創造・先進理工学研究科のみ抜粋）

研究科	専攻	学位（専攻分野）
基幹理工学研究科	数学応用数理専攻	修士（工学）または修士（理学）
	情報理工学専攻	修士（工学）
	機械科学専攻	
創造理工学研究科	建築学専攻	修士（工学）または修士（建築学）
	総合機械工学専攻	修士（工学）
	経営システム工学専攻	
	建設工学専攻	
	地球・環境資源理工学専攻	修士（工学）または修士（理学）
先進理工学研究科	物理学及応用物理学専攻	修士（工学）または修士（理学）
	化学・生命化学専攻	修士（理学）
	応用化学専攻	修士（工学）
	生命医科学専攻	修士（工学）または修士（理学）
	電気・情報生命専攻	
	生命理工学専攻	
	ナノ理工学専攻	

I 特徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付録

1. 学則（抜粋）
2. 学位規則（抜粋）
3. 異人間修業に関する規定
4. 科目等履修生に関する規定
5. 研究生に関する規定
6. 理念・目的・教育目標
7. URL・電話番号
8. キャンパスマップ
9. 時間割作成用紙

(博士学位授与の要件)

第4条 博士の学位は、大学院学則第14条により博士課程を修了した者に授与する。

2 前項の規定にかかわらず、博士の学位は本大学院の博士課程を経ない者であっても、大学院学則第17条により授与することができる。

(修士学位授与の要件)

第6条 修士の学位は、大学院学則第13条により修士課程を修了した者に授与する。

(課程による者の学位論文の受理)

第7条 本大学院の課程による者の学位論文は、修士課程および専門職学位課程については2部を、博士後期課程については3部を作成し、それぞれに論文概要書を添えて研究科長に提出するものとする。ただし、研究科長は、審査に必要な部数の追加を求めることができる。

2 研究科長は、前項の学位論文を受理したときは、学位を授与できる者か否かについて研究科運営委員会の審査に付さなければならない。

(課程によらない者の学位の申請)

第8条 第4条第2項の規定により学位の授与を申請する者は、学位申請書に博士論文3部、論文書概要書および履歴書を添え、その申請する学位の専攻分野を指定して、総長に提出しなければならない。

(課程によらない者の学位論文の受理)

第9条 前条の規定による博士論文の提出があったときは、総長は、その論文を審査すべき研究科運営委員会の議を経て、受理するか否かを決定し、受理することに決定した学位論文について審査を付託するものとする。

2 研究科長は、受理の可否および審査のため必要と認めるときは、前条に規定する論文の部数のほか、必要な部数を追加して提出させることができる。

(学位論文)

第10条 博士、修士および専門職学位の学位論文は1篇に限る。ただし、参考として、他の論文を添付することができる。

2 前項により、一旦受理した学位論文等は返還しない。

3 審査のため必要があるときには、学位論文の副本、訳文、模型または標本等の資料を提出せざることある。

(審査料)

第11条 第9条の規定により、学位論文を受理したときは、学位の申請者にその旨を通知し、別に定める審査料を納付させなければならない。ただし、一旦納付した審査料は返還しない。

(審査員)

第12条 研究科運営委員会は、第7条第2項の規定により、学位論文が審査に付されたとき、または第8条および第9条の規定により、学位の審査を付託されたときは、当該研究科の教員のうちから、3人以上の審査員を選任し、学位論文の審査および試験または学識の確認を委託しなければならない。

2 研究科運営委員会は必要と認めたときは、前項の規定にかかわらず本大学の教員または教員であった者を、学位論文の審査および試験または学識の確認の審査員に委嘱することができる。

3 研究科運営委員会は必要と認めたときは、第1項の規定にかかわらず他の大学院または研究所等の教員等に学位論文の審査員を委嘱することができる。

1. 学則(抜粋)
2. 学位規則(抜粋)
3. 研究科運営委員会に関する規定
4. 科目等履修生に関する規定
5. 研究生に関する規定
6. 理念・目的・教育目標
7. URL・電話番号
8. キャンパスマップ
9. 時間割作成用紙

4 研究科運営委員会は、第1項の審査員のうち1人を主任審査員として指名しなければならない。ただし、研究科委員会が必要と認めたときは、第2項の審査員のうち、本大学の教員である者を主任審査員として指名することができる。

(審査期間)

第13条 修士学位および専門職学位の授与にかかる論文の審査および試験は、論文提出後3か月以内に、また博士学位の授与にかかる論文の審査、試験および学識の確認は、論文の提出または学位の授与の申請を受理した後、1年内に終了しなければならない。ただし、特別の理由があるときは、研究科運営委員会の議を経てその期間を延長することができる。

(面接試験)

第14条 第8条の規定により学位の授与を申請した者については、博士論文の審査のほか、面接試験を行う。この試験の方法は研究科運営委員会において定める。

2 前項の規定にかかわらず、研究科運営委員会が特別の理由があると認めたときは、面接試験を行わないことができる。

(試験)

第15条 大学院学則第14条による試験の方法は、研究科運営委員会において定める。

(学識確認の方法)

第16条 大学院学則第17条による学識の確認は、博士論文に関連ある専攻分野の科目および外国語についての試問の方法によって行うものとする。

2 前項の規定にかかわらず研究科運営委員会が特別の理由があると認めた場合は、学識の確認のための試問の一部または全部を免除することができる。

(審査結果の報告)

第17条 博士の学位に関する審査が終了したときは、審査員は速やかに審査の結果および評価に関する意見を記載した審査報告書を研究科運営委員会に提出しなければならない。

(学位論文の判定)

第18条 前条の審査の報告に基づき、研究科運営委員会は無記名投票により、合格、不合格を決定する。ただし、特別の場合には、他の方法によることができるものとし、その方法については、研究科長会の承認を得なければならない。

2 前項の判定を行う研究科運営委員会には、当該研究科運営委員の3分の2以上の出席を要し、合格の判定については、出席した委員の3分の2以上の賛成がなければならない。この場合の定足数の算定に当たっては、外国出張中の者、休職中の者、病気その他の事由により、引き続き2か月以上欠勤中の者、および所属長の許可を得て出張中の者は、当該研究科運営委員の数に算入しない。

3 前項の規定にかかわらず、研究科運営委員会が必要と認めたときは、当該研究科運営委員以外の第12条に規定する審査員を学位論文判定の審議に加えることができるものとする。

4 研究科運営委員会が第1項の合否を決定したときは、研究科長はこれを総長に報告しなければならない。

(学位の授与)

第19条 総長は、前条第3項の規定による報告に基づいて学位を授与し、学位記を交付する。

2 学位を授与できない者には、その旨を通知する。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

(論文審査要旨の公表)

第20条 博士の学位を授与したときは、その論文の審査要旨は、大学が適当と認める方法によってこれを公表する。

(学位論文の公表)

第21条 博士の学位を授与された者は、授与された日から1年以内に、当該博士論文を、書籍または学術雑誌等により、公表しなければならない。ただし、学位を授与される前に、印刷公表されているときは、この限りではない。

- 2 前項の規定にかかわらず博士の学位を授与された者は、やむを得ない理由がある場合には、研究科運営委員会の承認を受けて、当該論文の全文に代えて、その内容を要約したものを印刷公表することができる。この場合、大学はその論文の全文を求めて応じて閲覧に供するものとする。
- 3 第1項の規定により、公表する場合は、当該論文に「早稲田大学審査学位論文（博士）」と、また前項の規定により公表する場合は、当該論文の要旨に、「早稲田大学審査学位論文（博士）の要旨」と明記しなければならない。

(学位の名称)

第22条 本大学の授与する学位には、早稲田大学と付記するものとする。

(学位授与の取消)

第23条 本大学において博士、修士または専門職学位を授与された者につき、不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したときは、総長は、当該研究科運営委員会および研究科長会の議を経て、既に授与した学位を取り消し、学位記を返還させ、かつ、その旨を公表するものとする。

- 2 研究科運営委員会において前項の議決を行う場合は、第18条第2項の規定を準用する。

3 大学院外国人特別研修生に関する規程

(根拠および目的)

第1条 この規程は、早稲田大学大学院学則（1976年教務達第1号。以下「学則」という。）第50条（外国人特別研修生）の規定に基づき、外国人特別研修生（以下「特別研修生」という。）の取り扱いについて定める。

- 2 特別研修生については、この規程によるほか、正規学生に関する学則の規定を準用する。

(受入資格)

第2条 特別研修生として入学することのできる者は、外国の大学において、修士課程修了者またはこれと同等以上の学力を有し、科目等履修生として受け入れることが適當でないと認められる者に限る。

(入学時期)

第3条 特別研修生の入学時期は、学期の始めとする。ただし、事情により学期の中途においても、入学を許可することができる。

(出願手続)

第4条 特別研修生として入学を志願する者は、必要書類に選考料を添えて、当該研究科委員長に願い出なければならない。

- 2 選考料は、科目等履修生として入学を志願する者の額と同額とする。

(科目の履修)

1. 学則(抜粋)
2. 学位規則(抜粋)
3. 外国人特別研修生に関する規定
4. 科目等履修生に関する規定
5. 研究生に関する規定
6. 理念・目的・教育目標
7. URL・電話番号
8. キャンパスマップ
9. 時間割作成用紙

第5条 指導教員が必要と認めた場合は、特別研修生に本大学院または学部に配置されている授業科目の一部を履修させることができる。

(在学期間)

第6条 特別研修生の在学期間は、当該学年限りとし、引き続き特別研修生として入学を志願する場合には、改めて願い出なければならない。

(証明書)

第7条 特別研修生が研究報告書を提出したときは、当該研究科は適当と認めた者に対して証明書を発行することができる。

(入学手続)

第8条 特別研修生として入学を許可された者は、所定の学費等を納入して、学生証の交付を受けなければならない。

(学費等)

第9条 特別研修生の入学金および研究指導料は次のとおりとする。

入学金 70,000円

研究指導料 前・後期 166,750円

(博士後期課程)

2 特別研修生に対し、演習料または実験演習料、学会費、学友会費等を正規の学生に準じて徴収することができる。

3 在学期間が6か月以内の場合の研究指導料および演習料または実験演習料等は半額とし、6か月を超える場合は全額とする。

4 既に納入した入学金、研究指導料および演習料または実験演習料等は、事情のいかんにかかわらず返還しない。

(選考料および入学金の免除)

第10条 特別研修生であった者が、引き続き特別研修生として入学を志願し許可された場合には、選考料および入学金を免除する。

I 特 徵
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 学則(抜粋)
2. 学位規則 (抜粋)
3. 異人研修等 に関する規定
4. 科目等研修生 に関する規定
5. 研究生 に関する規定
6. 理念・目的・ 教育目標
7. URL・ 電話番号
8. キャンパス マップ
9. 時間割 作成用紙

4 大学院科目等履修生に関する規程

(根拠および目的)

第1条 この規程は、早稲田大学大学院学則（1976年教務達第1号）第55条（科目等履修生の学費、入学手続等）の規定に基づき、科目等履修生の取り扱いについて定める。

(入学時期)

第2条 科目等履修生の入学時期は、学期の始めとする。ただし、委託履修生は、事情により学期の中途においても、入学を許可することができる。

(履修単位)

第3条 科目等履修生が聴講できる授業科目の制限単位は、次のとおりとする。

1. 学則(抜粋)
 2. 学位規則(抜粋)
 3. 残人問題性に関する規定
 4. 科目等履修生に関する規定
 5. 研究生に関する規定
 6. 理念・目的・教育目標
 7. URL・電話番号
 8. キャンパスマップ
 9. 時間割作成用紙
- 一 授業科目のみの場合 20単位
 - 二 授業科目および研究指導をあわせて受講する場合 10単位

(出願手続)

第4条 科目等履修生として入学を志願する者は、所定の願書に、履歴書、最近撮影の写真および選考料2万5千円を添えて、当該研究科長に願い出なければならない。ただし、委託履修生は、このほかに、官公庁、外国政府、学校、研究機関、民間団体等の委託書を添付しなければならない。

2 前項前段の規定にかかわらず、独立研究科の選考料は3万円とする。

(在籍期間)

第5条 科目等履修生の在籍期間は、入学した年度の3月15日までとする。ただし、授業科目により特別な在籍期間が定められている場合は、当該期間とする。

(入学手続)

第6条 科目等履修生として入学を許可された者は、入学金および次の区分による所定の学費を納入して、学生証の交付を受けなければならない。

- 一 授業科目のみの場合 聴講料
- 二 研究指導のみの場合 研究指導料
- 三 授業科目および研究指導の場合 聴講料および研究指導料

(選考料および入学金の免除)

第7条 本大学大学院正規学生であった者が、引き続き科目等履修生として入学を志願し許可された場合には、選考料および入学金を免除する。

2 前項の規定により科目等履修生となった者が、引き続き科目等履修生として入学を志願し許可された場合には、選考料および入学金を免除する。

3 第1項の規定によらない科目等履修生が、引き続き科目等履修生として入学を志願し許可された場合には、2年間に限り選考料および入学金を免除する。

(入学金、聴講料、研究指導料)

第8条 科目等履修生の入学金・聴講料および研究指導料は、別に定める。

(演習料、実験演習料、学友会費、学会費等)

第9条 科目等履修生に対し、演習料または実験演習料、学友会費、学会費等を正規の学生に準じて徴収することができる。

5 大学院研究生に関する規程

(根拠および目的)

第1条 この規程は、早稲田大学大学院学則（1976年教務達第1号）第59条（研究生の入学手続、学費および在学期間等）の規定に基づき、研究生の取り扱いについて定める。

(出願手続)

第2条 研究生として入学を志願する者は、所定の願書により、当該研究科長に願い出なければならない。
(入学手続、学費)

第3条 研究生として入学を許可された者は、次の区分による所定の学費を納入して、学生証の交付を受けなければならない。

- 一 研究指導料 博士後期課程の新3年生の授業料の半額
- 二 演習料・実験演習料 博士後期課程の新3年生の演習料または実験演習料の全額。ただし、その年度の前期において学位を取得した場合は半額
- 2 前項の学費の分納期は、次のとおりとする。

研究指導料 第1期 全額

演習料・実験演習料 第1期 半額 第2期 半額

(在学期間)

第4条 研究生の在学期間は1年とする。ただし、研究指導を継続して受けようとするときは、原則として2回に限り延長することができる。

2 在学期間の延長を希望する者は、毎年度の終りまでに、理由を付して、当該研究科長に願い出なければならない。

3 在学期間の延長の許可は、当該研究科運営委員会の議を経て、研究科委員長が行う。

(学友会費、学会費等)

第5条 研究生に対し、学友会費、学会費等を正規の学生に準じて徴収することができる。

I 特 徵
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 学則(抜粋)
2. 学位規則 (抜粋)
3. 異人種属性 に関する規定
4. 科目等履修生 に関する規定
5. 研究生 に関する規定
6. 理念・目的・ 教育目標
7. URL・ 電話番号
8. キャンパス マップ
9. 時間割 作成用紙

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 学則(抜粋)
2. 学位規則 (抜粋)
3. 留入学修業性 に関する規定
4. 科目等履修生 に関する規定
5. 研究生 に関する規定
6. 理念・目的・ 教育目標
7. URL・ 電話番号
8. キャンパス マップ
9. 時間割 作成用紙

6 基幹理工学研究科の理念・目的・教育目標とそれに伴う人材養成等の目的

(1) 理念・目的・教育目標

基幹理工学研究科は、「高度にして専門的な学術の理論および応用を研究、教授し、その深奥を究めて、文化の創造、発展と人類の福祉に寄与する」ことを目的として設置された。早稲田大学の教旨に「学問の活用を本旨と為す」とある。これは、基礎のための基礎学問ではなく、基礎学問を応用まで発展させ社会に貢献することの大切さを示しており、本研究科設置の目的は本学の教旨、すなわち建学の精神に沿ったものとなっている。

急速な進展を遂げる現代社会の中で、「教育・研究・社会貢献」という大学に課せられた使命を全うしていくためには、私学として果たすべき役割を問い合わせながら、世界最先端の研究に裏打ちされた大学院教育をより一層強化していく必要がある。そのため、「学部・大学院の統合教育」を基軸に据え、高度に展開する多彩な社会的要件に応えるために柔軟な組織・体制へ転換するとともに、学内理工系機関との連携を積極的にとりながら、広く社会に対して開かれた理工系大学院を目指す。

本研究科に設置された博士後期課程は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い、またはその他の高度に専門的な業務に従事するのに必要な高度な研究能力およびその基礎となる豊かな学識を養うことを教育の目標としている。また、修士課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専門分野における研究能力または高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力を養うことを目標とする。

(2) 人材育成等の目的

上述のような理念・目的および教育目標の下、本研究科は高度な専門的知識を有し、さらに「創造性、国際性に富んだ人材を育成する」ことを目指し、以下のような取り組みを行う。

大学院教育は、各専攻分野における専門性を深めることを第一の目標とするが、近年、学問・科学技術は特化されますます細分化されており、独創的な研究と展開をリードできる人材を育成していくためには、異分野の知識の習得が極めて重要となっている。そこで、特化されたものを意識的に再度融合・連携させることが必要となってきた。このような現状を踏まえ、本研究科では、「相乗的融合」をキーワードとする研究・教育を進める。国際性豊かな人材を育てるためには、適切な語学教育とともに、英語論文の作成や国際会議への参加等を通じた実践的な教育も重要である。これを支援・促進する施策として、「国際会議論文発表補助費」を設ける。

理工系は、常に変化の激しい時代の要請に柔軟に対応しながら、「科学技術創造立国・日本」を支えリードする技術者・研究者の育成を推進していかなければならない。本研究科の掲げた理念・目的・教育目標および人材育成等の目的は、このような理工系大学に課せられた使命を適切に果たして行くことを目指して設定されたものである。

7 早分かり URL・電話番号

要項やホームページを見ても理解できない場合のために、下記を紹介。

内 容	担当・掲載場所等	電話番号	URL、メールアドレス等
科目登録、試験、成績、証明書、サークル、学費、授与金、留学、休学、退学等修学に関わることで質問したい。	教学支援課	03-5286-3002	gakumu@sci.waseda.ac.jp
入試、転科、教員の研究内容、カリキュラム体系、ホームページ、広報等に関わることで質問したい。	業務開発・入試課	03-5286-3003	gyoumu@sci.waseda.ac.jp
構内掲示、自転車駐輪、会議室管理・予約、TA、各種研究助成制度等で質問したい。	総務課	03-5286-3000	
Waseda-netの使用方法、パソコン全般について質問したい。	理工メディア	03-5286-3049	helpdesk@mse.waseda.ac.jp
英語の成績、履修方法について知りたい。	英語教育センターホームページ		http://www.sci.waseda.ac.jp/office/ENGLISH/
勉強の進め方や卒業に必要な科目等、個人的にクラス担任と相談したい。	理工学術院ホームページ		http://www.sci.waseda.ac.jp/office/index-j.files/classtannin.html
特定の教員と連絡が取りたい。	理工学術院ホームページ		http://www.sci.waseda.ac.jp/office/index-j.files/classtannin.html
休講情報を知りたい。	理工学術院ホームページ		http://www2.sci.waseda.ac.jp/LOCAL/kyuko/ (学内のみ参照可能)
端末などを廃棄したい。物が壊れている。	技術企画総務課	03-5286-3500	
怪我をした。頭痛がする。	総合健康教育センター 大久保分室	03-5286-3021	
留学生で、学生生活が不安だ I am an international student. Student life is uneasy.	国際交流支援室 International exchange support room	03-5286-3145	gakumu@sci.waseda.ac.jp
連絡バスの時刻表が知りたい。	理工学術院ホームページ		http://www.sci.waseda.ac.jp/koho/bus.html
図書館の開室時間等について知りたい。	理工学図書館	03-5286-3084	riko-tosh@list.waseda.jp
生協の営業時間、生協での書籍販売、カフェテリアについて質問したい。	早稲田大学生協	03-3200-4206	info@wcoop.ne.jp
上記には当てはまらないが、質問がある。	理工学統合事務所代表	03-5286-3000	info@sci.waseda.ac.jp

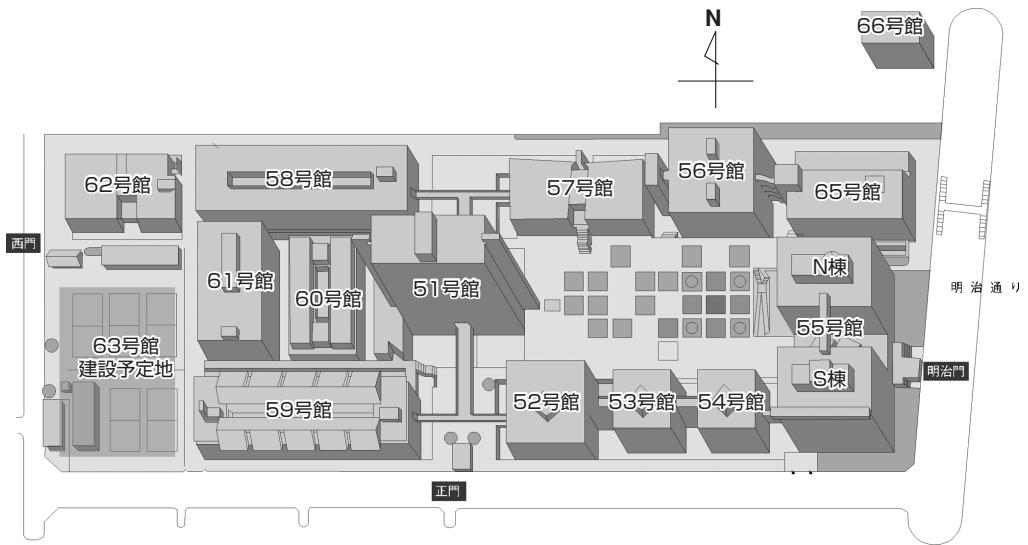
I 特 徵
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 学則(抜粋)
2. 学位規則(抜粋)
3. 異人間修業に関する規定
4. 科目等履修生に関する規定
5. 研究生に関する規定
6. 理念・目的・教育目標
7. URL・電話番号
8. キャンパスマップ
9. 時間割作成用紙

8 キャンパスマップ

- I 特徴
- II 沿革と概要
- III 研究科要項
- IV 学生生活
- V 付録

- 1. 学則(抜粋)
- 2. 学位規則(抜粋)
- 3. 残人弱者に対する規定
- 4. 科目等履修生に関する規定
- 5. 研究生に関する規定
- 6. 理念・目的・教育目標
- 7. URL・電話番号
- 8. キャンパスマップ
- 9. 時間割作成用紙



物理計測センターラボ 55号館S棟地下1階	理工学統合事務所 51号館1階 総合健康教育センター大久保分室 51号館西側1階	第1端末室 Windows系 PC 106台 59号館4階南側	LL/MM教室(第1, 第2) Windows系 PC 88台 52号館地下1階
マイクロテクノロジーラボ 55号館N棟地下1階	学生相談室 51号館西側1階	第2端末室 Windows系 PC 44台 59号館4階南側	情報閲覧室 Windows系 PC 10台 53号館地下1階
映像情報ラボ 55号館4階	理工学図書館 51号館地下1階	第3端末室(E, W) Windows系 PC 82台 56号館1階104	製図・CAD室 Windows系 PC 208台 57号館1階
映像情報ライブラリー 54号館地下1階04	学生読書室 52号館, 53号館地下1階	第4端末室 UNIX系 PC 70台 61号館3階東側	
環境保全センター 55号館N棟地下1階	理工メディアセンター 59号館4階西	第5端末室 UNIX系 PC 55台 61号館3階中央	
生協購買部, 書籍部 57号館地下1階	学生ラウンジ 51号館西側2階	505端末室 Windows系 PC 24台 56号館5階505	
生協カフェテリア 56号館地下1階			
生協レストラン 57号館地下1階			

学科・専攻別連絡事務室一覧

基幹理工	創造理工	先進理工
数学学科 数学応用数理専攻 51号館17階07A	建築学科 建築学専攻 55号館N棟2階01	物理学科 物理学及応用物理学専攻 55号館N棟2階01
応用数理学科 数学応用数理専攻 60号館2階04	総合機械工学科 総合機械工学専攻 60号館2階08	応用物理学科 物理学及応用物理学専攻 55号館N棟2階01
情報理工学科 情報理工学専攻 60号館2階04	経営システム工学科 経営システム工学専攻 51号館13階00	化学・生命化学科 化学・生命化学専攻 65号館4階01A
機械科学・航空学科 機械科学専攻 60号館2階08	社会環境工学科 建設工学専攻 51号館17階07B	応用化学科 応用化学専攻 65号館4階01B
電子光システム学科 51号館10階07	環境資源工学科 地球・環境資源理工学専攻 51号館13階00	生命医学科 生命医科学専攻 51号館10階07
表現工学科 51号館04階00	知財・産業社会政策領域	電気・情報生命工学 電気・情報生命専攻 55号館N棟2階01
	国際文化領域	生命理工学専攻 55号館N棟2階01
		ナノ理工学専攻 55号館N棟2階01

I 特 徵

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 錄

1. 学則(抜粋)

2. 学位規則
(抜粋)

3. 異人間属性
に関する規定

4. 科目等履修生
に関する規定

5. 研究生
に関する規定

6. 理念・目的・
教育目標

7. URL・
電話番号

8. キャンパス
マップ

9. 時割
作成用紙

9 時間割作成用紙

- I 特 徴
 - II 沿革と概要
 - III 研究科要項
 - IV 学生生活
 - V 付 錄
1. 学則(抜粋)
2. 学位規則
(抜粋)
3. 外国人留学生
に関する規定
4. 科目等履修生
に関する規定
5. 研究生
に関する規定
6. 理念・目的・
教育目標
7. URL・
電話番号
8. キャンパス
マップ
9. 時間割
作成用紙

【1年生】

	月曜		火曜		水曜	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
1限						
2限						
3限						
4限						
5限						
6限						

【2年生】

	月曜		火曜		水曜	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
1限						
2限						
3限						
4限						
5限						
6限						

I 特 徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 錄

1. 学則(抜粋)
2. 学位規則
(抜粋)
3. 異人種属性
に関する規定
4. 科目等履修生
に関する規定
5. 研究生
に関する規定
6. 理念・目的・
教育目標
7. URL・
電話番号
8. キャンパス
マップ
9. 時間割
作成用紙

【1年生】

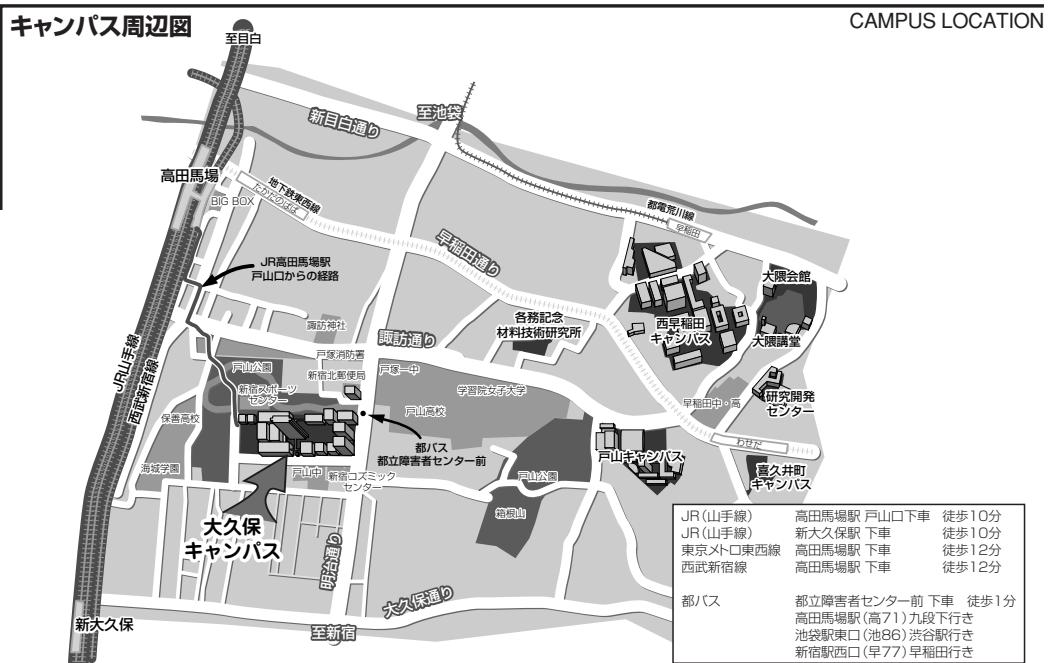
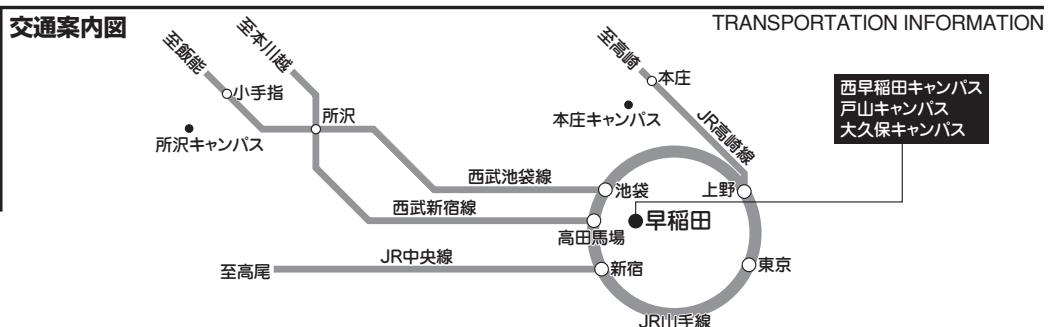
	木曜		金曜		土曜	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
1限						
2限						
3限						
4限						
5限						
6限						

【2年生】

	木曜		金曜		土曜	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
1限						
2限						
3限						
4限						
5限						
6限						

OKUBO CAMPUS

早稲田大学大久保キャンパス



早稻田大学大学院 基幹理工学研究科
Graduate School of Fundamental Science and Engineering, Waseda University

〒169-8555 東京都新宿区大久保3-4-1
<http://www.sci.waseda.ac.jp/>
info@sci.waseda.ac.jp

印 刷：株式会社研恒社
表紙デザイン：薮野 健